



江戸名所圖會

十五



丘氏根記

根現社

上野より五町とありと隔て乾の方よりあり

祭神

素盞鳥尊

伊産上神

相殿

左山王権現

伊珠権守神

当社境内始

甲府公

伊館の地あり

根津権現ハ

大樹の

文昭公

伊産土神より

伊宮系近あり

其後右の伊館

の地

成賜り

宝永年中

新に当社を

伊遠管あり

て結構あり

隨身

掛る

根津大権現

の額ハ

大明院宮

公辨法親王

の古蹟あり

舊地ハ

駘本

坂の上元

根津といふ

ところあり

祭禮ハ

備年

観音堂

奉社の

左山王権現

の傍ハ

慈覺大師

の他といふ

当社境内

假山泉水

等と云ふ

草木花

四季と

逐て絶

實ハ遊觀

の地

あり

殊に

門前ハ

貸食店

を多く

て清人と

懇ハ

聲聞

新あり

普賢山

法住寺

谷中三

崎あり

淨土宗

より

奉尊ハ

阿弥陀

安置

瓦山ハ

幡隨意

院有

願和尚

あり

其願

一派

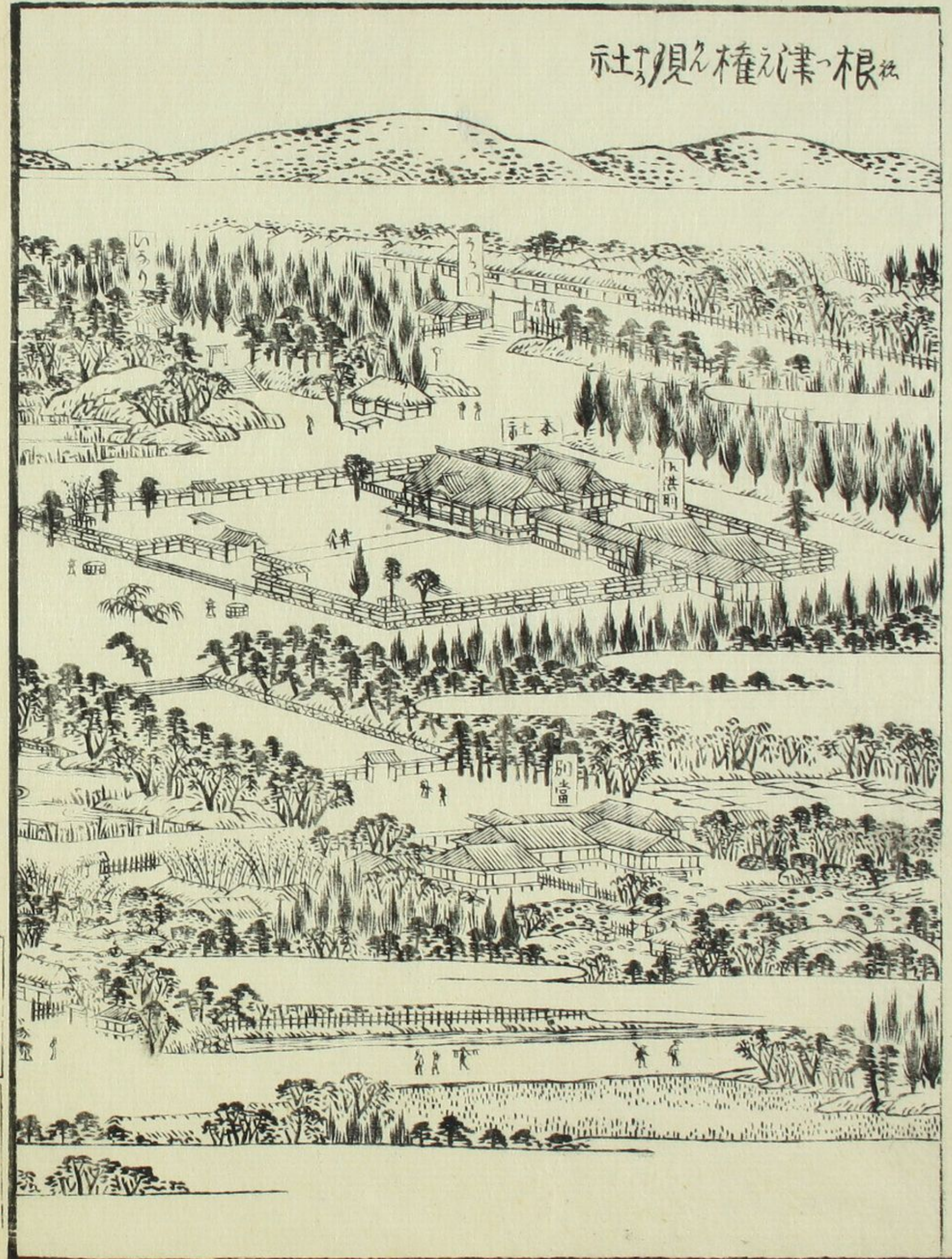
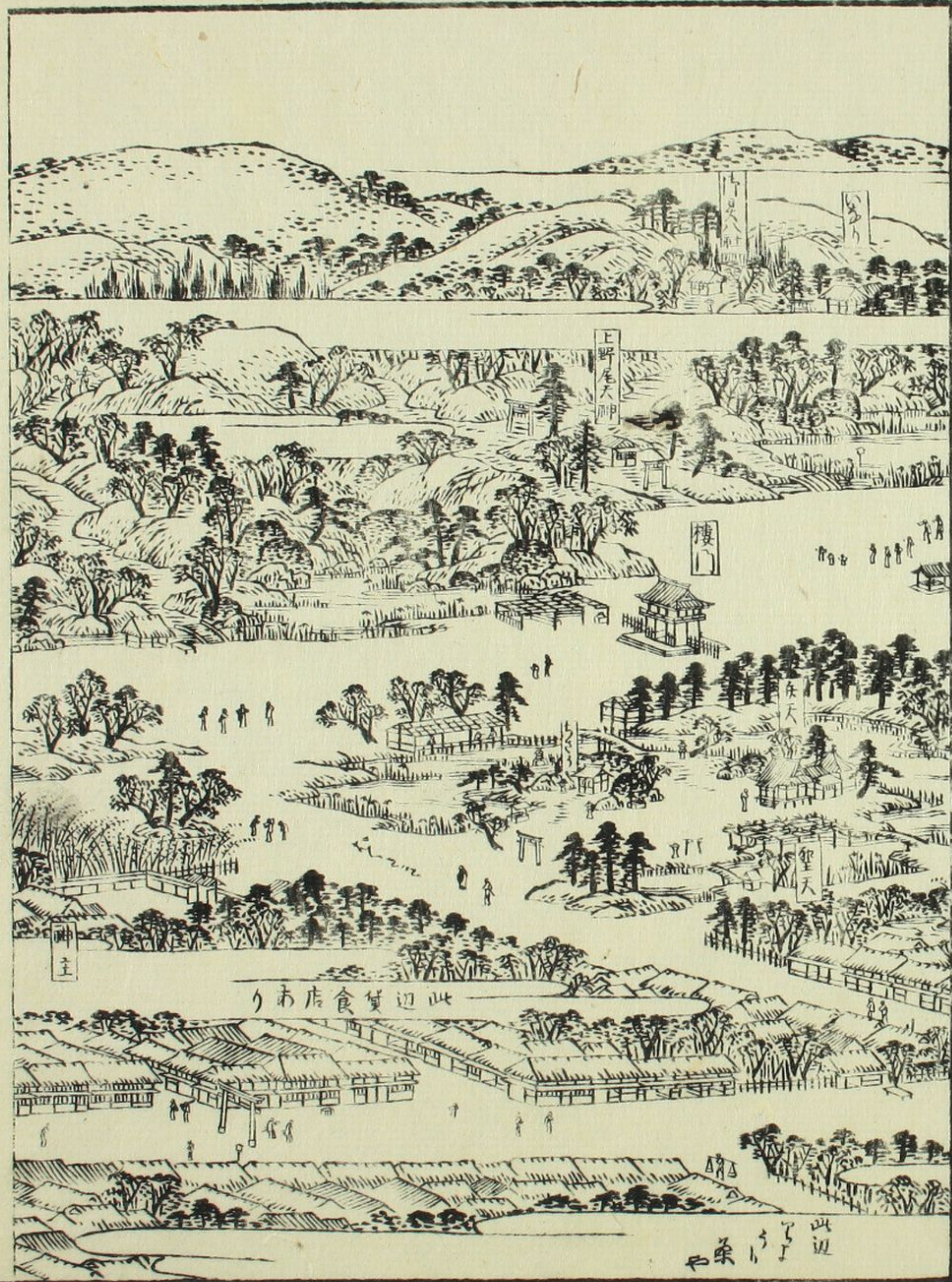
の高

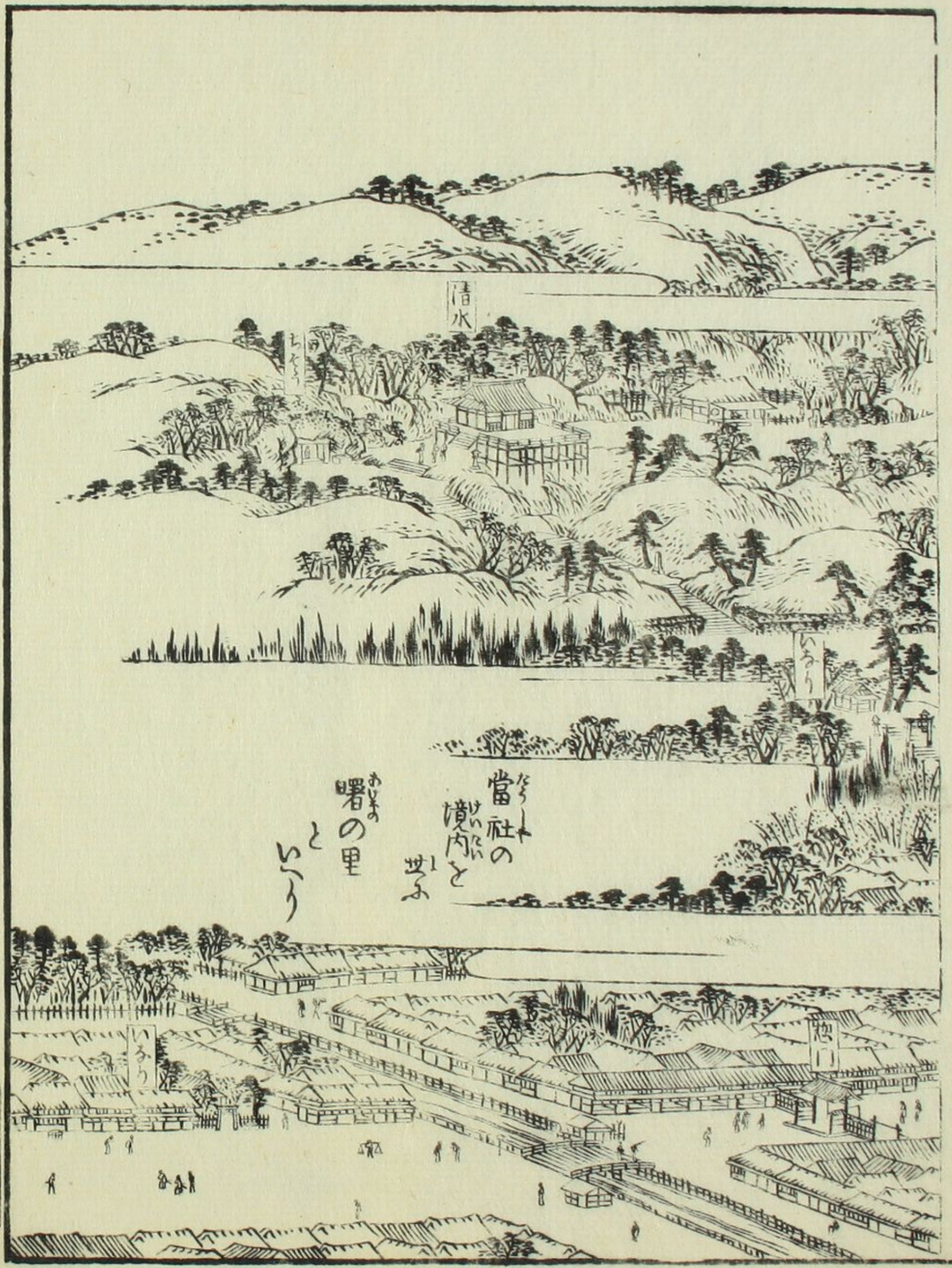
徳より

て貴

武蔵國八王子郷成内氏

石





賤の信仰女がら以宝曆年中當寺と草創其砌貴依男女と擇り以
 土破と運ふ草一貫毎に十念と授くこよとひて老若と厭は
 日々群集し不日成就せり此地清浄無塵の佛界ありて六時
 禮讚の聲ハ杳々と共寂々なり

日登山妙林寺

法住寺の西小川と隔てあり日蓮宗よりて天文年

中の草創あり元山日秀上人とと正徳年中故ありて天台宗に改め
 られ後海法印と中興元山と

田中辨財天土

昔八田の暇道の草堂に安置ありて弘安六年に内海何某始て此社と

顧地藏尊

感得の靈像あり

靈驗不動尊

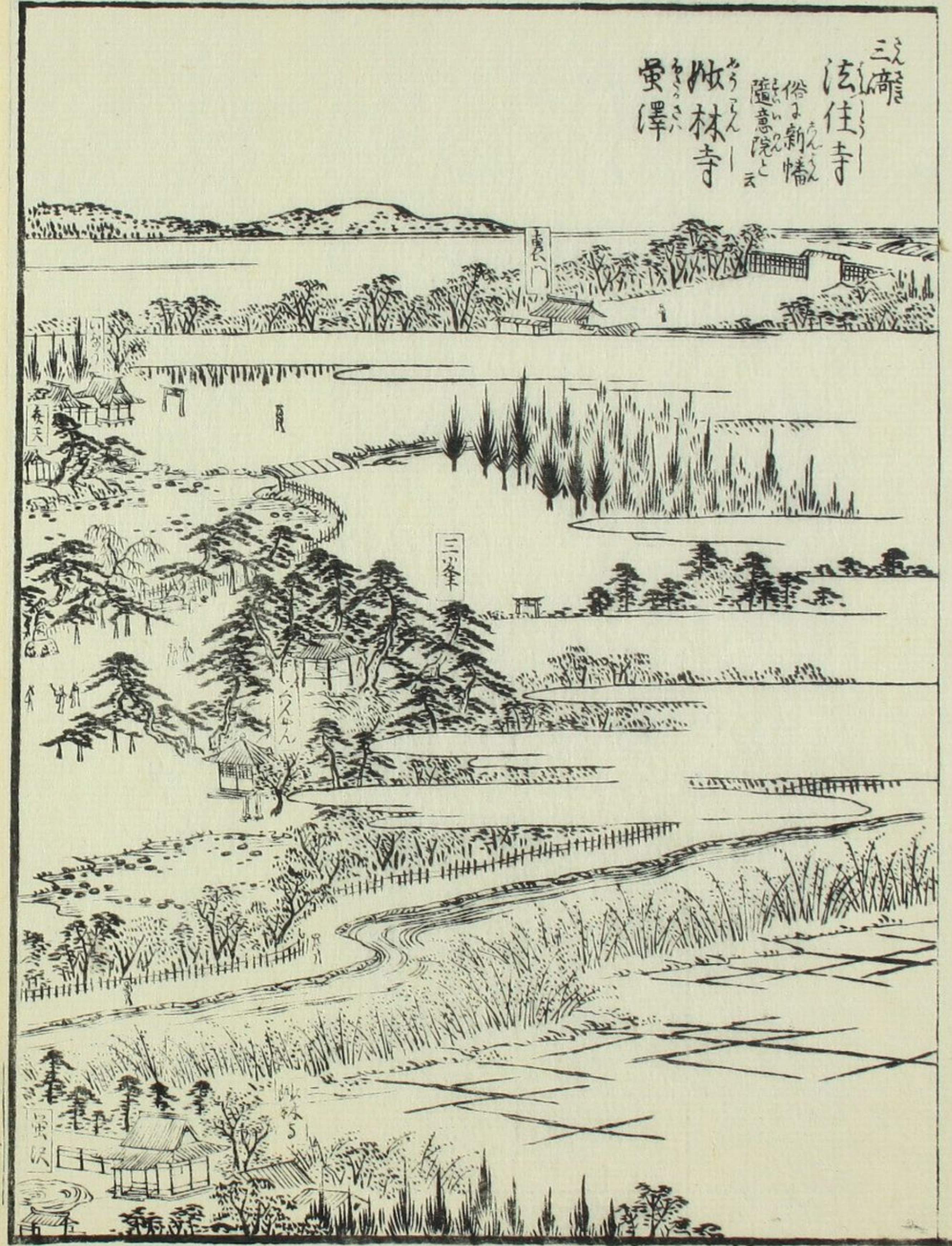
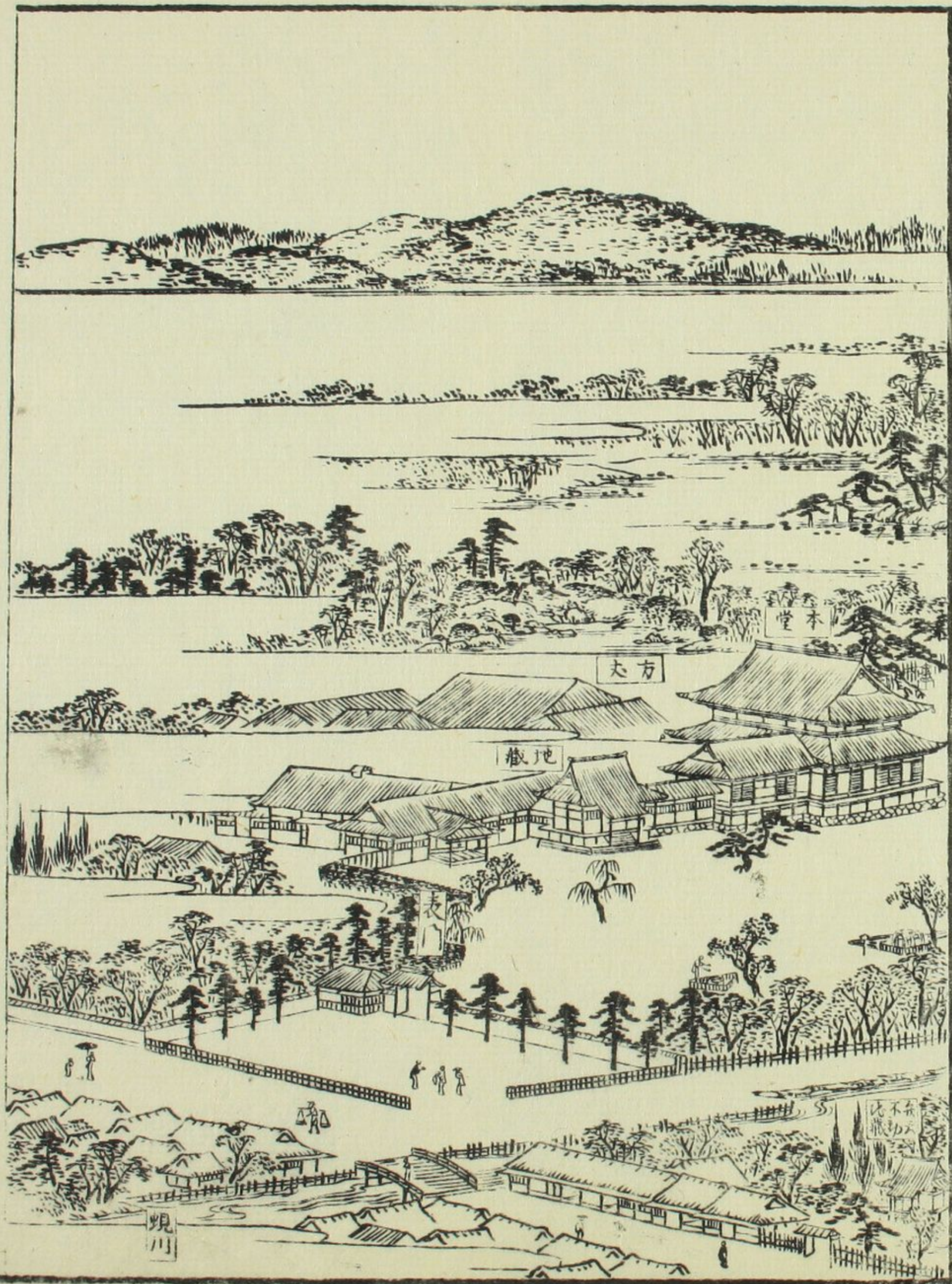
延享三年七月八日淺草川より出たて像あり作長一丈七寸

讚曰金利石堅神惠佛救 授福與德 靈驗不動

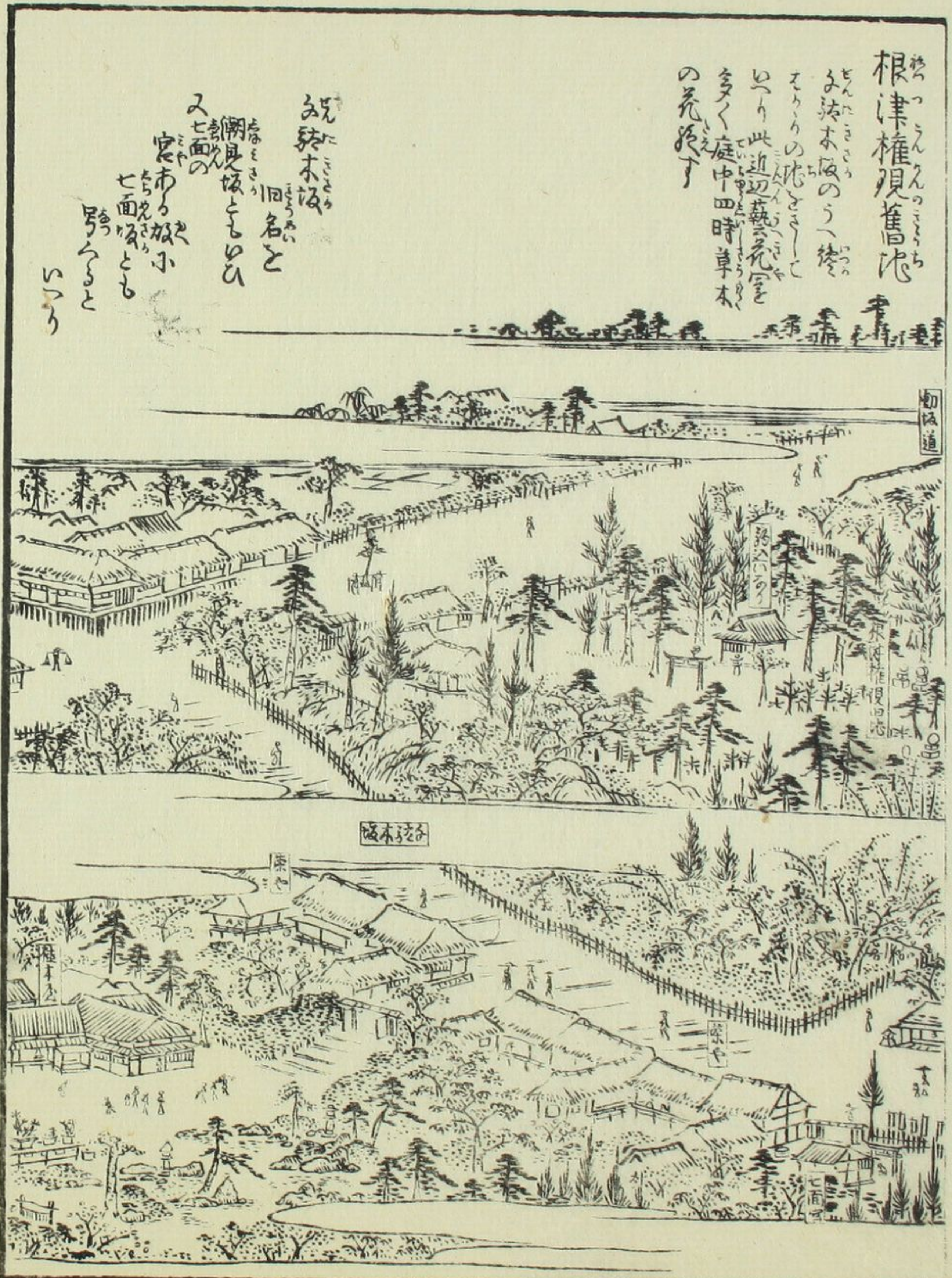
大同二丁亥四月

空海

大觀音 千騎本七軒寺町光源寺といへる浄宗の寺内あり和刀に
 長谷寺の寫よりて十一面觀音の立像あり又同堂内あり千騎の



根津権現舊池
 此池の地は終
 久の地と云ふ
 此道邊藝文堂
 多く庭中四時草木
 の花は了す



観音と安貞貞享年中江府の高人丸吉兵衛かゝり是と建立
 大覚山浄心寺 丸小町町あり日蓮宗より太田資高の妻と傳

國府基よて合戦の時資高とめれり妻の親なり一太田下野守
 散して後妻此奉と聞大は歎き葬禮はんころよいとあは後髪告とさり

父の菩提の爲は武只神田は浄心寺と建立はと云
 神田はありしと小石川より川され後後今の地より川さる

按るに寺傳に太田資高の室は小糸氏綱の女よりて康資の母あり依康資母儀の
 ため天文十九年當寺を平川より草創はといへり傳の條よし天文十九年とあれは
 寺説を以て是と云ふを返て考証を以て當寺の傳傳今ハ亡ひたり後深草元政
 あり草山集は出る故よくに峯く

浄心寺鐘銘並序
 古者論州創守文二者之難矣蓋無州創莫成守文
 無守文莫遂草創然者皆難矣武江浄心寺山号
 大覚開基祖曰成乃以天文十九年創之而九世
 祖曰日真方此之時江府大火因移地於小石川大

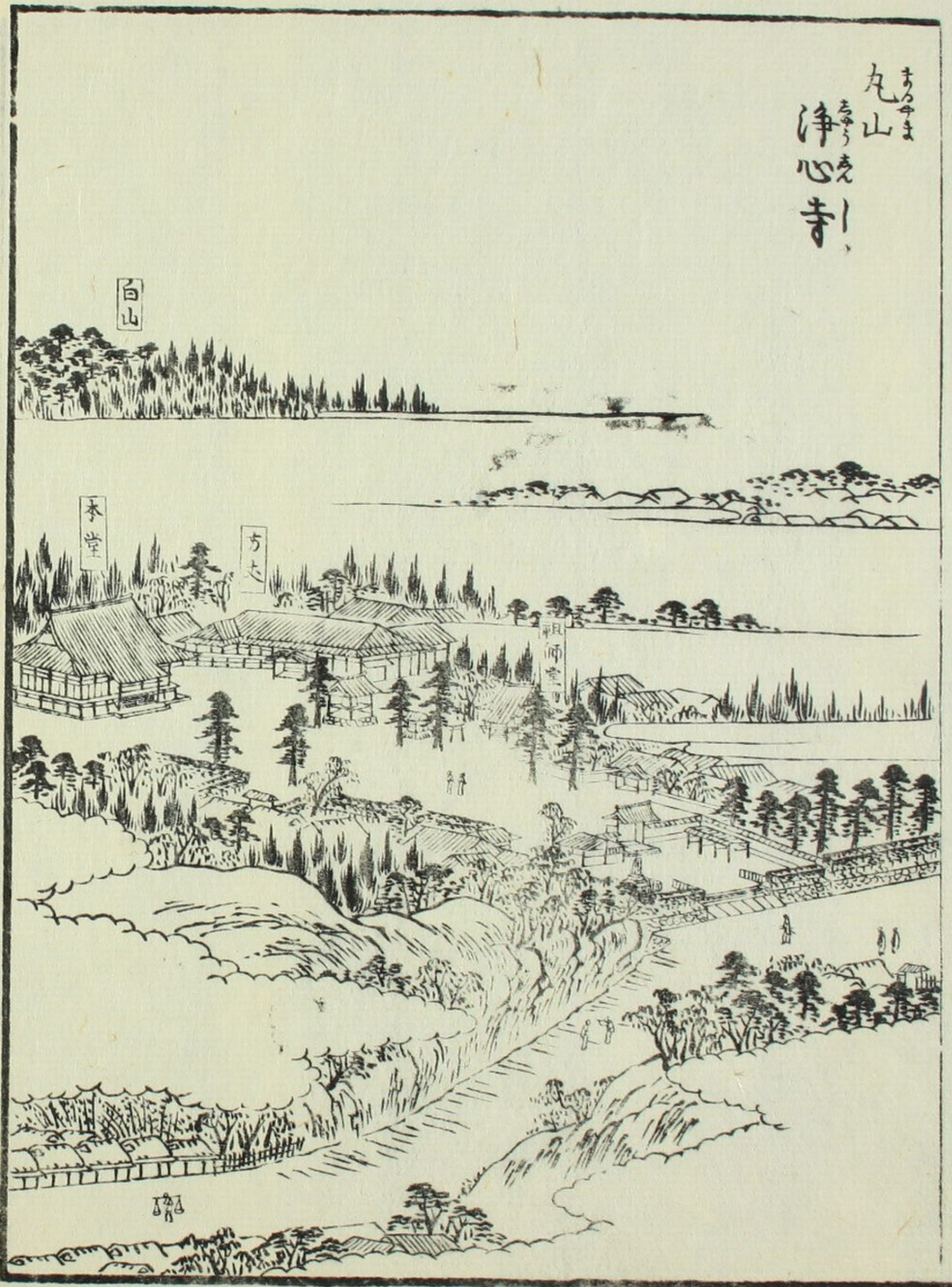


駒込
大観音

揚再興之新成蓋淨圀野感未發佛殿方夫及厨庫書
 院而乎不礎塵利者我覺智呀照之如々々
 此也觀之古府内之遠近而城之外之再興新基者我觀彼久遠猶如由今
 也且以昔今日之開地基易昔日之再興新基者我觀彼久遠猶如由今
 古之所謂云竹創守文二難相之興新基者我觀彼久遠猶如由今
 有斯人焉有竹創守文二難相之興新基者我觀彼久遠猶如由今
 矣鐘成乞銘於斯處焉以而固陋欲不推任處興新基者我觀彼久遠猶如由今
 淨心爲真因於大余雖以而固陋欲不推任處興新基者我觀彼久遠猶如由今
 以名山與寺因於大余雖以而固陋欲不推任處興新基者我觀彼久遠猶如由今
 如常寂光始已大余雖以而固陋欲不推任處興新基者我觀彼久遠猶如由今
 斯備晚成器音使擊耳露鼓共莊嚴無明睡
 善哉東漸土音聲作佛事

目赤不動堂 駒込溪香町あり 伊豆赤目山の住職萬行和尚圓圖の時
 供奉せし不動の尊像屢靈換あるも仍て其威靈と恐れ別今これ
 像以彫刻して彼像と眼籠とす則赤目不動と号し此取一宇と建
 立せり 始十餘年本草堂とひすひて安んずるを寛永の頃大樹津放尊の御
 のありし後年終目黒目白の對して目赤と改むるとそ
 旧地あり

丸山
浄心寺



諏訪山吉祥寺

同取壹所とくり北の方より曹洞の禪宗より江戸

檀林の一かり因て稱檀林と号し 諏訪明林の敷地を破り諏訪山と奉尊ハ

釋迦如來寔山ハ青巖周陽禪師あり當寺ハ長祿年中右田持資

江戸株と管一頃かこ井と堰一土中より吉祥増上の文字

あふ銅印と得そり依古瑞ありとて一字と建直は吉祥庵と號く

其後北条幕下遠山丹波守中興ハ天正年中所株

所造営の時 神田の墓と賜ひ寺願等を附せられ遂に

明暦三年今此地より

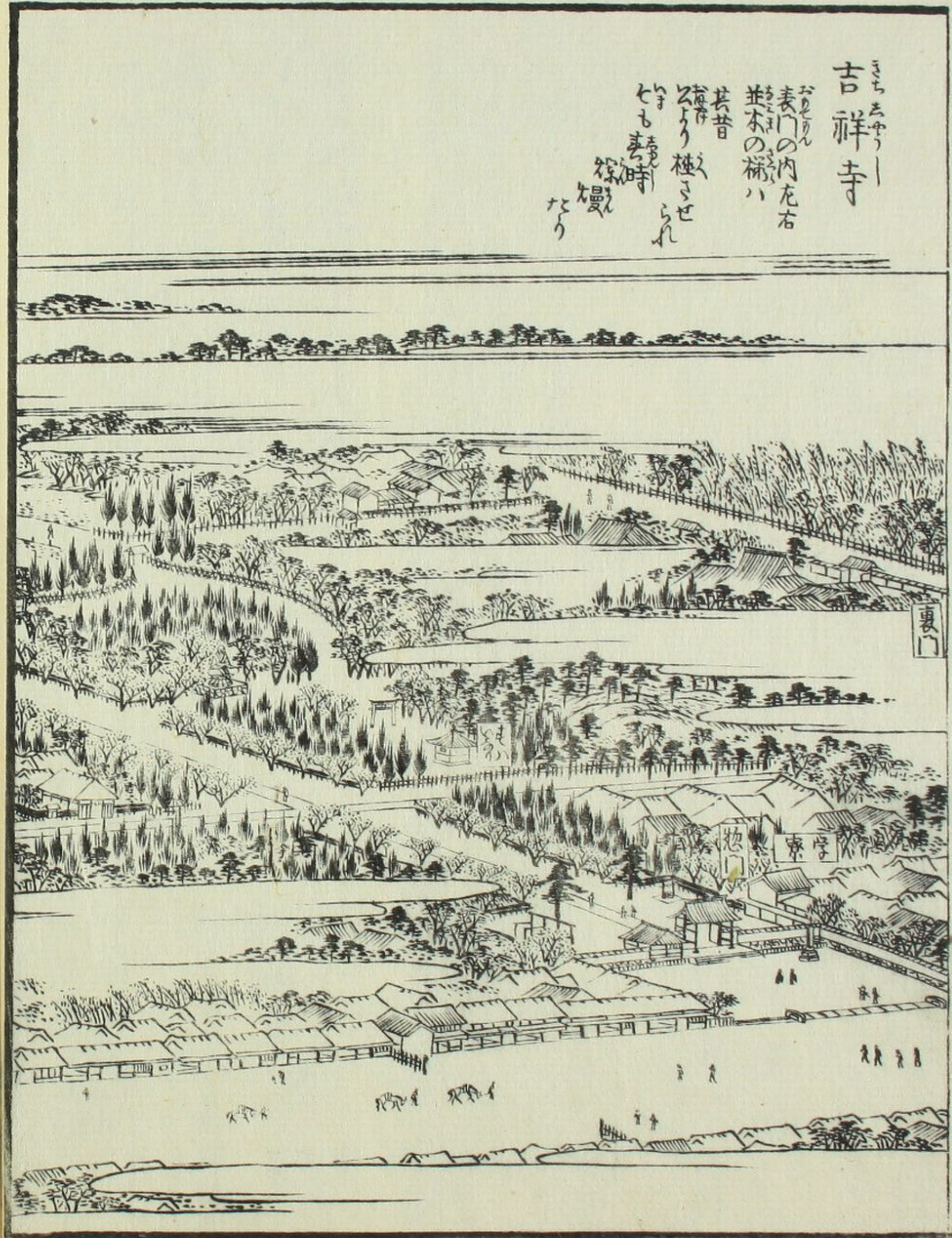
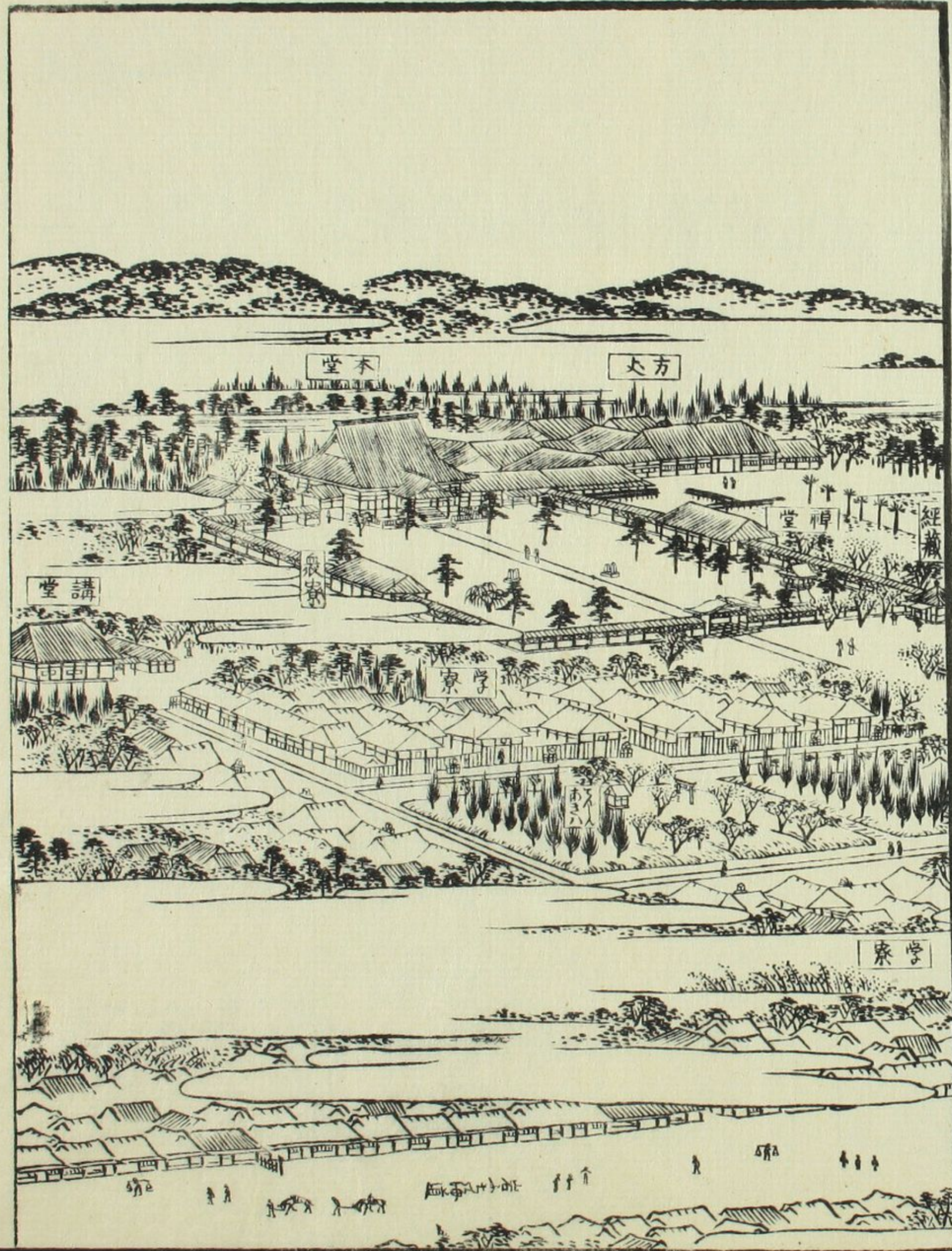
駒込神明宮

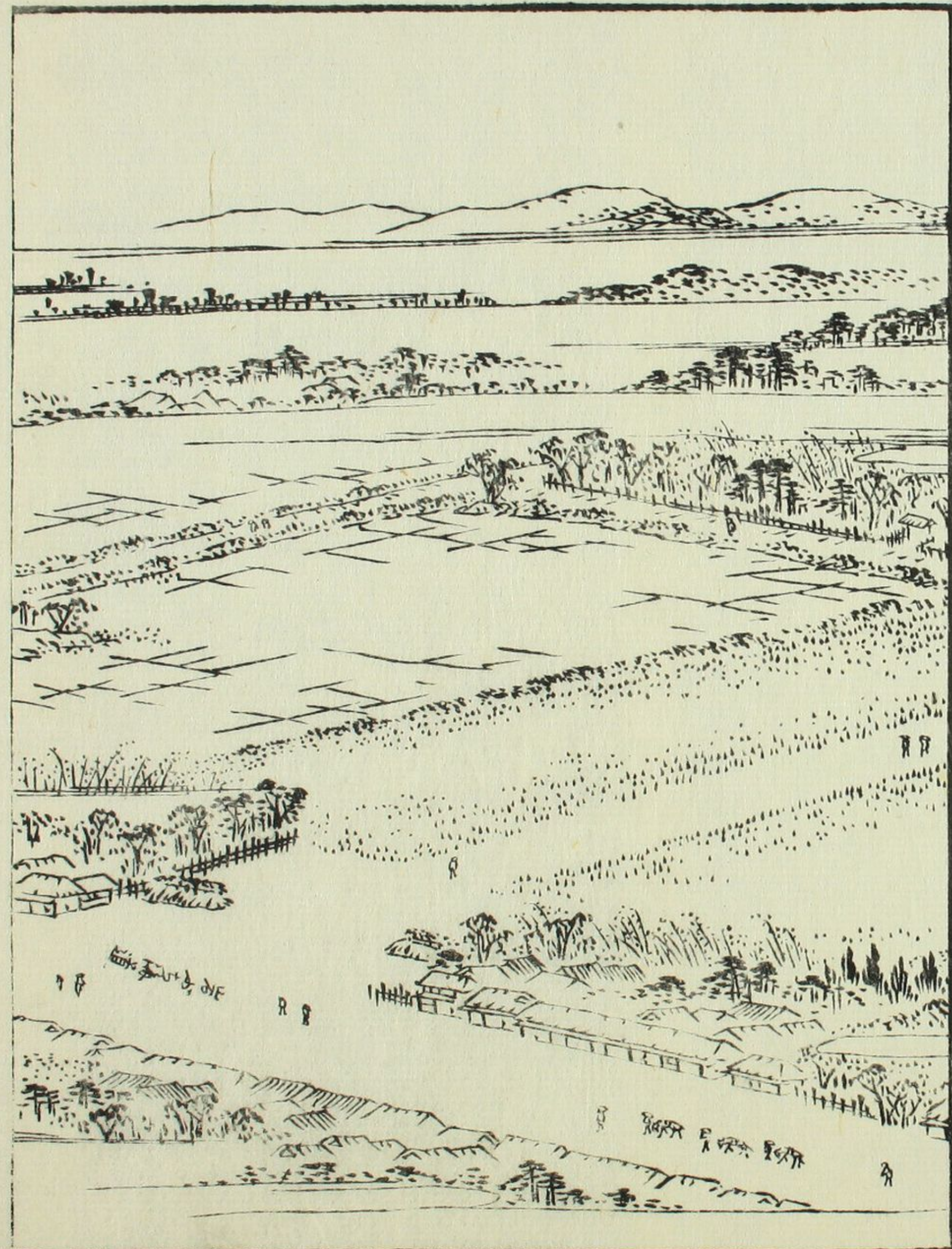
同野ニ下とくり北の方より社傳云文治五年右大將

頼朝公奥羽征伐の時靈夢の事あり々其朝此ありは社地と

求め索り一松株の枝は大麻のかけれるあり公是と拜しは是靈

夢の應ありとて直其地は神明宮と勸請以と云 其後多くは星

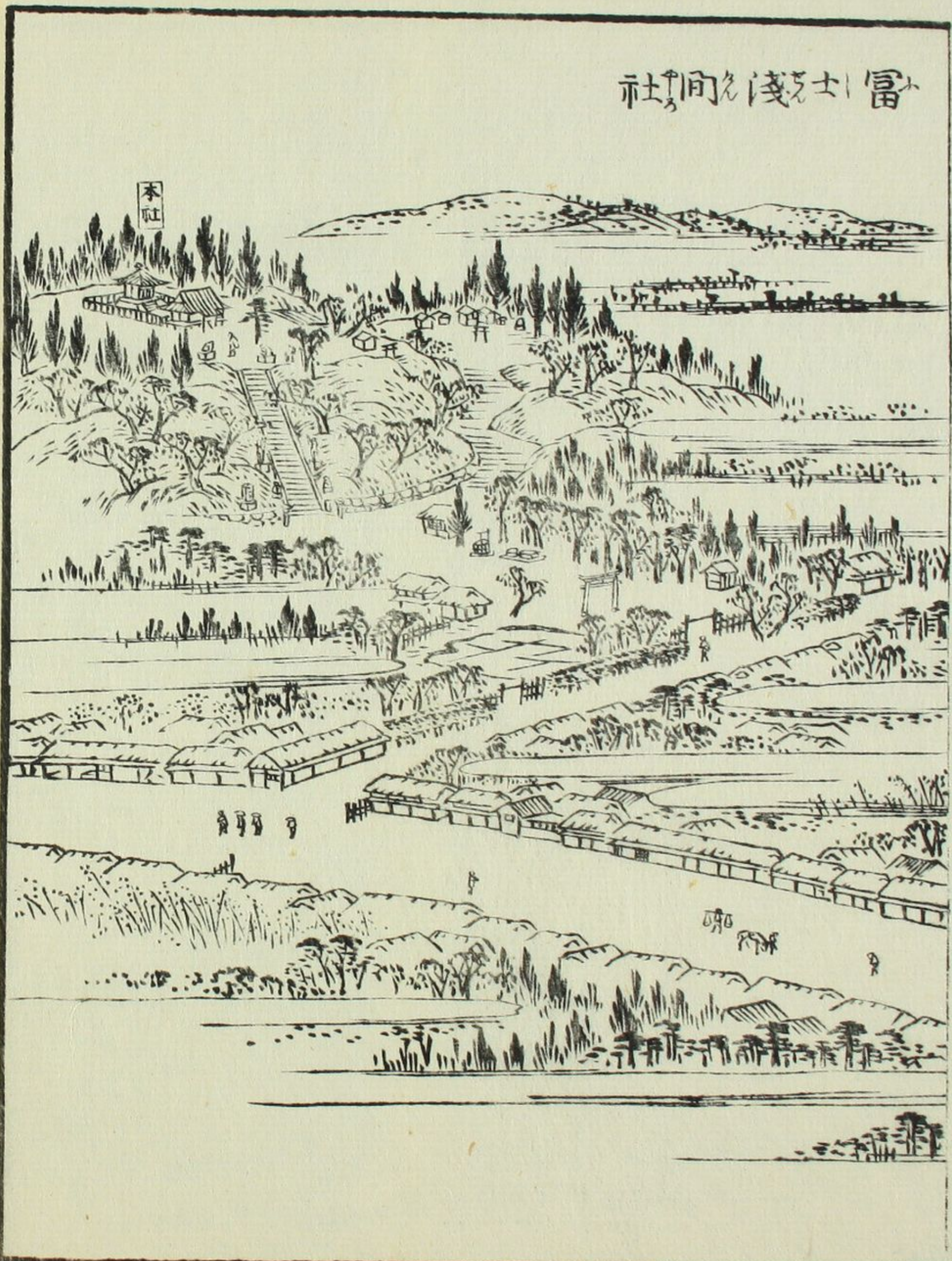




駒込神明宮



富士浅間社



霜と狂て破壊よとよひ一城慶安の頃堀丹波守利直再興あり
 例祭ハ九月十六日あり

富士浅間社 同取あり祭神本花元那媛一坐あり往古靈蹟あるふ
 仍て是と鎮坐といへり當社昔ハ奉々加の御侯の後園あり一寛永
 年中今の地ニ迂さる毎歲六月朔日祭禮至て前夜より清人多く道
 傍ニえり此地の産物として麥菓細工の蛇ありひよも倉庫五文の網
 あとと強鬮く

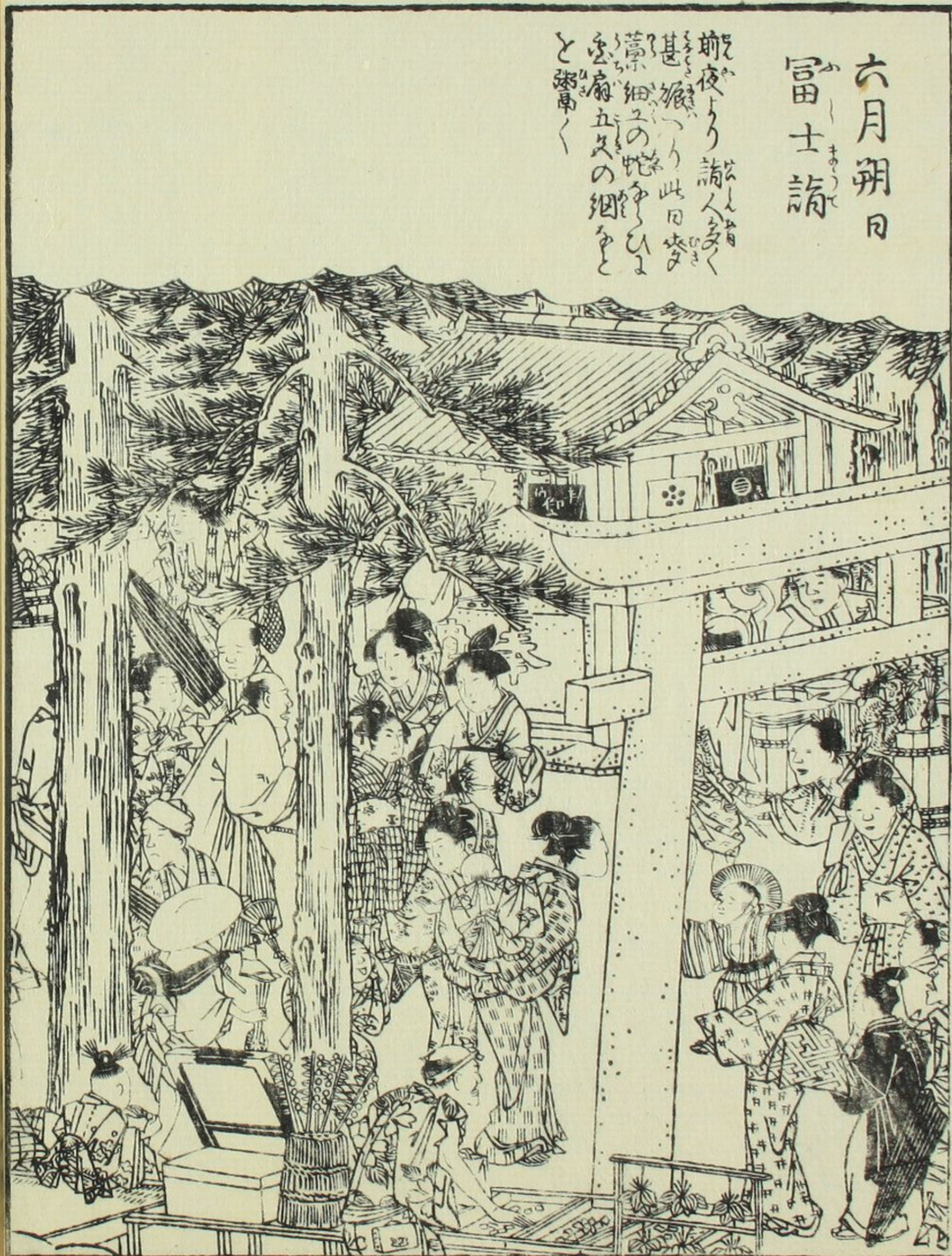
寶珠山興樂寺 田畑村あり真言宗よりて奉尊地藏菩薩ハ
 佛ニ春日の作元心ハ行基大士あり
 阿彌陀堂 本堂の左のふあり奉尊ハ行基菩薩の作
 六阿彌陀堂四番目あり

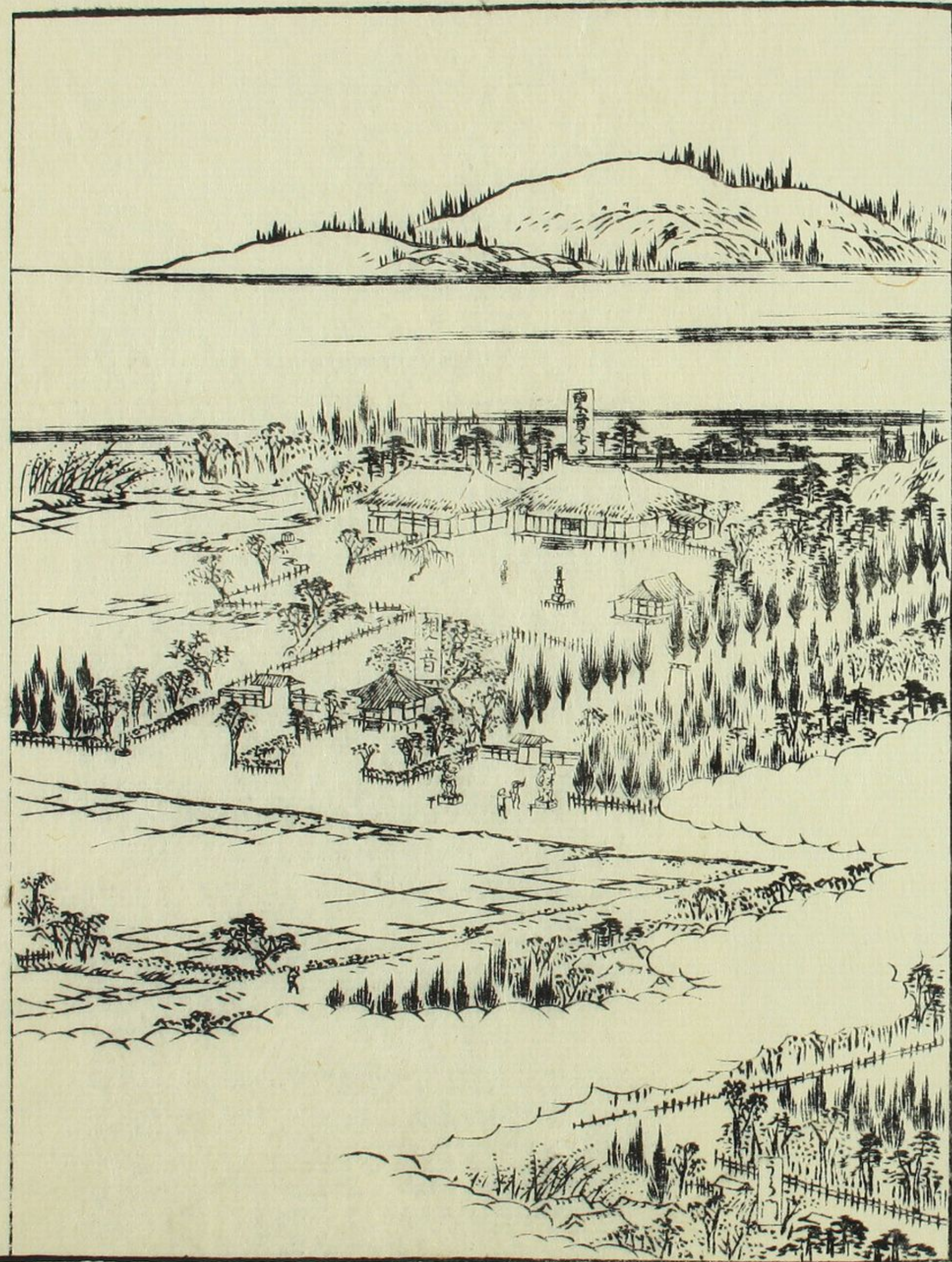
田畑八幡宮 同西の方あり田畑村の鎮守とす相傳ふ文治五年
 頼朝公勸請す昂駒込神明宮と同時の法座なりと云別當ハ真言
 宗東覺寺と号して弘法大師の作の不動尊と奉尊とす元心ハ



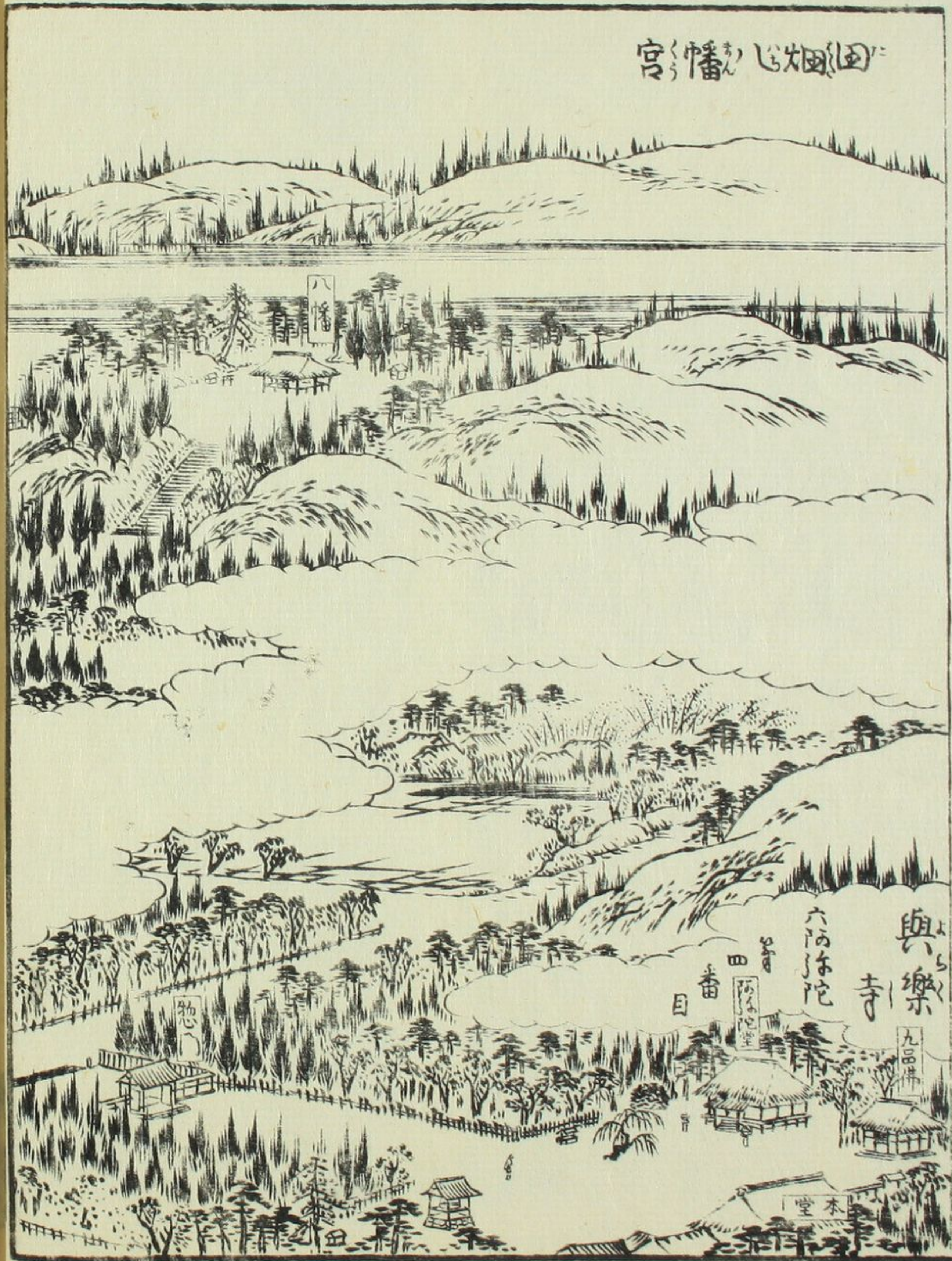
六月朔日
富士詣

昨夜より諸人多く
甚だ賑ひ此日空
蒙細子の蛇争ひ
と驚く
と驚く





宮幡 七 烟 田



與樂寺
六阿浮陀
四番
九百

堂本

圓勝寺
五石松

當寺は五石松とて
一株の古松ありし
七八枯て今之を
敬せり慶長の頃
也や
大樹 寺後山の折
々々 寺裏河あり
雲ふ 此石の修行と
下し 躑躅
名つくより云
はく



行基菩薩あり

光明山圓勝寺 中里あり浄土宗より奉尊阿彌陀如来ハ慈覺大師
の代脇士ニ菩薩ハ惠心僧都の作り宛心ハ深蓮社聖法上人當寺
始ハ浄珠内竜のほありとそ

勢至堂

本堂の右の多岐の丘の上あり三尊の浄土佛とあり俱小佛ニ春日の他あり今
ぬありて勢至堂と唱へり

藤林山西福寺

藤井村小あり真言宗より奉尊ハ阿彌陀如来

と奉以徳一大師の作り當寺ハ狭女之地ありといともむ珠勝の林凡

刹あり

漆井稻荷社

本堂の左小あり往古よりの鎮坐ありて漆井一村の鎮守と考此不漆井と
泉あり今ハ水洞て其跡とあり村と漆井と云もこの泉ありとそ

佛寶山無量寺

西光院と号以同死北の方西原小あり真言宗より弘法

大師の作の不動尊と奉尊と以宛心ハ行基菩薩あり奉堂小あり

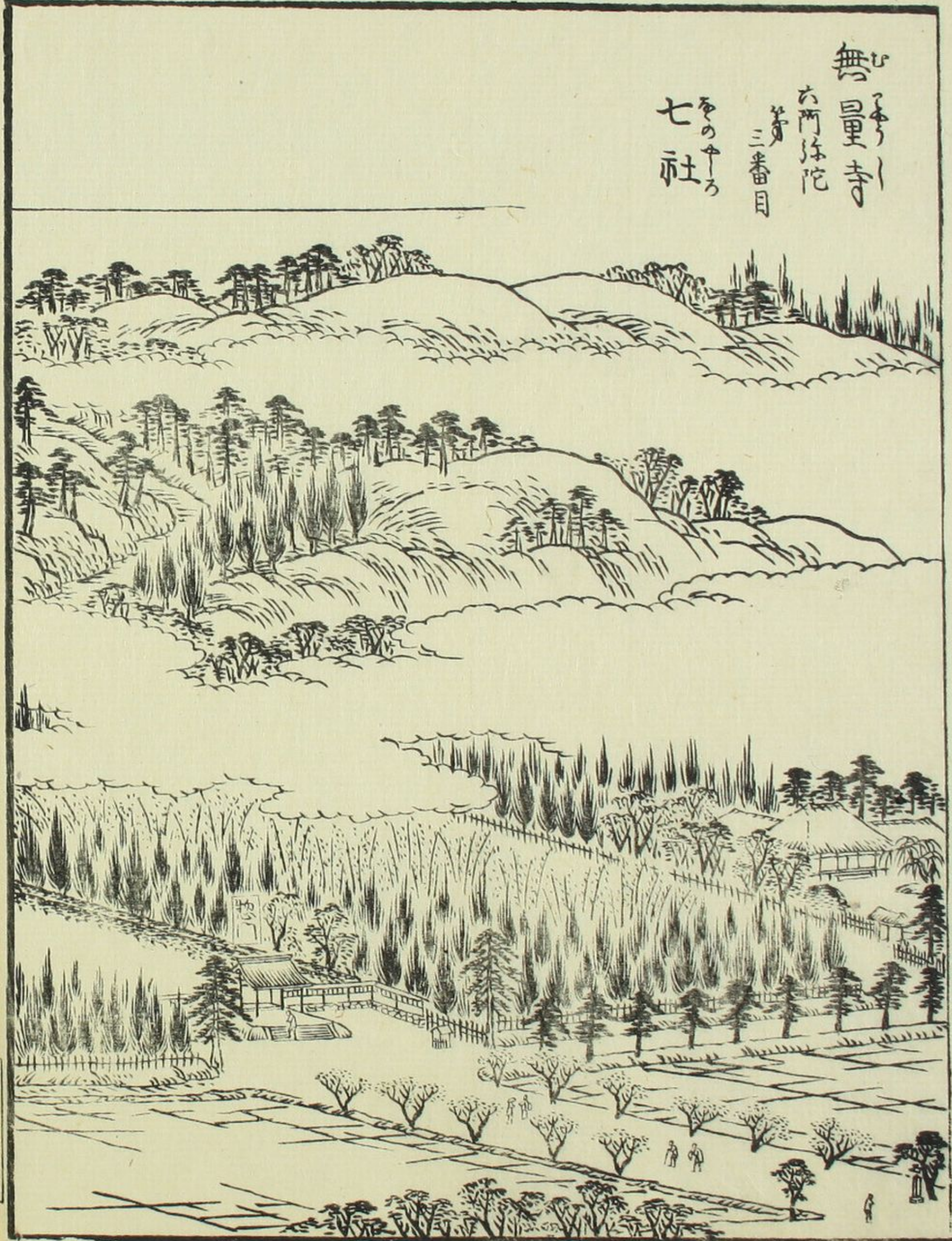
南無阿彌陀佛の額ハ幡随意院了願和尚の筆あり

阿弥陀堂

奉堂の右小あり奉尊ハ行基菩薩の依
六阿弥陀寺三番目あり



無量寺
 六門法陀
 三番目
 七社

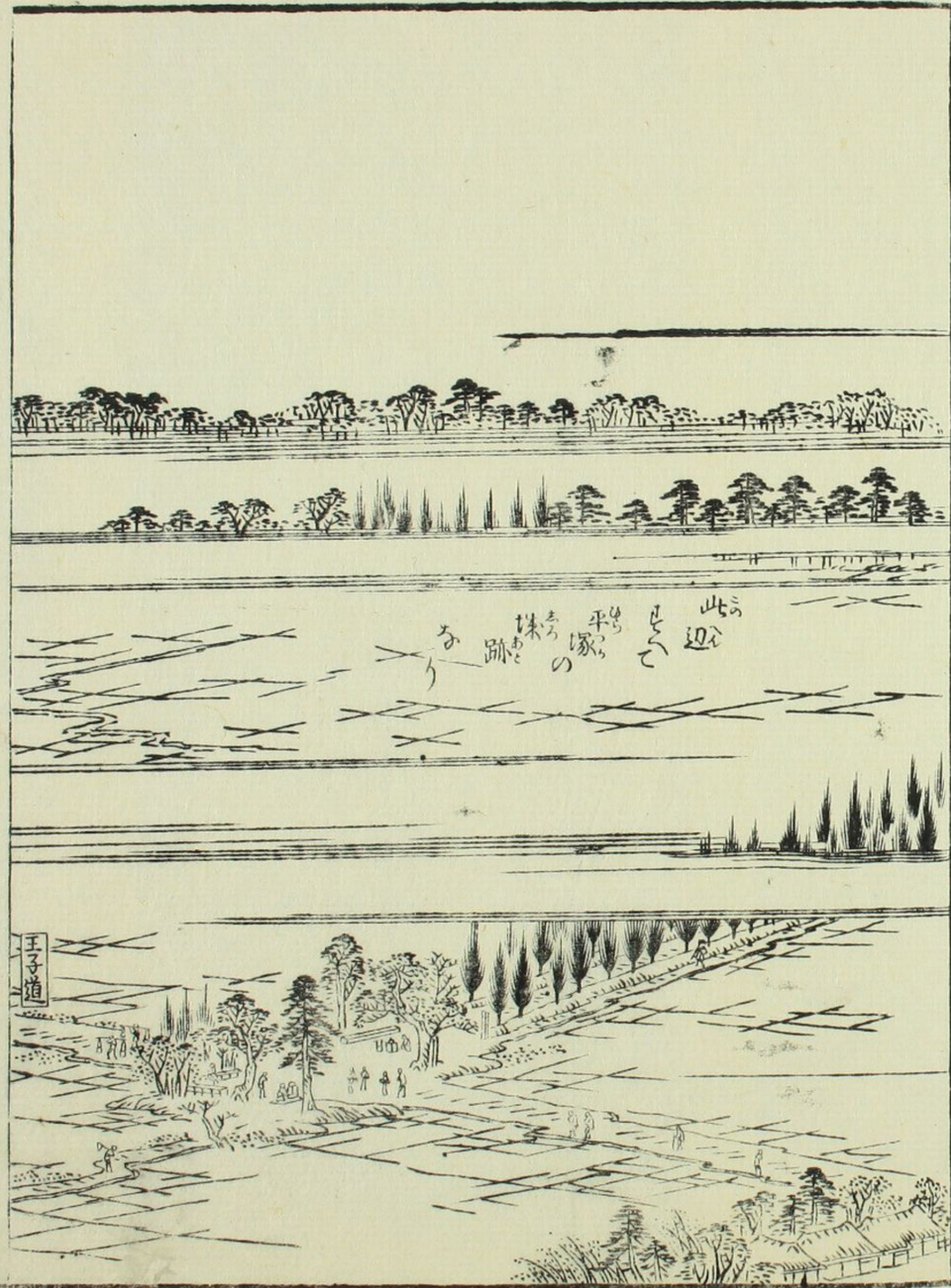


神陀山昌林寺 同所西の方より曹洞の禪宗より奉尊未本觀世音菩薩八宝心行基菩薩の作り往古六阿陀院彫刻の折々未本を以て代りたるひしとそむく一補陀洛壽院と號其後久く荒廢小とも小批は應永年中祥林といへる僧中與勢より昌林寺と號同十八年鎌倉持氏之母堂深く是成信一堂宇と彼堂あり又文明の頃右田道灌二十余丁の畝田と寄附其後大永年間の兵火に罹りて堂塔悉く炎焼す今はいかしの像の之を保存せり

平塚明神社 平塚村小あり當社縁起云往古八幡太帝義家兄弟奥の日前後十二年の戦終凱陣のとき此地に逗留ありて珠王豊島氏某或豊嶋太帝又鎧一領并小守奉尊十一面觀音長七寸行基菩薩の他を賜ふ其後元永年中豊島氏珠内清浄の地と擇びて彼鎧と塚に築石収め塚の形高むるを以て平塚と號す城の鎮守とす且社成營じて

三連枝の像成女一平塚三所明神と号は八幡太帝義家加茂の義綱是義家兄弟の武功と欽崇且武運を祈らん為なりと云別當と平塚山珠寔寺といひ安樂院と号は珠寔寺の末代ハ奉地阿弥陀如来と安す赤檀佛毘首羯磨の昔筑紫安樂寺の僧田圃修行の初此像とて小安置せしとそ

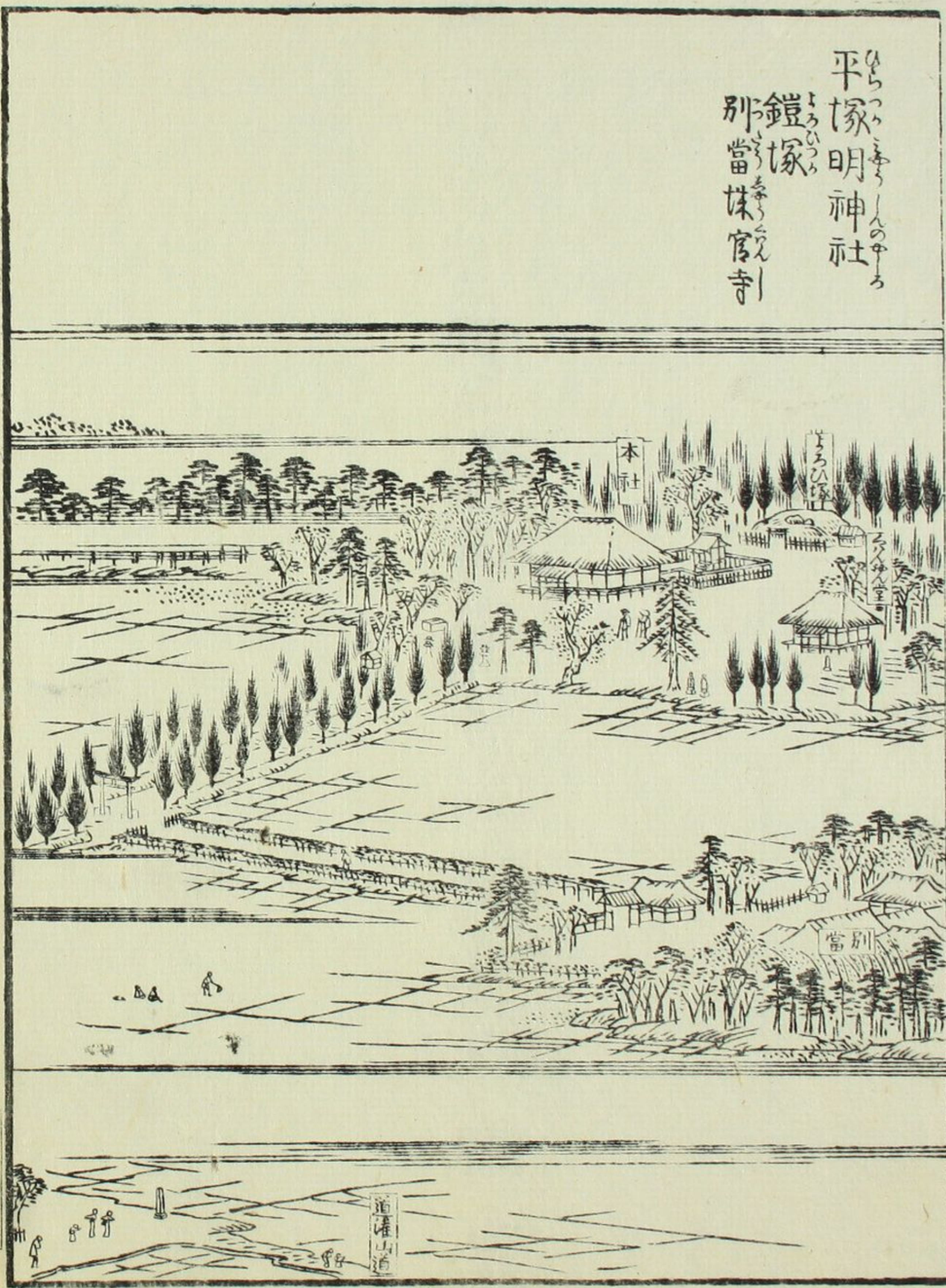
白鬚明神社 同所畑の中よりあり祭神ハ猿田彦命より豊島氏の勸請をり往古ハ平塚の珠中ふありしとそ
平塚跡 平塚明神のありより飛鳥山の辺迄といふ鎌倉大草紙云文明九年四月十三日道灌江戸より出て豊嶋平右衛門尉ハ平塚の城を取巻城外を放火して歸りたふ外小豊島足之勘解由左衛門と頼ける同石神井の珠練馬の兩珠より出攻来りたれハ右田道灌上杉形部少輔千葉自胤以下江古田沼代と云ふ馳向ひ合戦して敵ハ豊島平右衛門尉と始として板橋赤塚以下



此の
 迎
 平塚の
 跡
 を

王子道

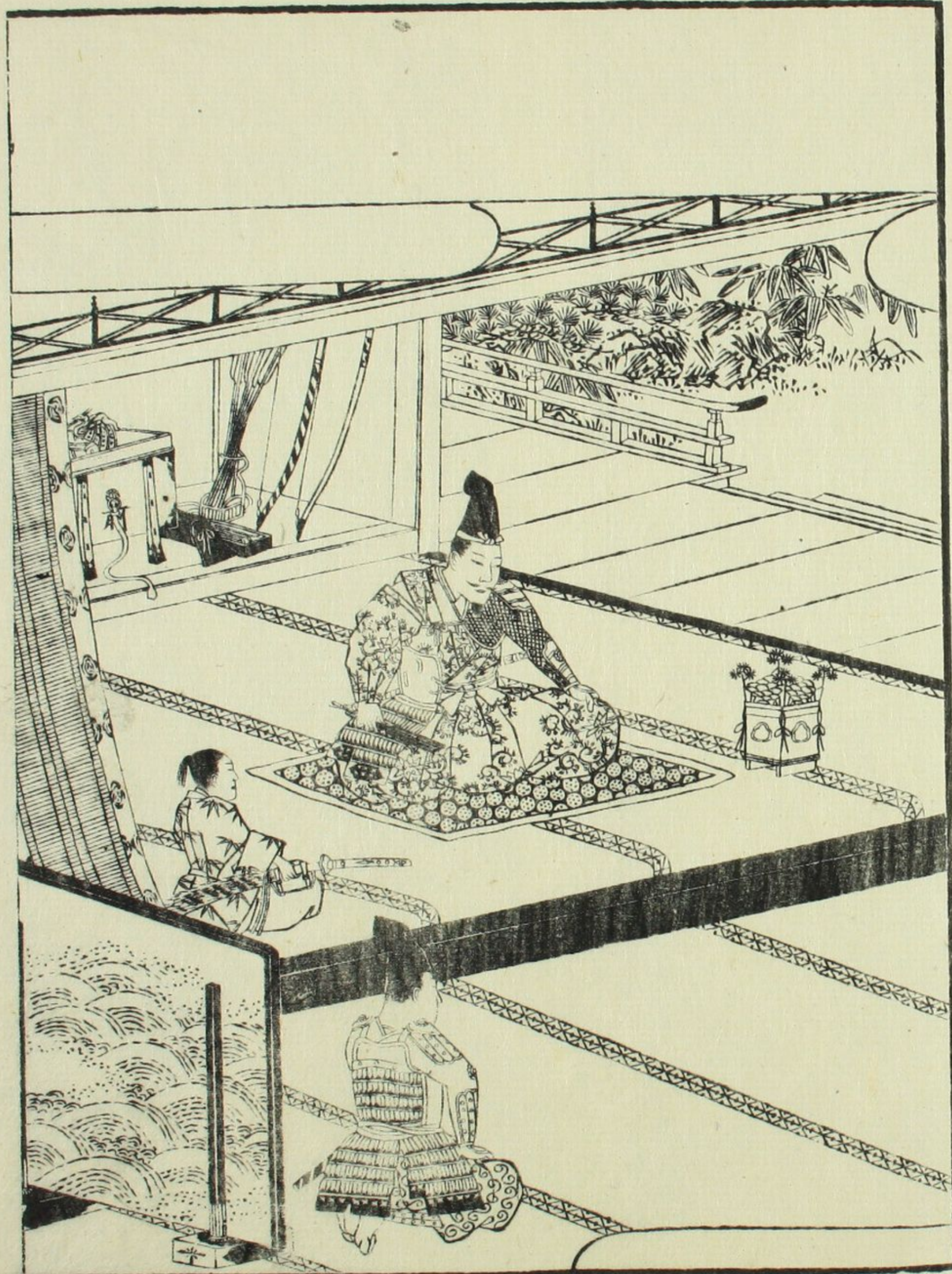
平塚明神社
 別當寺
 鑑塚
 別當寺



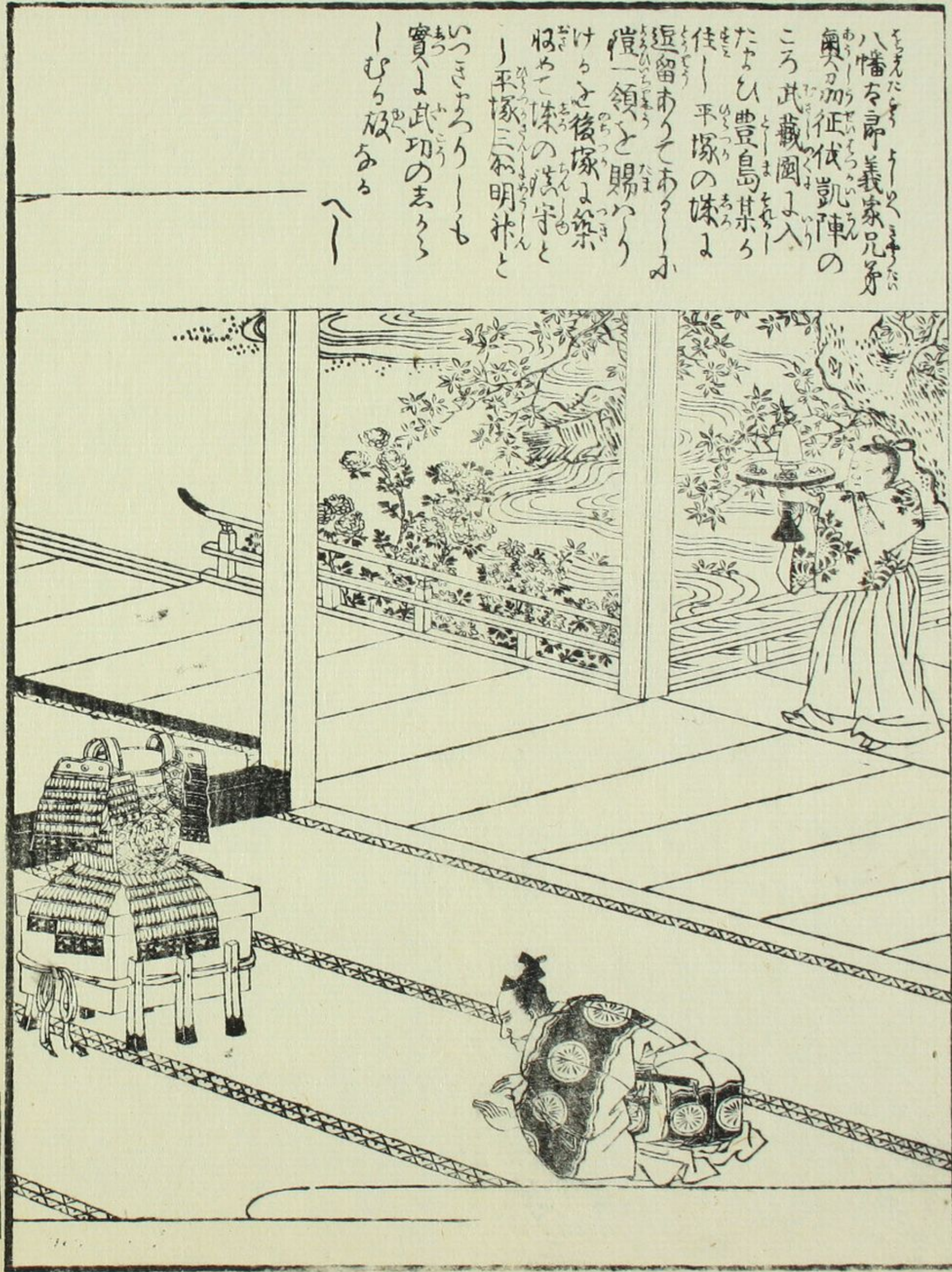
本社

別當

道灌山



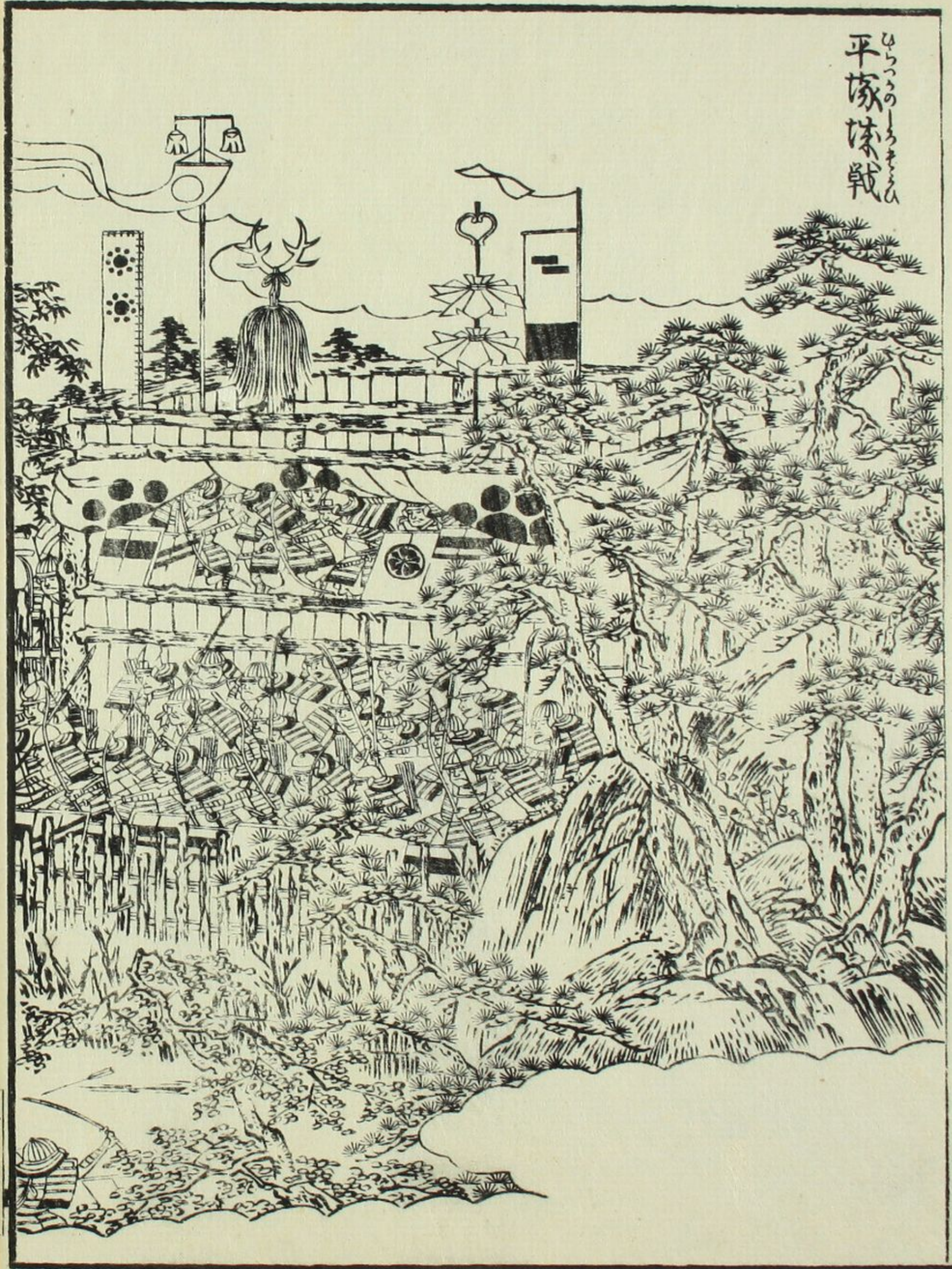
八幡を帝義家兄弟
 奥の加征伐凱陣の
 ころ武藏國よ入
 たよひ豊島某ら
 住し平塚の株よ
 返留ありてあつふ
 禮一領と賜わり
 けらと後塚よ築
 収めて株の護守と
 一平塚三木明井と
 いつさうりも
 實よ武功のまろ
 しむら殿あふ



鎌倉大草紙下
 文明十年正月
 廿五日道灌豊島
 勦解由左満門
 平塚の要害
 押寄貢丸ハ
 其境没落して
 敵ハ程九回殊
 小机の味ハ絶
 あり此平塚の
 事あり



ひらつかのしんせき
 平塚殊戦



白鬚明神社



百王拾人討死す 中畧 同十年正月廿五日豊島勘解由左衛門平塚の

要害一押寄責々れ其曉没落して敵ハ從九回殊小机の殊よ

谷籠と云

大追物上質地 同野道より右の方畑の地と指て云詳小林春齊先生

の作せる大追物記小出きり 図てて小畧せり

飛鳥山 數萬歩小紙たる芝生の丘よして春花秋草夏涼冬雪

眺あるの勝地あり始元亨年中豊島左衛門飛鳥祠と移す

命あり 図て飛鳥山の号あり寛永年中王子権現御造営の時此山

上よある飛鳥祠と遷して権現の社頭鎮座ありたり其後元文

の頃 台命よらつて楸樹數千株と植させらる内よハ遊觀の便と

外よハ葛堯の爲ます年と紙て花木林とある爾より駭人墨

客ハ白と摘章と尋ね牧童推夫ハ袜と刈薪をとる殊よまはらき

中よハの頃ハ楸花燦爛として尋常の觀よあり其態野の古式よ

春ハ花と以て祀るといふは相合すかみの歎
 元文四年の春、泉前大納言為久々、關東下向の折、鳴島信通命一て此山のまゝと
 ぬ久々、
 飛鳥山といふ所の花とて人の見せざる若木の枝の珠より、
 世に似れそぬ、
 震の實よとくむるをりふあむ

飛鳥山といふ所の花とて人の見せざる若木の枝の珠より、
 世に似れそぬ、
 震の實よとくむるをりふあむ

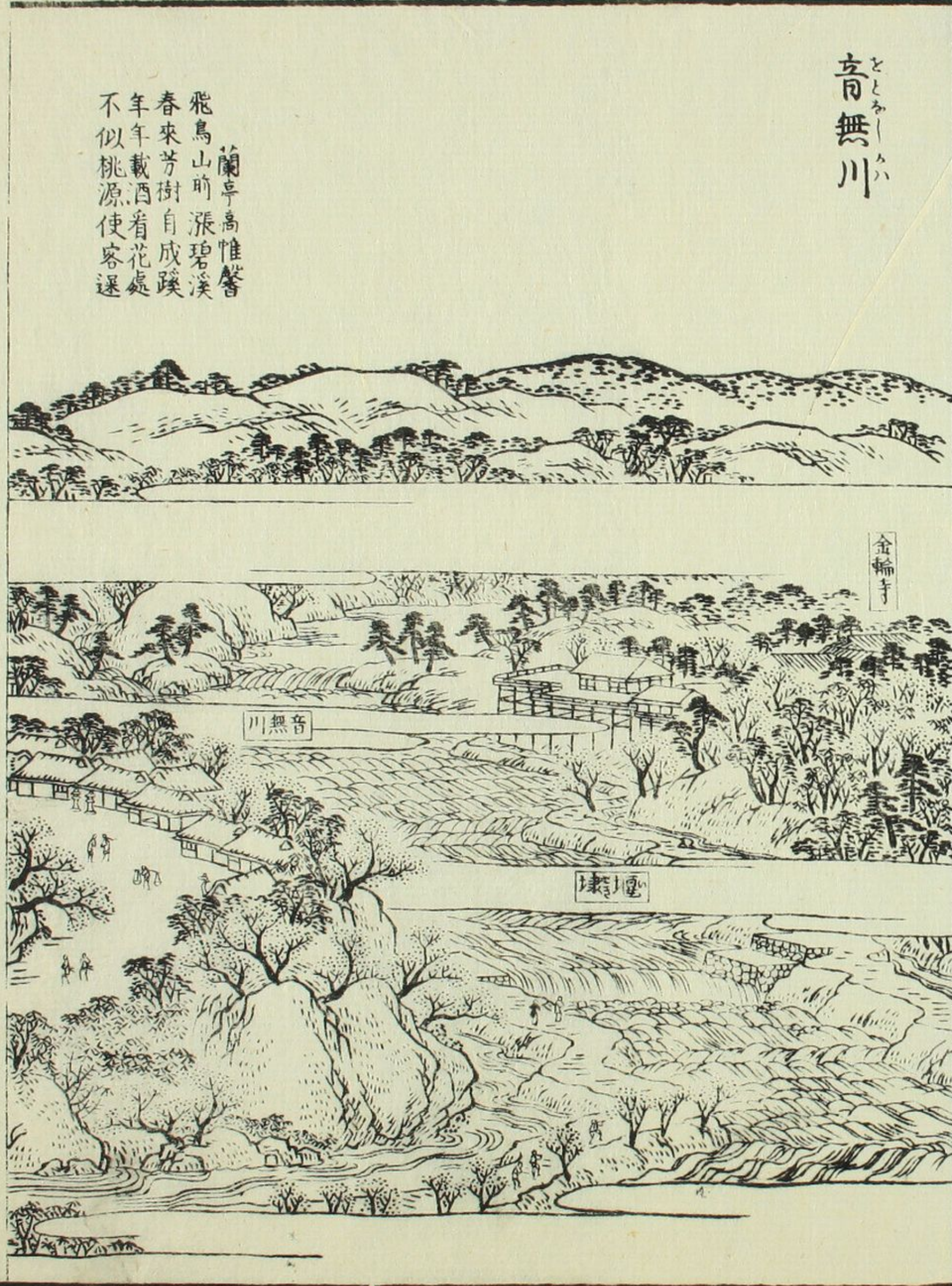
拍枝の文香ととすハ飛鳥山花の取れ甚も志られ
 為久

咳也ともつけぬ飛鳥の山様こそこの云ふ所の文やすれ
 曰

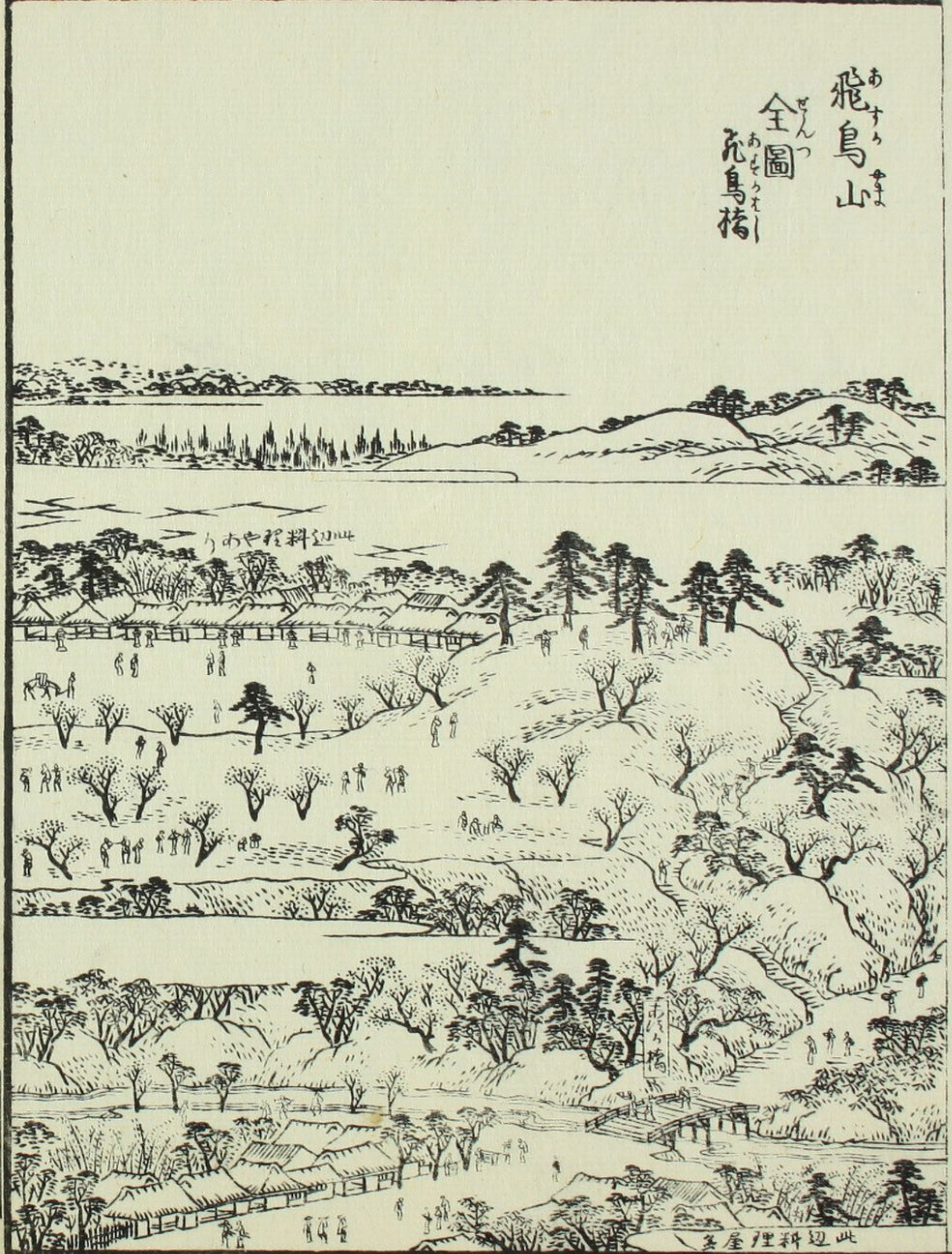
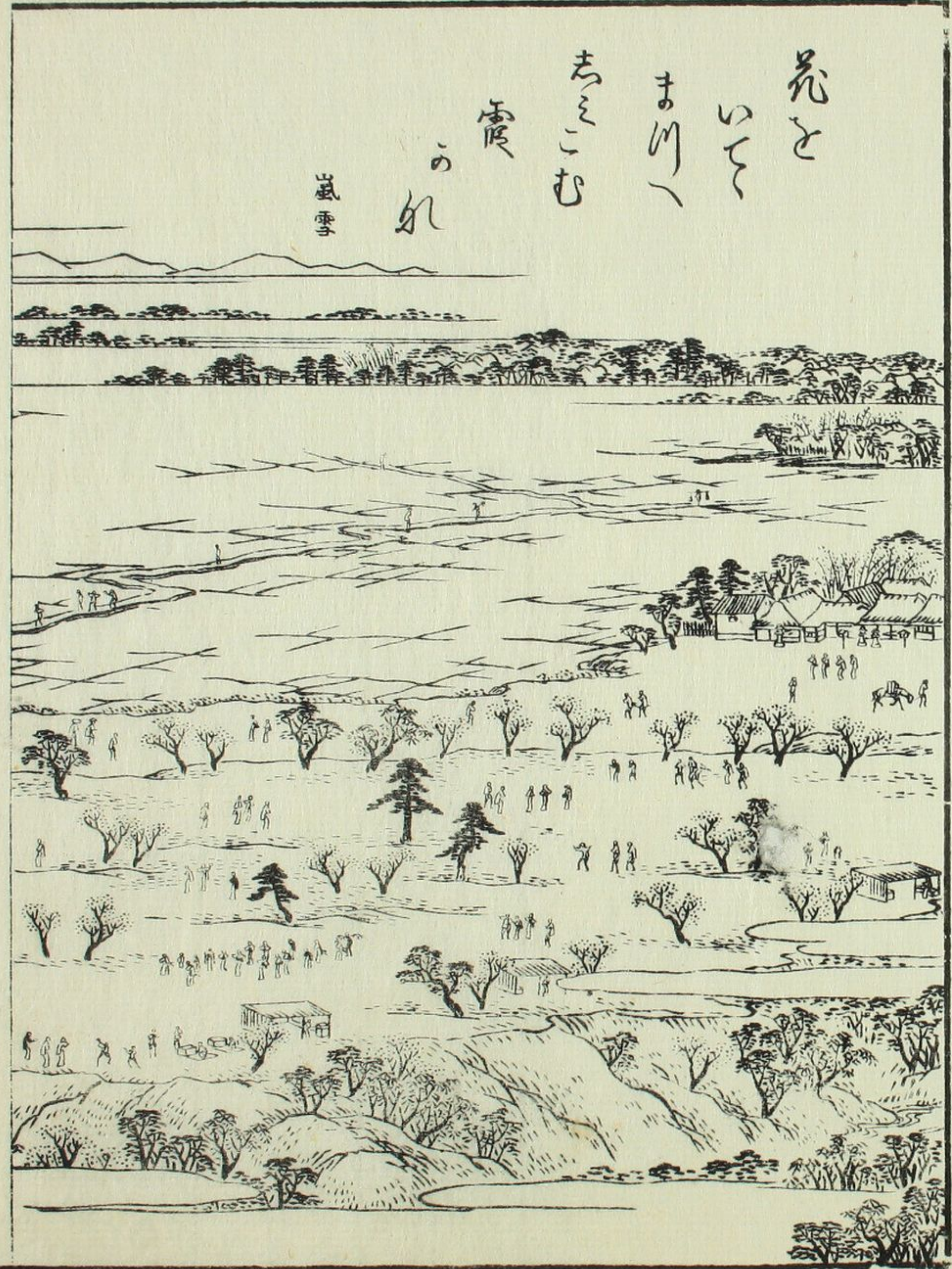
とあり一々いとも金輪寺、仰あて二枚の花とよめおせあれともたせて品川の宿ふて
 序後ふれけ

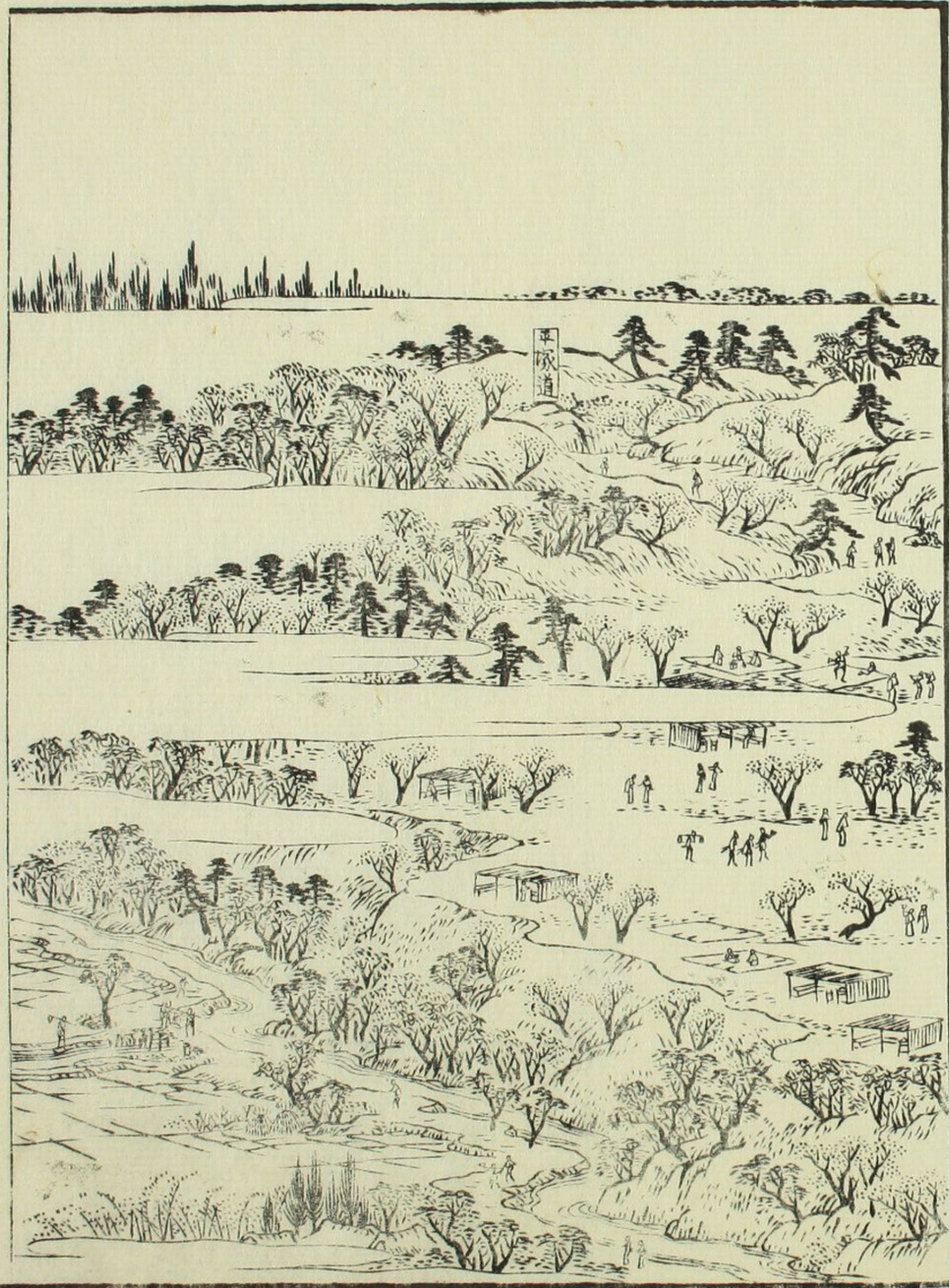
飛鳥山碑銘並序
 惟尊也配祀伊熊
 冊為飛鳥之祠三
 別曰在管元亨中
 誌熊之管地之武
 為熊之管地之武
 熊之管地之武
 昔祀之如一日音
 吹之旗之如一日
 其來也尚矣而世
 永中有司奉命祇
 祀事乃因故兆新
 之遂遷飛鳥

音無川

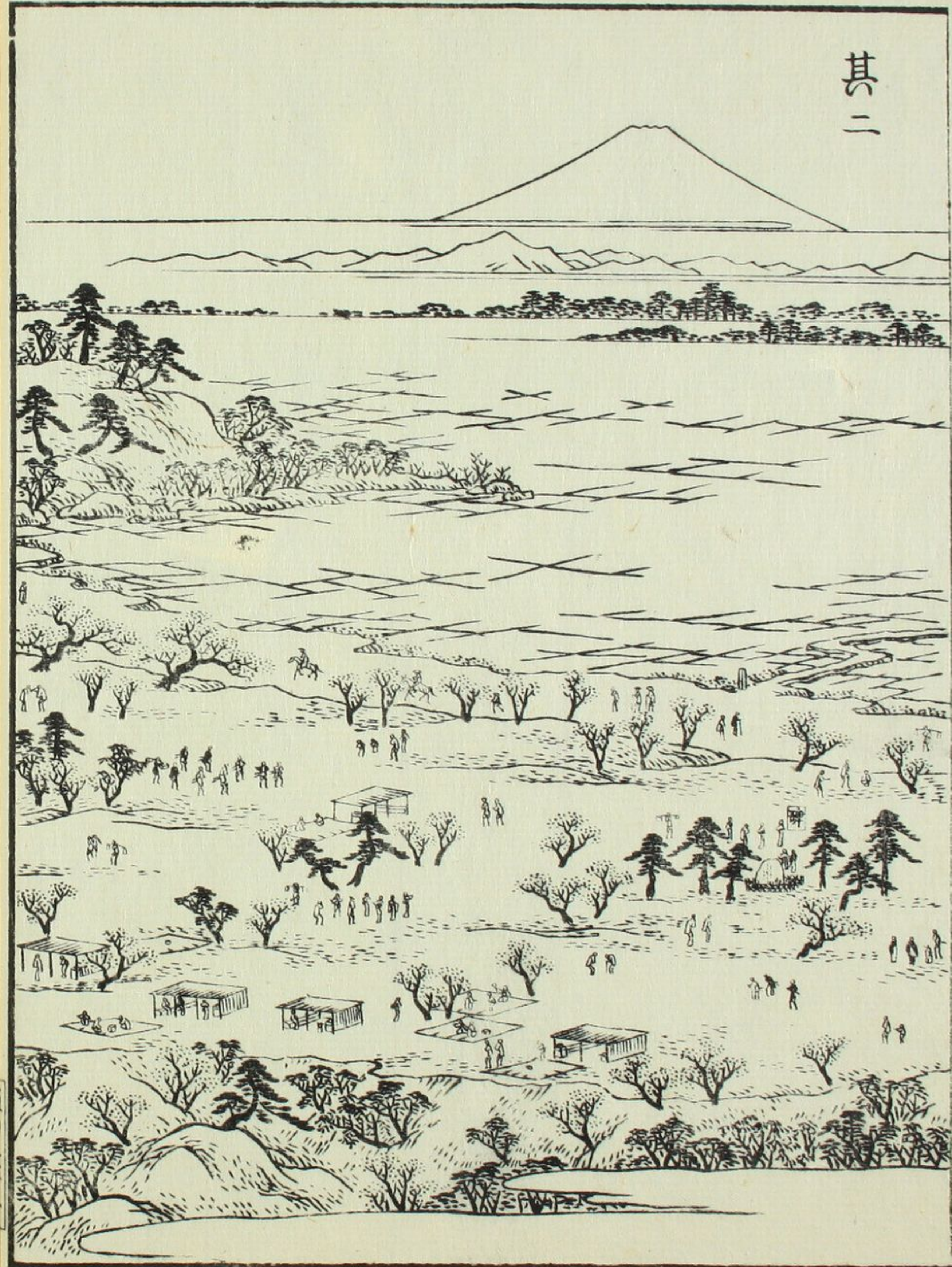


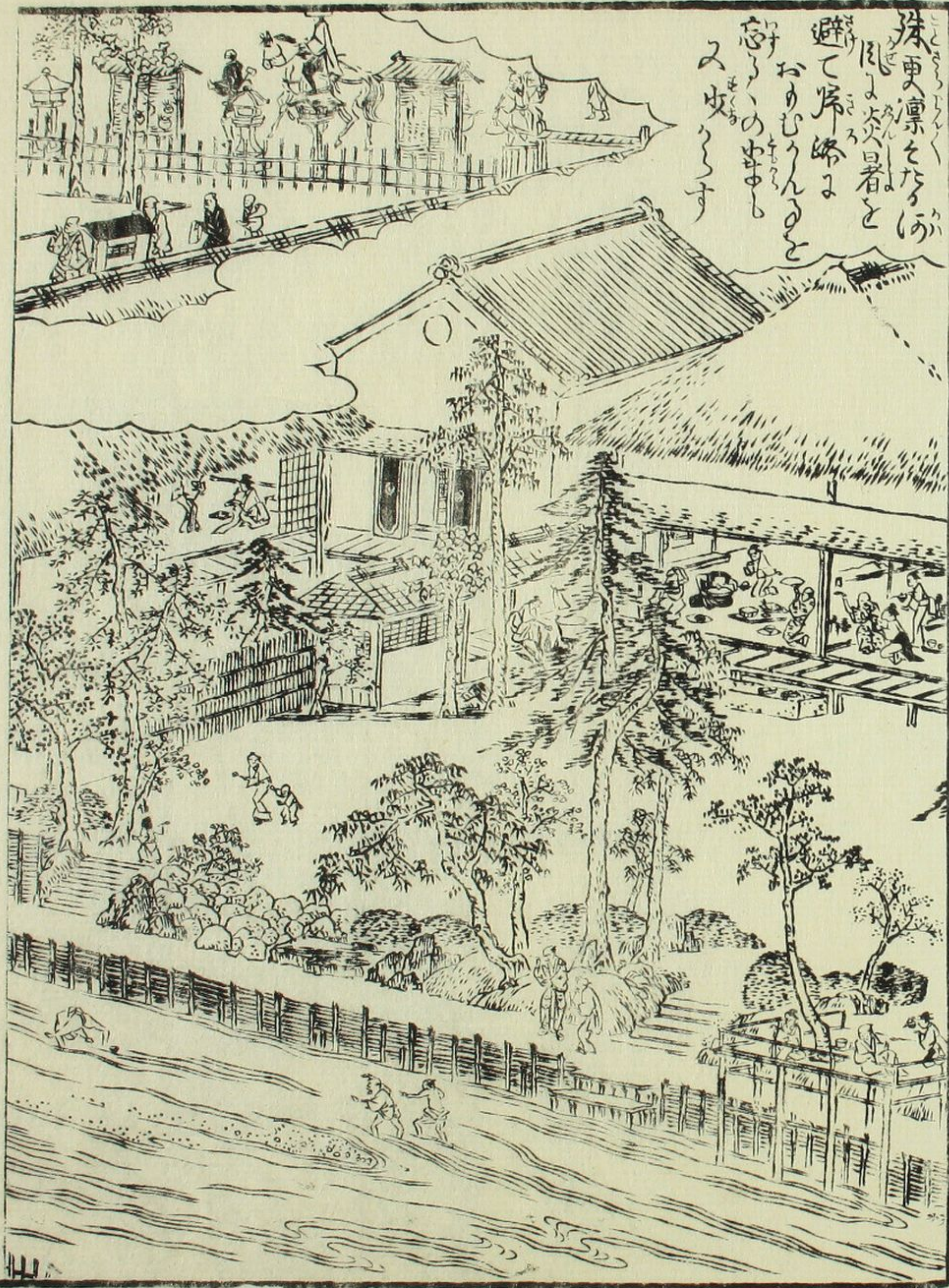
蘭亭高惟簪
 飛鳥山前漲碧溪
 春來芳樹自成蹊
 年年載酒看花處
 不似桃源使客還



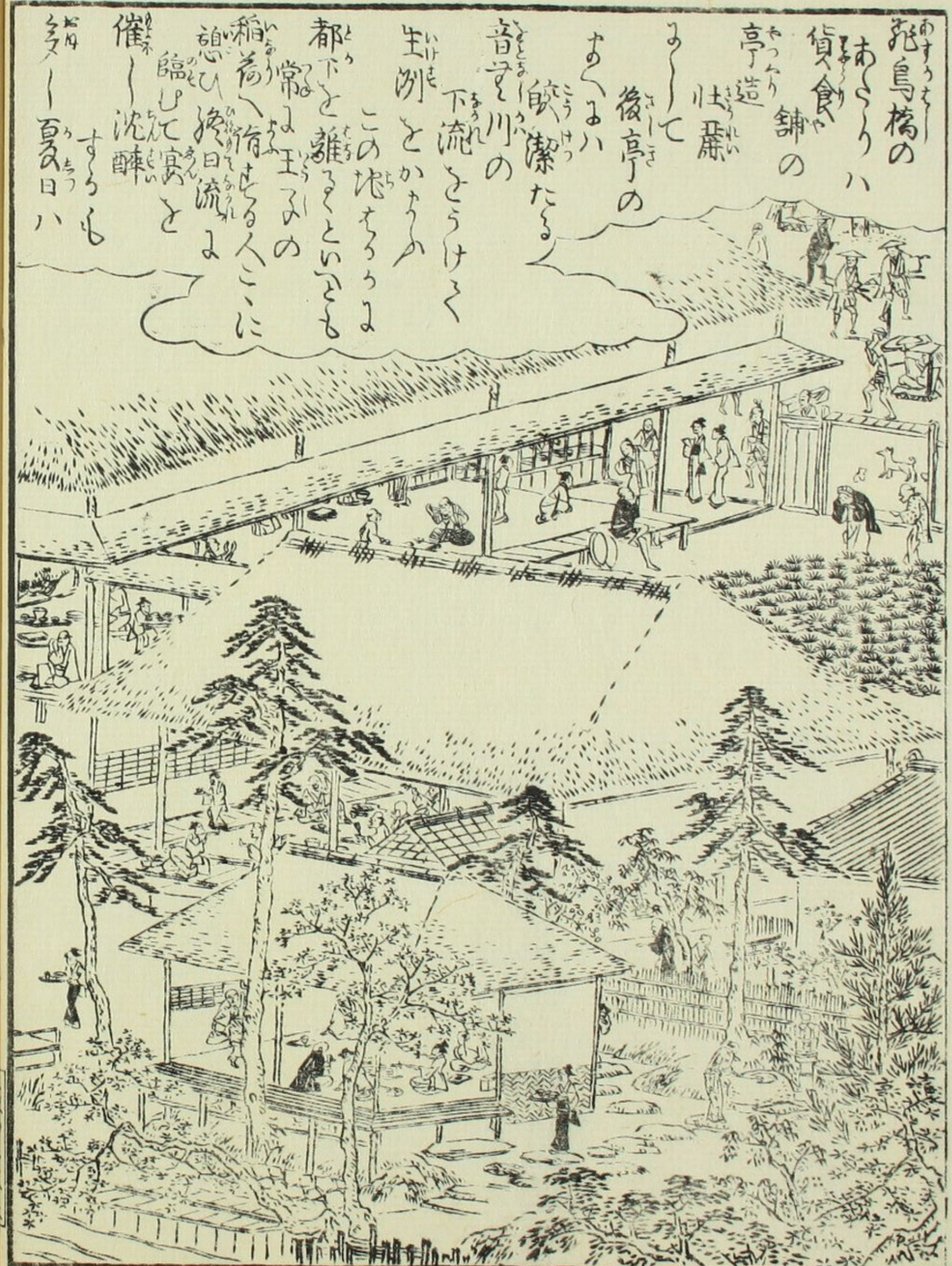


其二

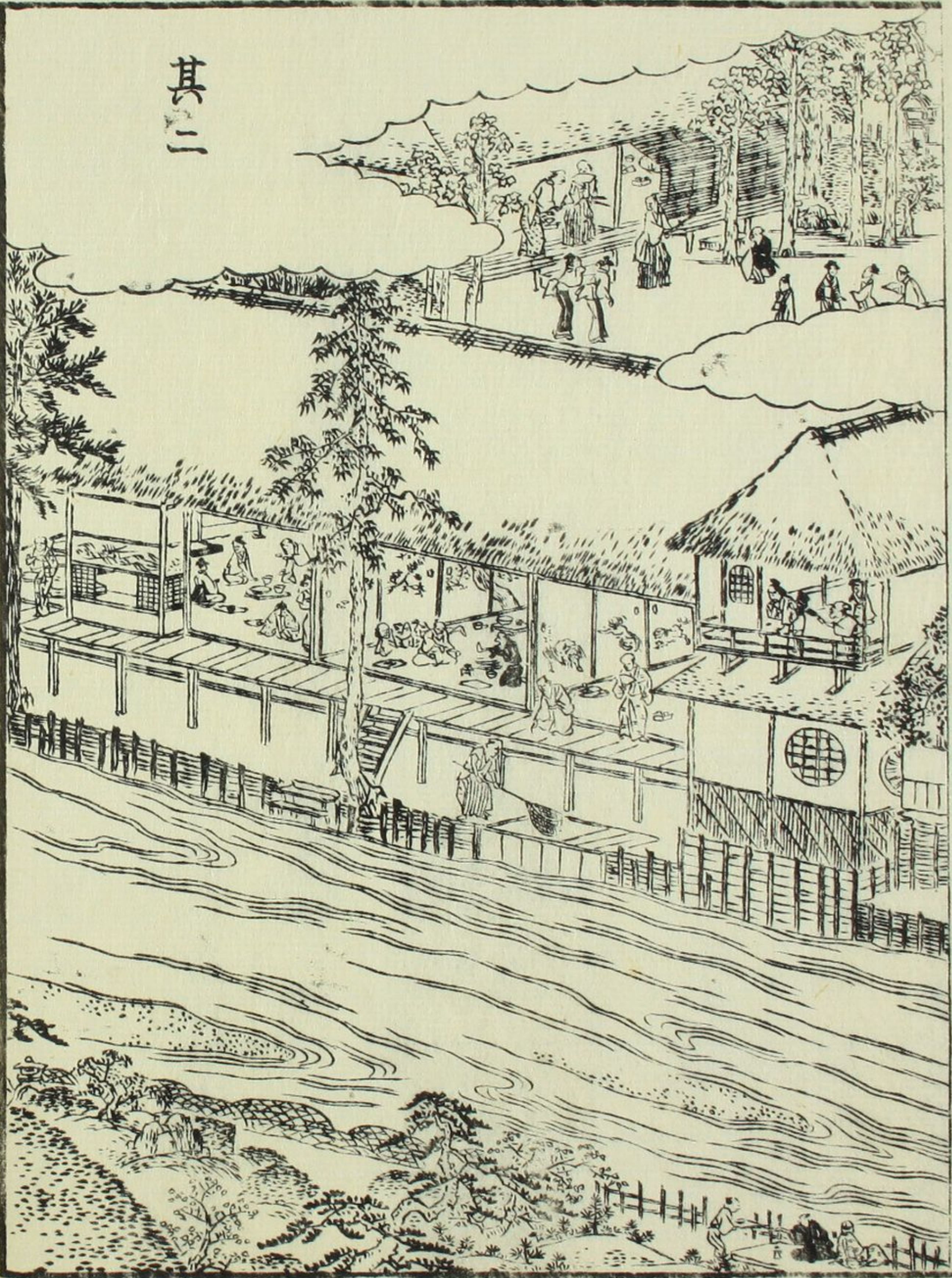




殊更漂々たる所
 風は炎暑と
 避て片路よ
 おりじうんを
 忘るゝのまも
 又々々々々



飛鳥橋の
 街食ハ
 貨食 舗の
 亭造 仕業
 後亭の
 音ぞ川の
 下流とらけく
 生例とかたの
 都下と難るといふも
 常は玉子の
 稲荷、竹、さくら人こに
 憩ひ、終日流よ
 臨じて宴と
 催し沈酔
 すらも
 夏の日ハ

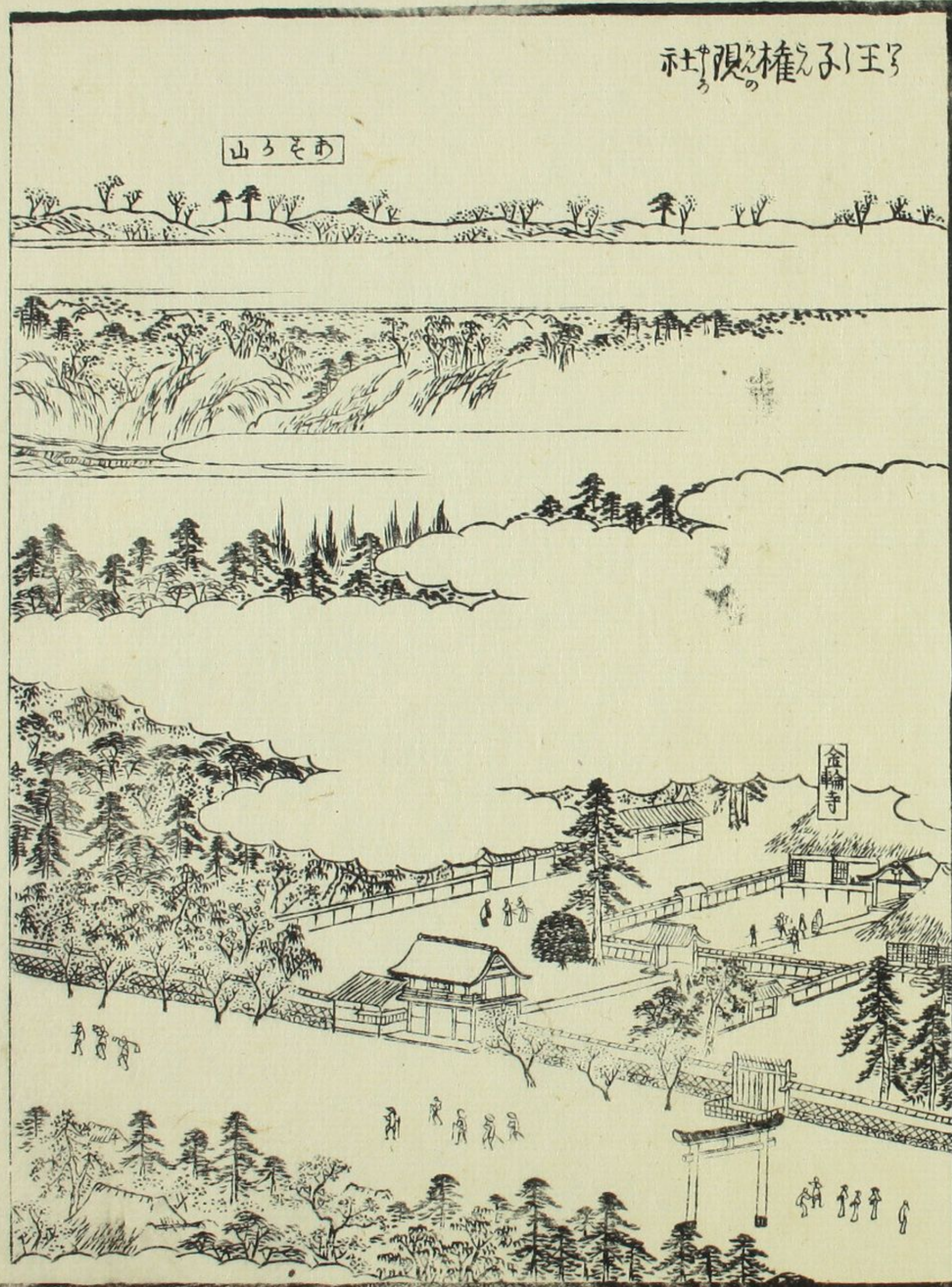


其二

祠於本祠飛鳥之山有三月己亥祠由焉三畝之次規
 北封飛鳥之山給祠無所與永屬奉祠者衛等恭
 土祠乃蹈以舞手櫓正敬八之行以於穆郊爲神之事
 奉祠治人明惟馨初飛鳥之山逢艱荒爲之免鄉
 以誠不飲明惠惟馨初飛鳥之山逢艱荒爲之免鄉
 神其車駕之筆從紀蕃也司行邑史容谿谷道
 焉泉瀑礮硯而旋乃植花木數千株成遊觀
 外爲林每春役燭焉紀蕃也司行邑史容谿谷道
 亦花祀者冥契會之燭焉紀蕃也司行邑史容谿谷道
 以石爲表經銘曰之燭焉紀蕃也司行邑史容谿谷道
 于石以爲表經銘曰之燭焉紀蕃也司行邑史容谿谷道
 繇石以爲表經銘曰之燭焉紀蕃也司行邑史容谿谷道
 明我洪荒有經銘曰之燭焉紀蕃也司行邑史容谿谷道
 本支繁衍其來封其域八神跡眷祐東土是祀
 千載懿範之麗是勅奉祠金輪寺住持權大僧都宥衛大
 元文丁巳之秋自良至坤七十三步東都圖書府主事鳴鳳鄉代撰拜書
 碑陰飛鳥山四至榜示自巽至乾二百二步加藤忠郁刻

短冊公御舊跡
 今より廿年ありのひう
 此山の麓に住る者あり名を勝行といふ何れの
 冊のそとに云毎妻の花の盛みかあるはこふおて短冊と賣入くくの旅舟の短冊と云是
 こそ集ると己う短冊といふ元文の頃大樹寺改修のときより此舟の事と云
 わすれな人の短冊を見とるや一畝限等と下し賜ひぬとと常々集るものへくの
 後哥とち誦して志と養ふされと後其誦をかくして後不と志る

王子権現社



王子権現社

飛鳥山の北の方

育まを河を隔てあり

奉殿

祭神

伊特冊尊

龍速玉男命

三神鎮座

社記曰若一王子社ハ紀伊國熊野権現と勸請以後醍醐天皇の御宇

元亨年中豊島何々の主とや新に祠宇を建て崇けるる風霜

ぬり案月深して朝の霧ハ香と林火々とあやと夜の月ハ燈と

挑ふ似きり靈神ハ人の敬よりて其威をま一境致ハ靈神の徳

ふよりて其名を弘はらう此神の奉と尋れハ伊特諾伊特冊

の尊と申ハ二柱のみこと國土とらみ萬の物とらみ其廣大の功

徳既ふ成て後伊特冊尊神退ま一々ハ紀列熊野の有馬村

よおはちまらふ熊野大神是なり此神と祭るふ春ハ花をとて

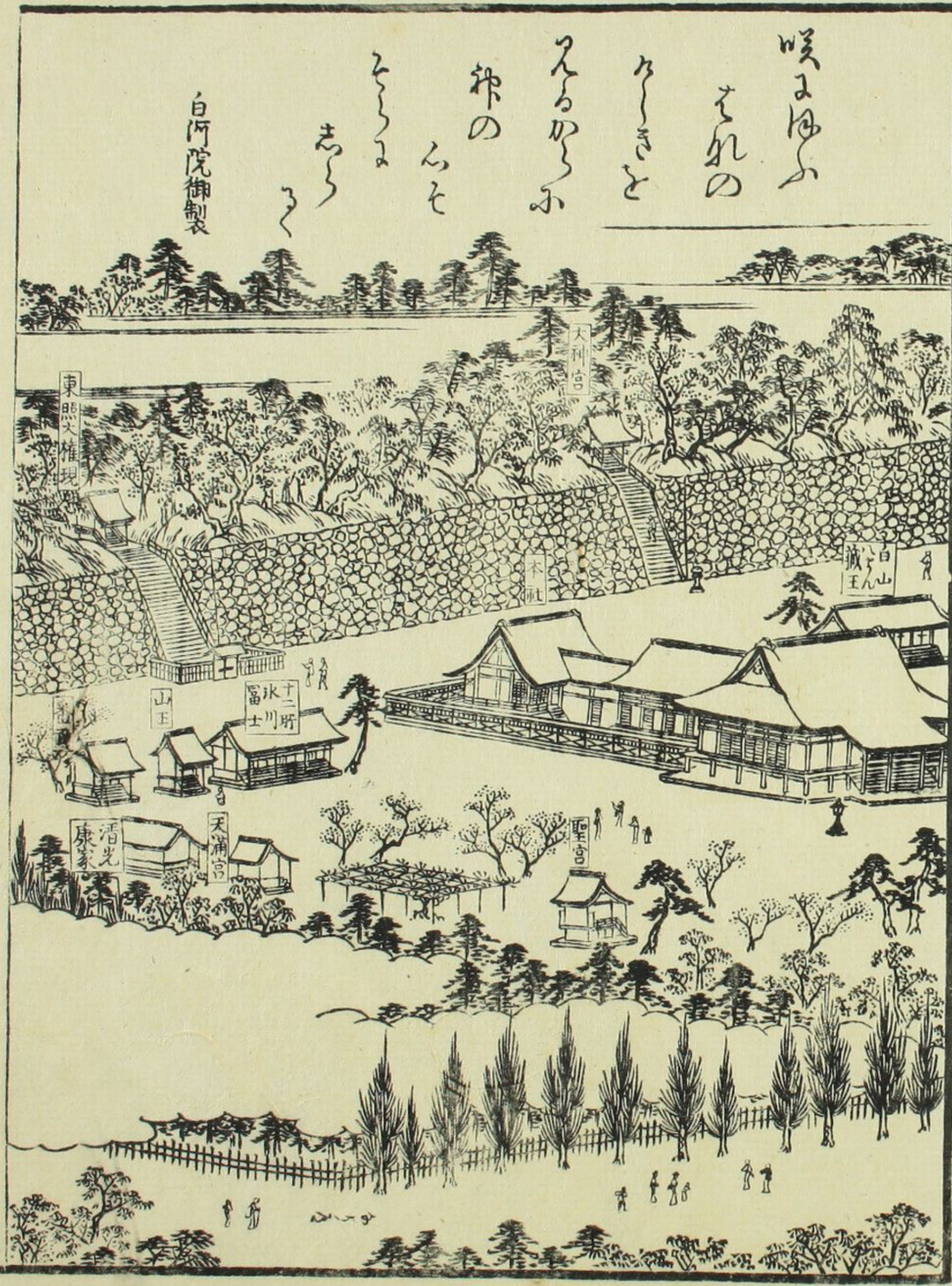
多り鼓うち笛吹旗立て調練て祭る白河院の御製表ふ咲白

花ハ一と見えふくく神のんそをふまらるくとよみぬるハ

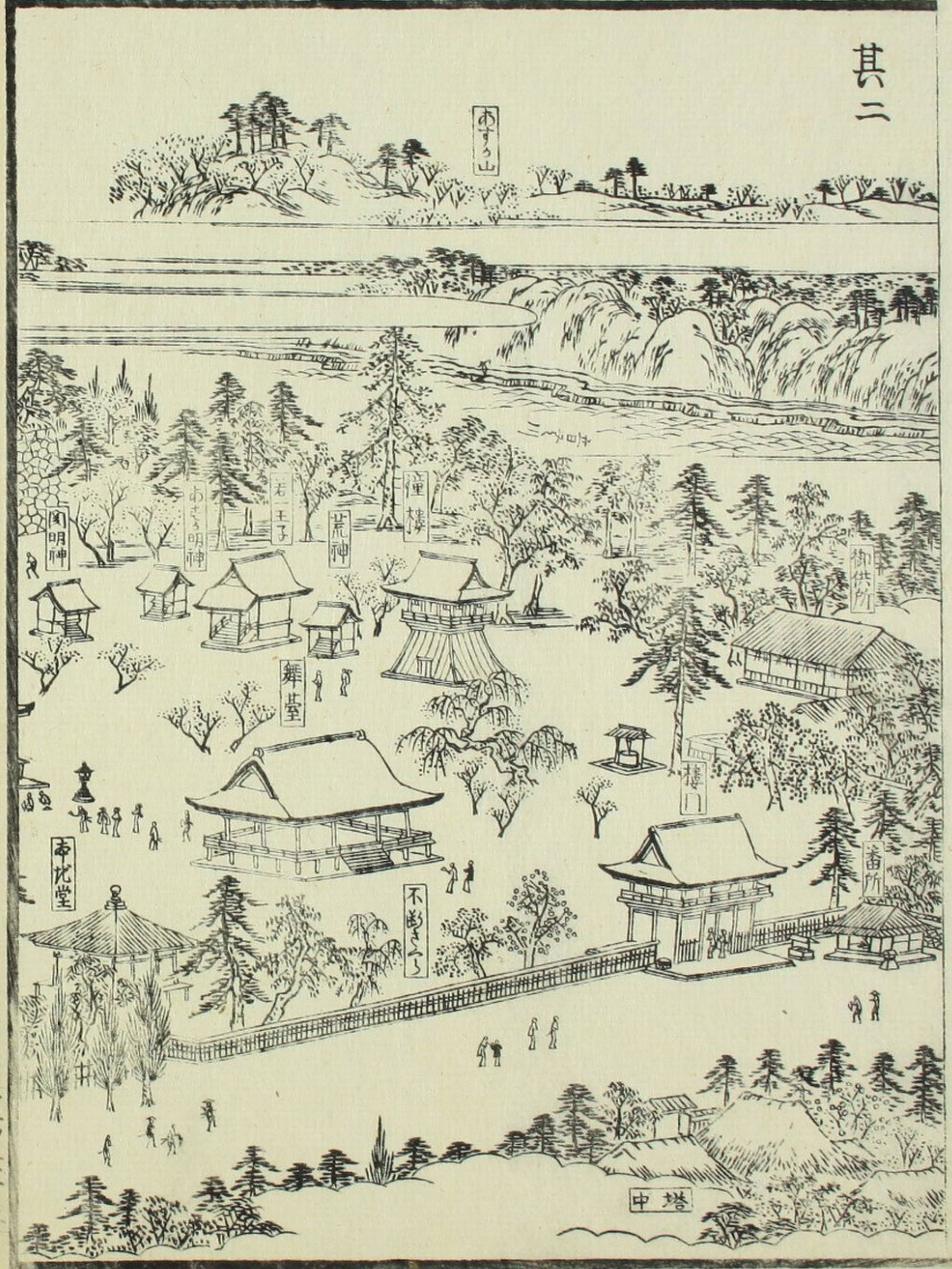
花去らぬの事あるハ此神の御子と熊野早玉男とまらるる其第二

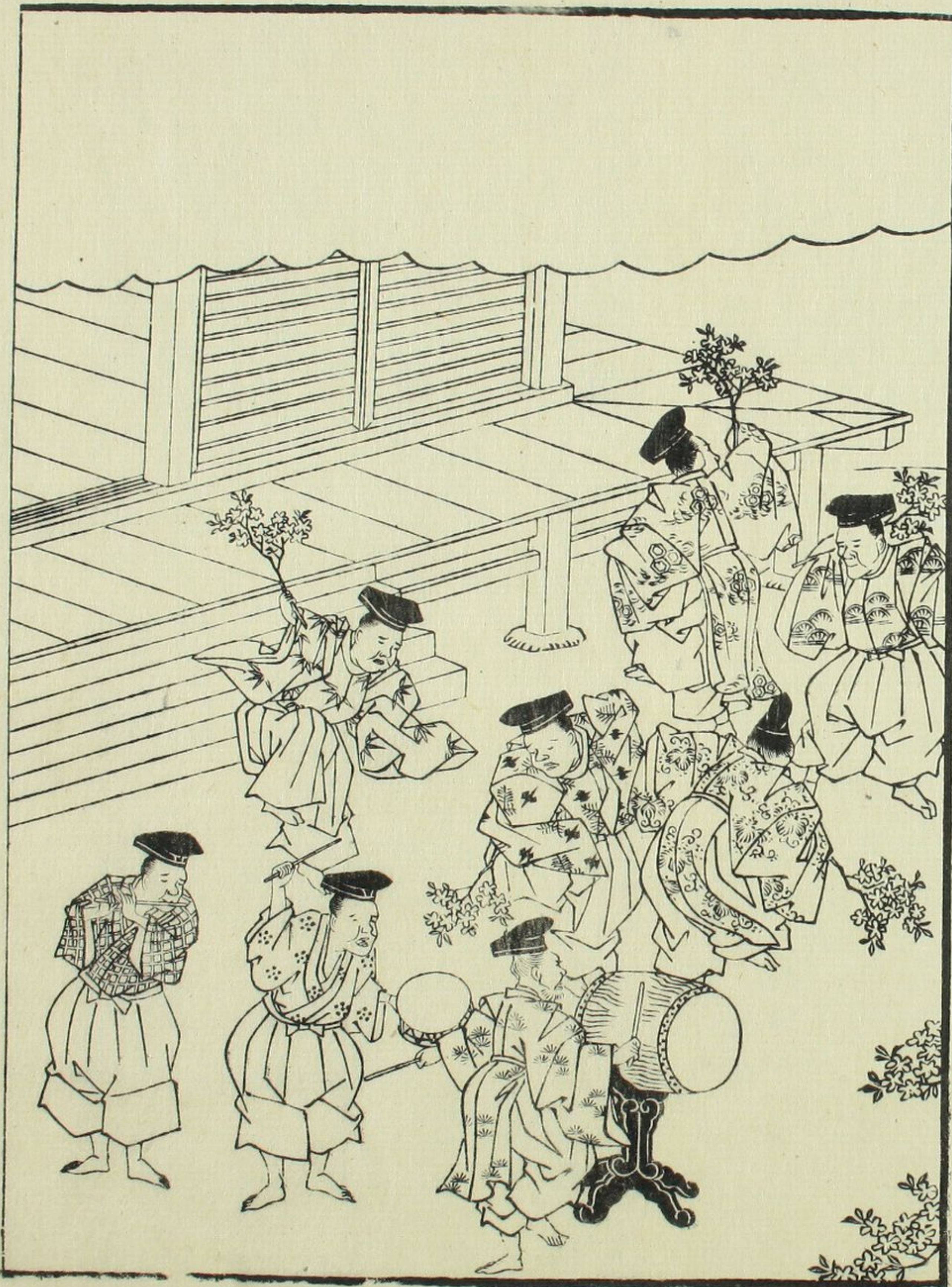
白河院御製

暖よほふ
それの
くさきと
つらゆふ
神の
ふと
ととと
ととと



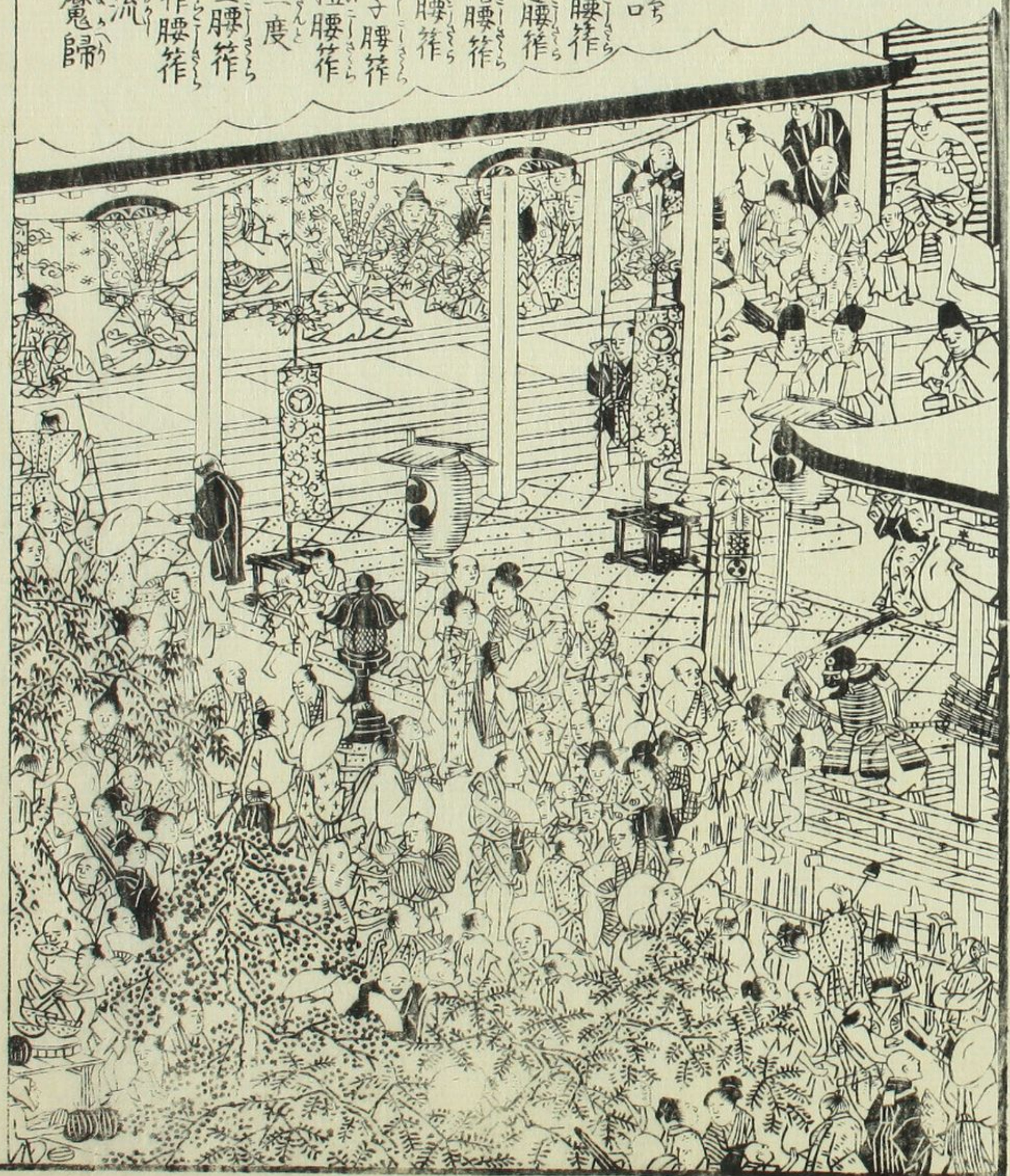
其二





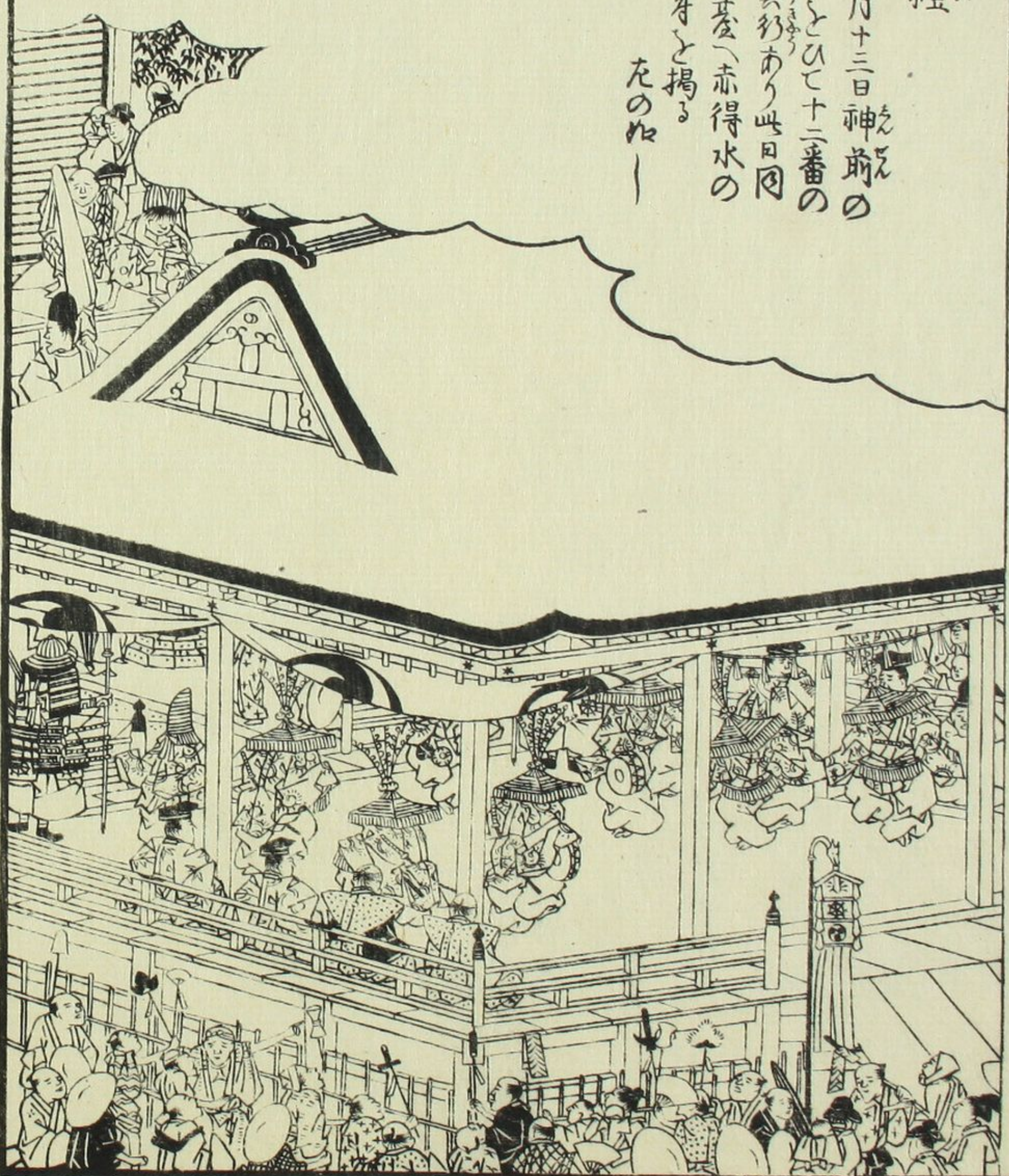
花慎の
 祭礼ハ
 今
 たり
 ぬるごと
 存せん
 古
 加
 摸
 写
 加
 小

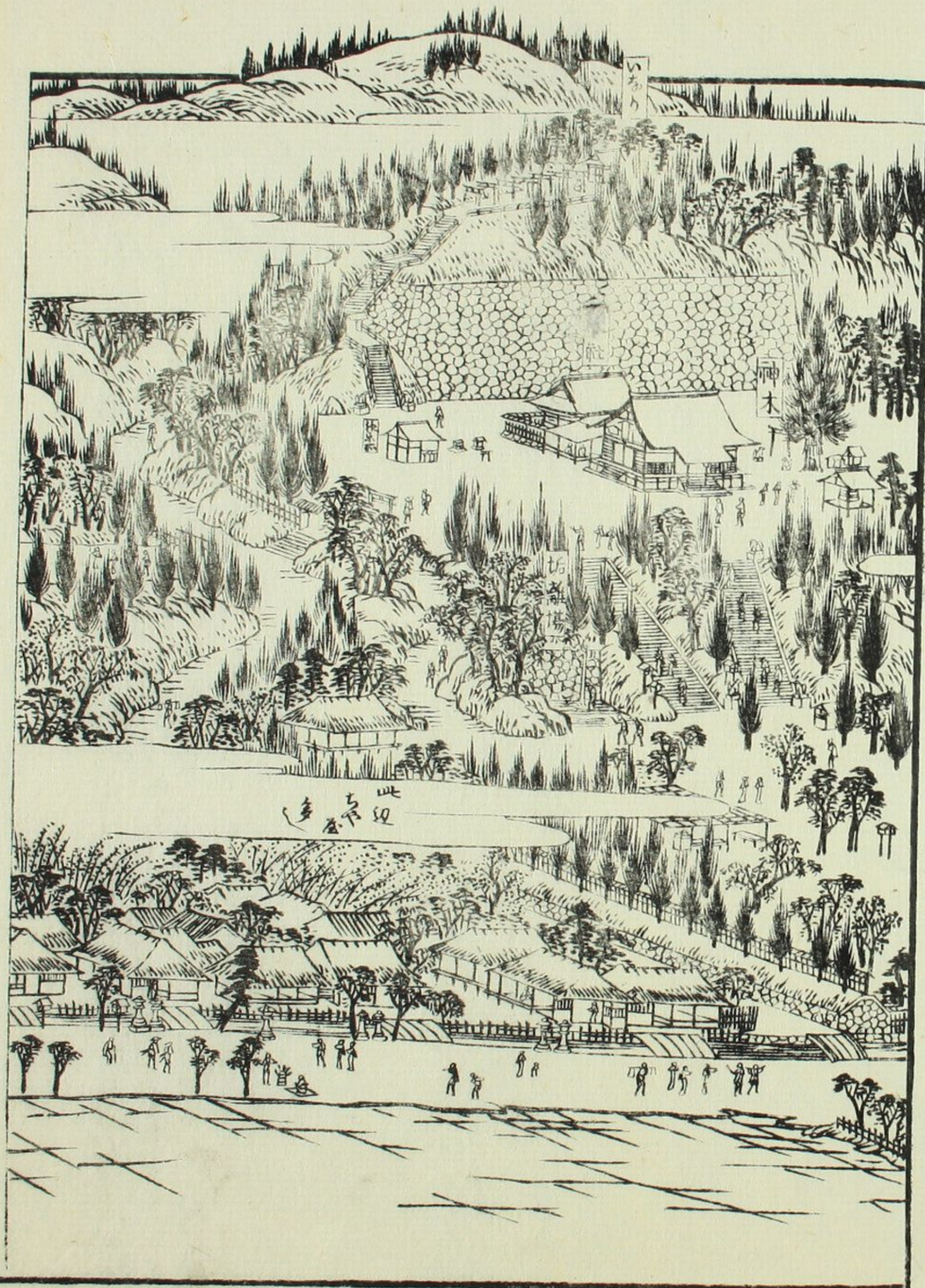
第一番 中門口
 第二番 道行腰作
 第三番 行違腰作
 第四番 脊摺腰作
 第五番 中居腰作
 第六番 三拍子腰作
 第七番 點禮腰作
 第八番 拾二度
 第九番 中立腰作
 第十番 搗符腰作
 第十一番 符流
 第十二番 子魔歸



祭禮

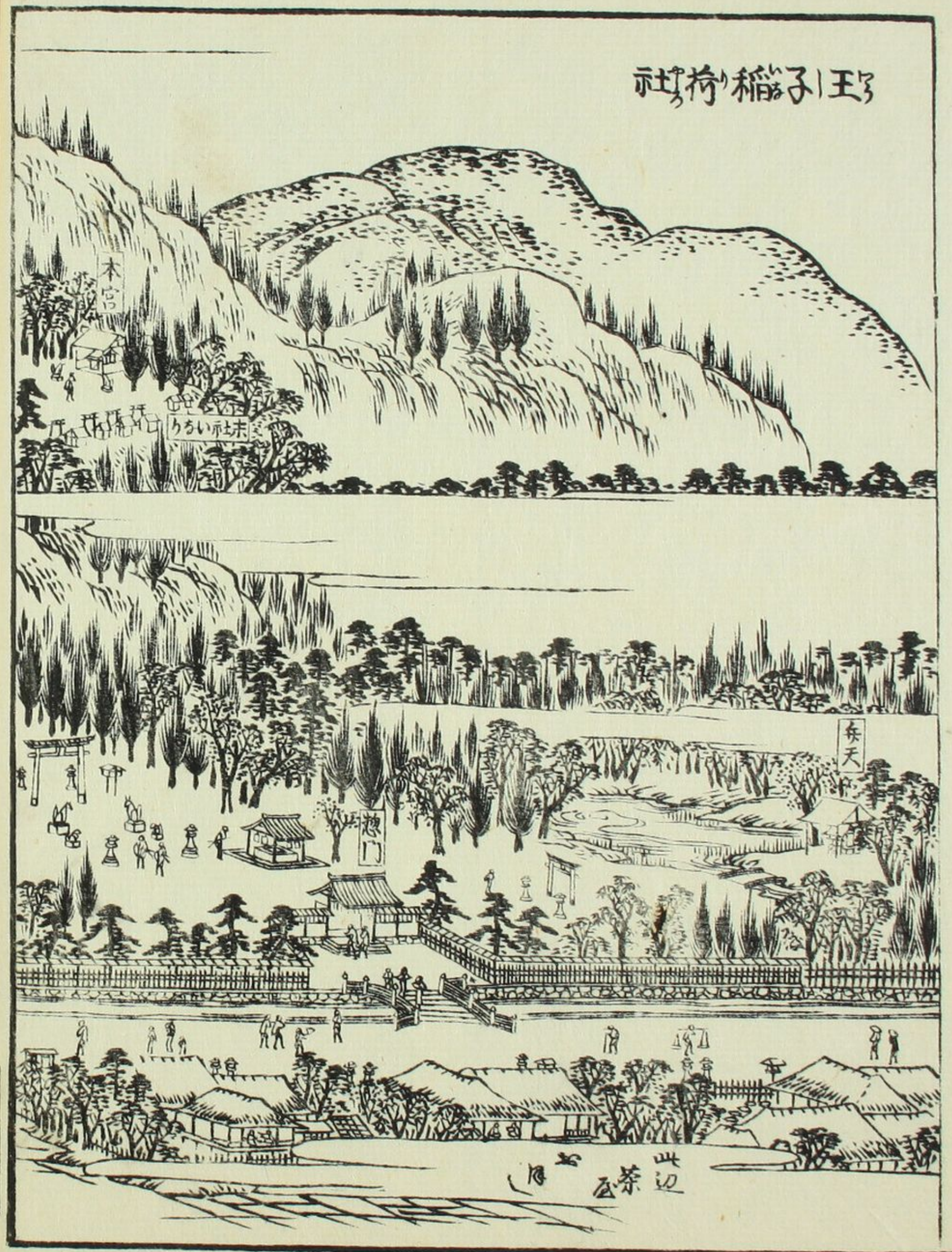
毎歳七月十三日神前
 祭禮
 掛板お真行あり此日同
 一 左の如く
 うける番身と掲る





此
邊
多
石

王子稲荷社

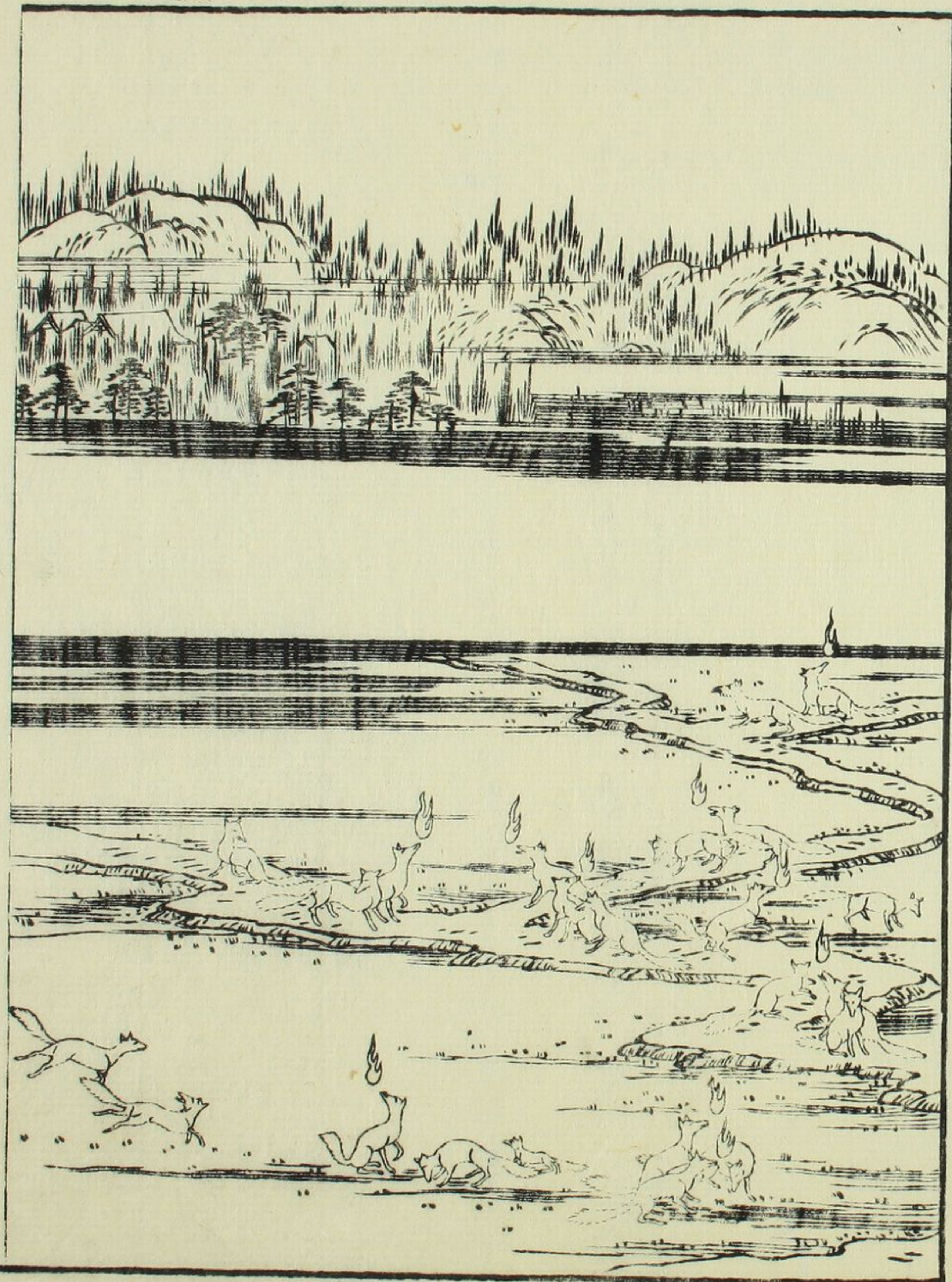


木
宮

王子稲荷社

天
宮

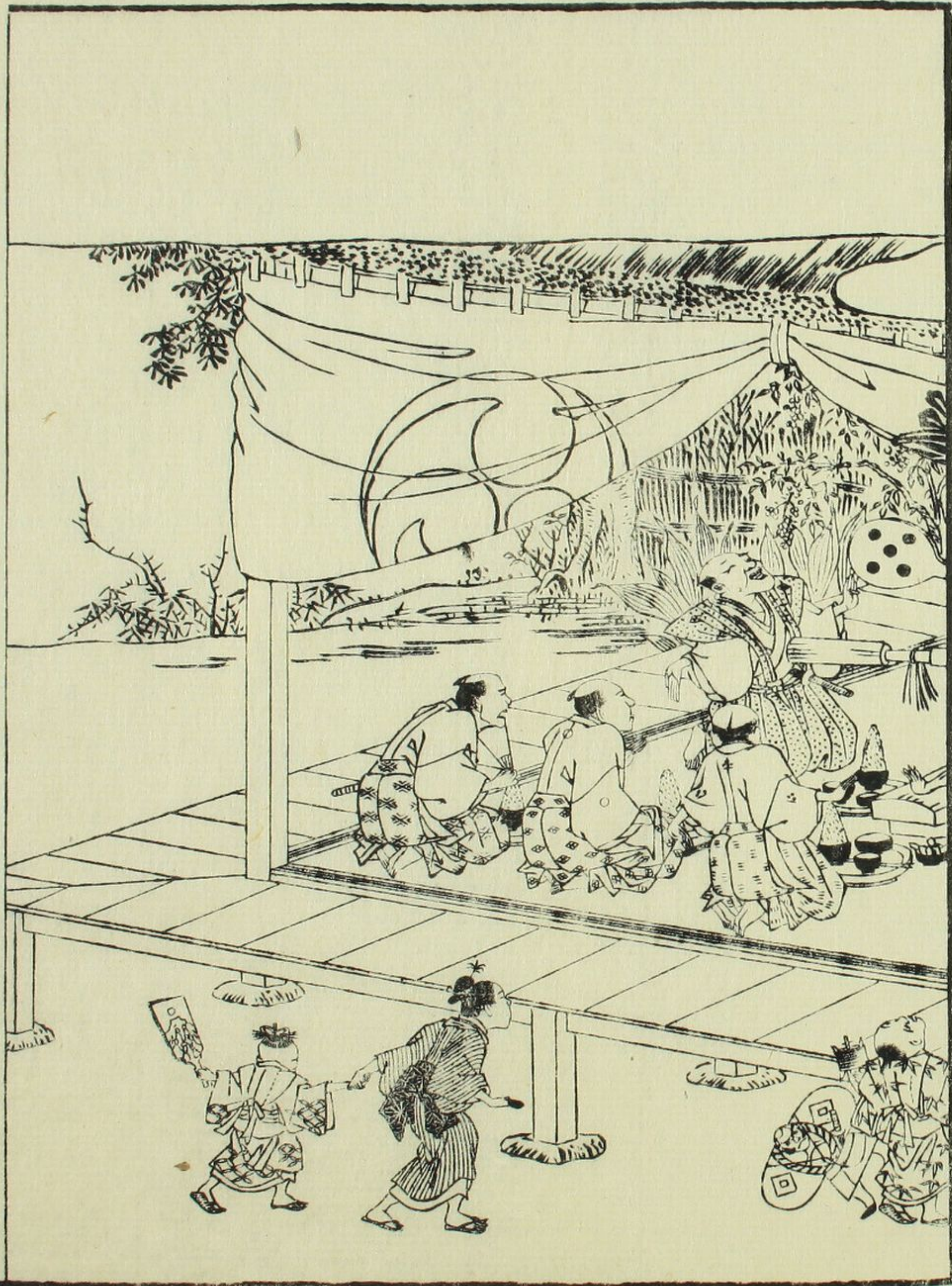
此
邊
茶
屋



幸くちとたけ
 は衣袋自
 衣袋櫃
 毎歳十二月晦日の
 夜諸方の狐火
 こみ集り来る
 恒例として今
 然り其燈せり火
 影ふ依て土民明
 年の豊凶とト
 と此事宵よ
 ありやの曉り
 何とて時刻定る
 事れ

十八講

毎歳正月十七日
王子村農家
是と行ふ當日
権徳の別當金輪
寺の住持と
資養半小して
當番の百姓村
飯釜魚盤の
三品と携り出て
のめとよいやさの
を聲とあして
食をまむむ
是此の舊
例として
十八講といふ
神領十八箇
村あり一頃の
旧村と
三二四



人の老命短あり深く相養と信し毎日侍てける命婦ら飼ける所あり必々命婦の時ハ先(社)檀は来り特し故に社人も批の来ると見ても命婦のやうに侍るとは命婦も年老世と退りて後ハ批と養ふ者も亦少く伊奈利と至り侍り社衆の人命婦と社と建て紀りしと一池せり是批と伊奈利の使者とせしよりと一ころあふ

当社ハ遠下とをまるといとも常小諸人絶月毎の午の日ハ珠更諸人群衆す二月の初午ハ其賑ひ言もさらなり飛鳥ののあよりより旗亭貸食舗或ハ丘に對し或ハ水ハ臨む軒端をつらねより實ハ此地の級系ハ都下ハあらは

禪夷山金輪寺 王子権現同稱荷兩社の別當寺あり康平年中源義家東征凱陣の頃新ハ當寺と管しとそ其頃奉納の鎧兜等今猶傳ててこゝあり
治承四年頼朝相養の宮ハ奉納ありしといひ傳の宝庫ハ併せ納るより一もて當寺昔ハ新義の真言宗あり
今當寺すあり
よりて天正年中相列小田原早川真福寺の宥養上人と権現の別當ハ補せられ此時より古義ハ改られ軍東一流の棟梁たら

一む 舞臺右義の五々寺ハ神護豆列越陽山船社院相別稱榎金剛院因圓大

五香湯 王子権現起日ある時説宣して五香の藥と授られしより其藥と眼

と傳へしといはるは是ははげしく神の恩徳甚厚なりしより其宮をハ龍宮の秘法

音無河 王子権現の麓と流る 擧ててハ名づく本名と石神井川といふ

武蔵石神井村三寶寺の池 下流ハ荒川といふ 世俗龍神といふハ流をハ龍神河村と

松橋辨財天社 王子権現の西の方三四丁とありあり奉尊ハ弘法大

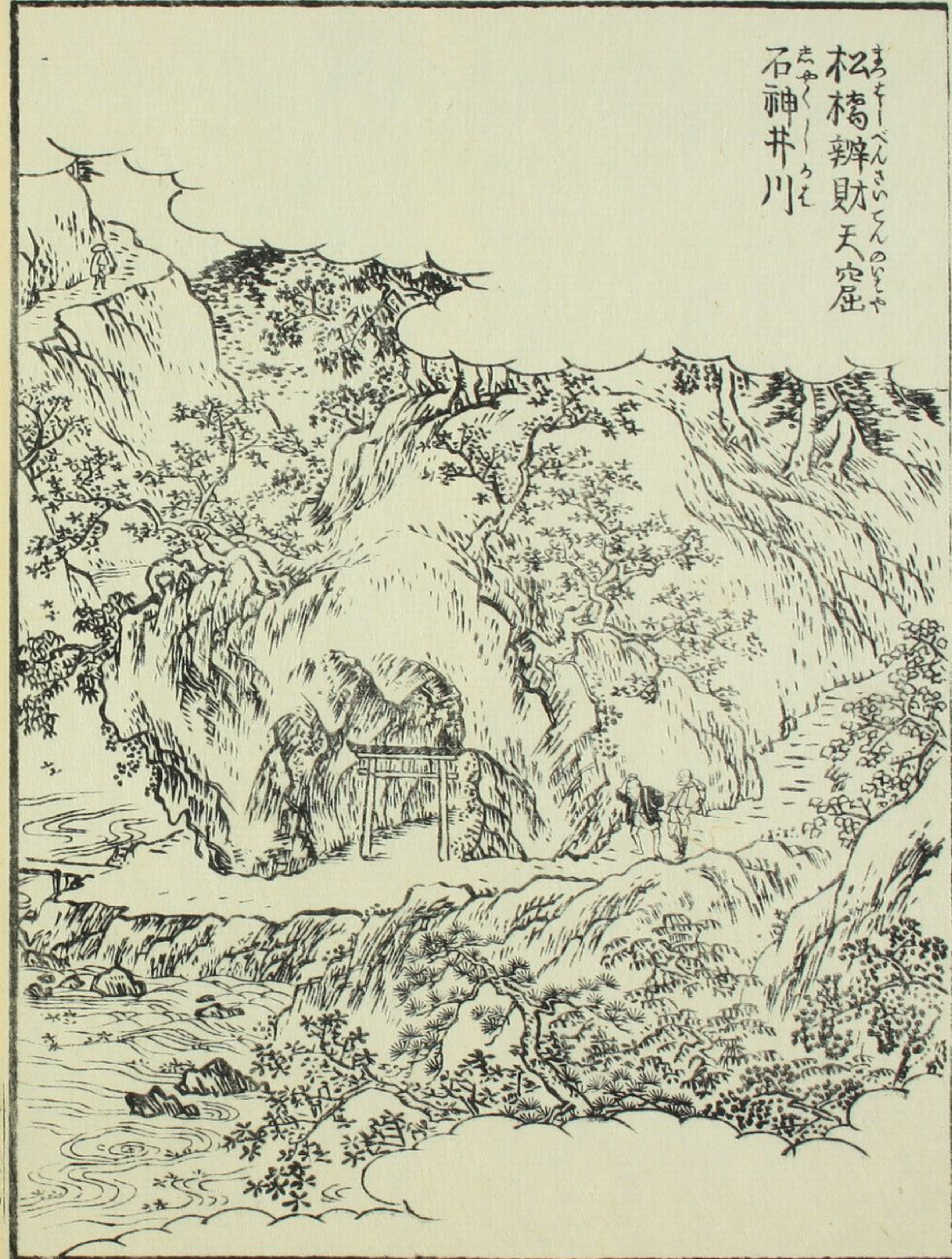
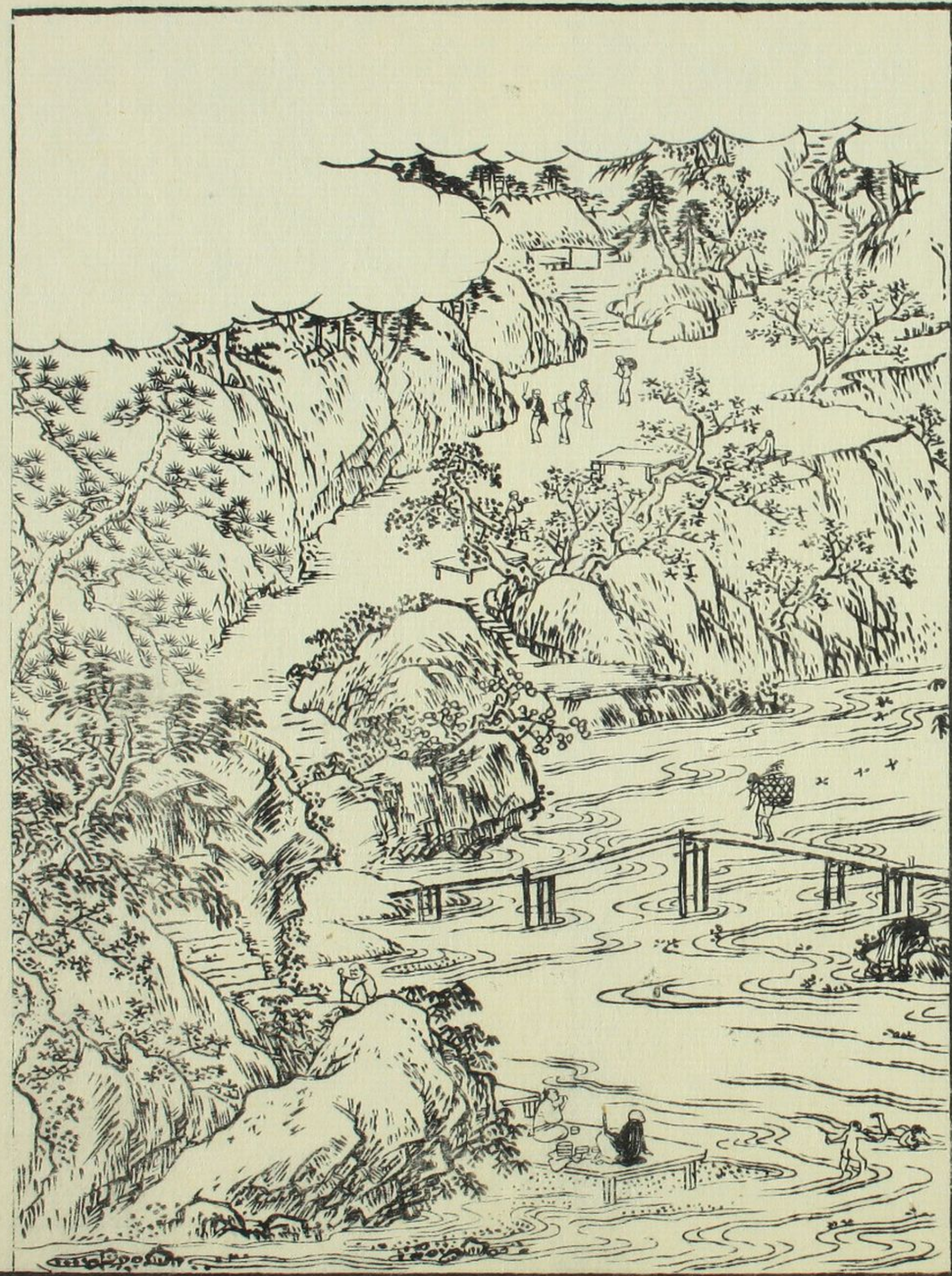
師の作もして昇大師の勸請なり此地ハ石神井川の流ハ臨む自然

の山水あり兩岸高く様柵の二樹枝を交へ春秋ともよまらわあつ

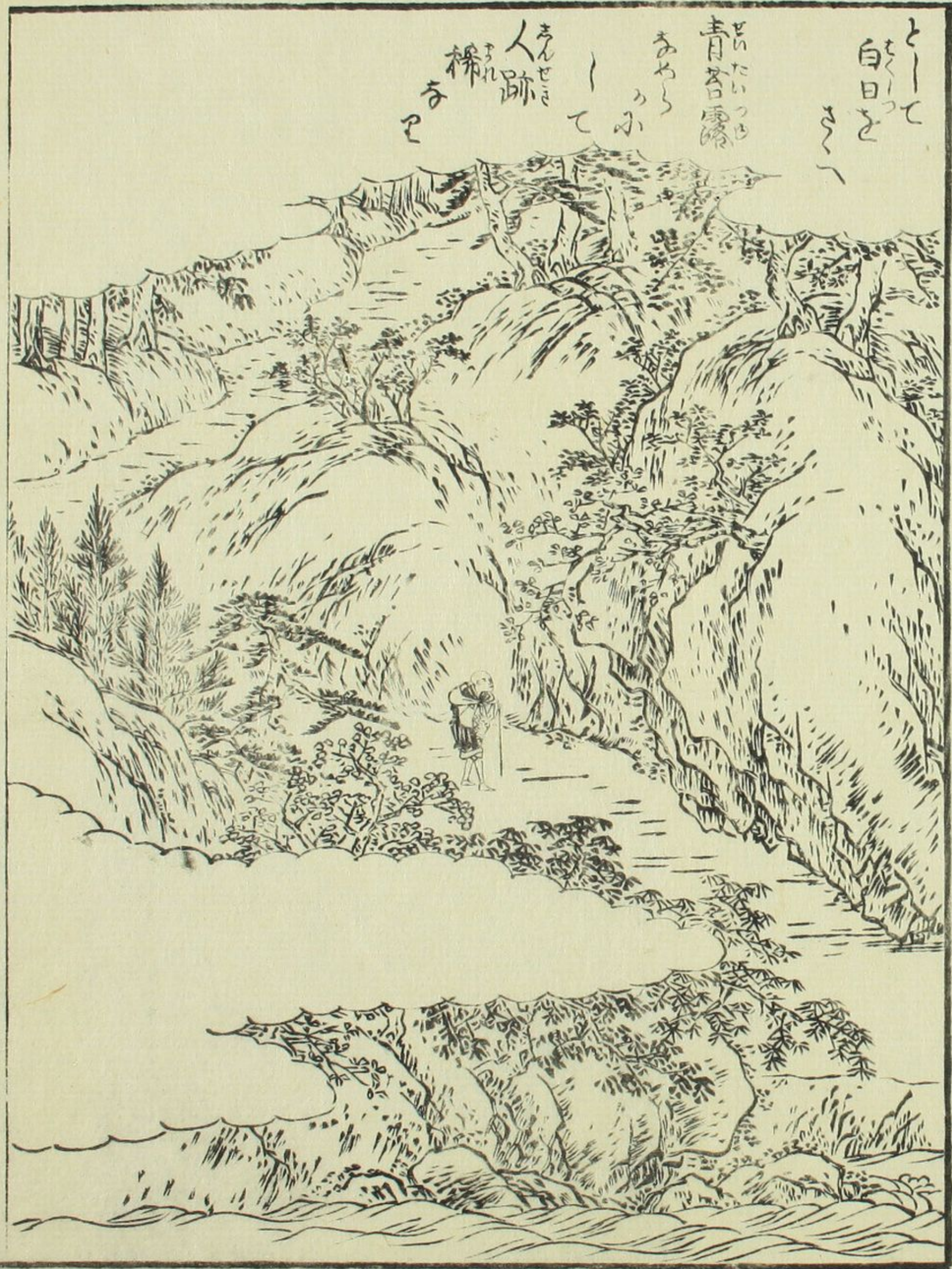
一勝地なり源平盛衰記ハ治承四年十月頼朝卿隅田河とうち

渡り武藏國豊島の上麓野河松橋といふ処ハ陣ととるとありハ

龍河山金剛寺 松橋院と号し 弘法大師の寢基より奉尊



まきべんさいてんのりや
松橋辨財天宮屈
まやくうえ
石神井川



とて
白日を
あわら
くふ
人跡
稀
青
苔
露



不動龍
泉流龍とも云
奉
正受院の本堂の
後坂洛
た
松十
飛泉
滝
消壁
趣
此境
常
蒼樹
禁

不動尊ハ昂大師の作なり其後ありの星霜と逢て荒廢
ふとよひ他の宗風ニ化せり天文の頃中興阿闍梨者印ありの
曩祖寔基の靈地として他の宗風ニ轉せし事と歎き其頃小糸
氏康小訟して再真言の靈區ニ復せしむと云

瀧不動尊 金剛寺の東ニ丁何まりあり此境後ハ石神井川
ニ臨りり寺成正受院と号く傳云弘治年中和カ勿龍門の奥ニ
學仙坊とある僧住て不動尊の法と修する事年あり或時靈象
成得て東國ニ來り此所ニ瀧のりりくふと觀て是を幸と
其傍小庵と結ひて不動の法と修せり去る小其年の秋洪水ニ
て此河影一く水のさますりりりり中ニ光あり水落るの後彼
光のさるるありと求る不動の靈像と得きり不例ニ感得
せしと云るこひ昂て小安置一奉ると云

自得山靜勝寺 曹洞派の禪宗として稻付小あり此地ハ右田道灌

間諺の居跡あり道灌亡ふるの後ハ狐兔の場一と云りけと中頃
萍水浮雲の僧あつて此小草庵と結ひ道灌寺と号す是當
寺の草創あり其後右家より當寺と建立ありて靜勝寺
と改む

觀音堂 奉尊十面觀音ハ飛養澄の作 久いたう 道灌入道の
景堂 木像と置

五葉松 南の山の中ニ有 龜 寺の後の方ニありむり此派より

抑右左衛門右主資長ハ 或ハ持資と号け初の名ハ源六郎此ハ元金吾と稱し羅髮
源三位頼政十世の孫備中守資清入道道真の子なり扇谷上杉

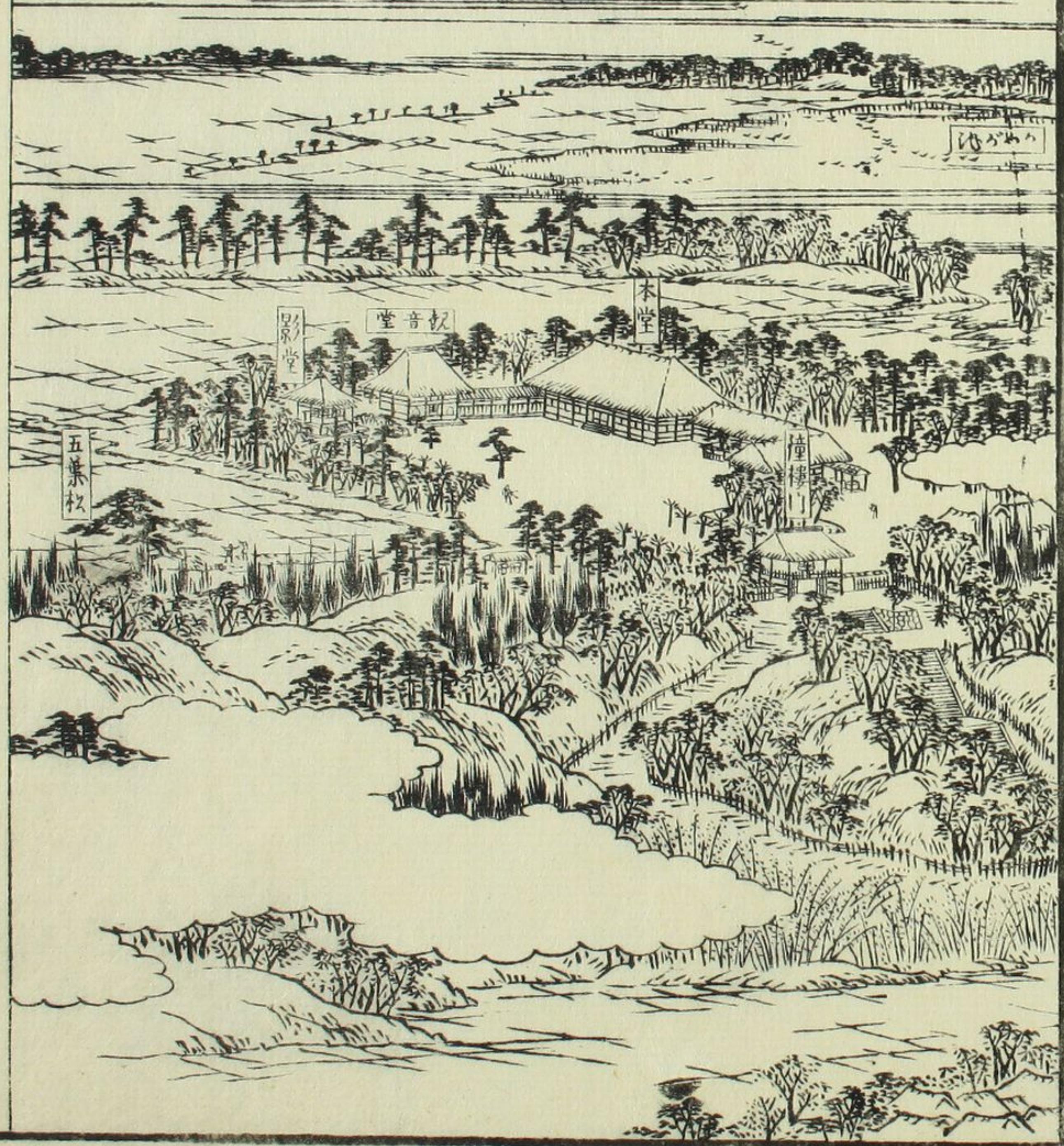
彼理右主定政ニ屬一江戸株ニ住す父と共に武毅勇烈察東
ニ覆小故人唱んで真灌と稱すまゝ城を築くは巧なり東
の株多ハ道灌の指圖よりて築所なり長祿元年武カ勿江戸株を
草創一株中ニ燕處の室といとる靜勝と名ほし西を合雲
といひ東を泊松と稱し和漢の書と集る事後千巻といふと

去るは常よて小在て詩歌をたしむ仍津北の菅神と勸請一祠
城建る今の津西平川此時兩上校府上校後理を夫定権とらるこひ
平小こそと終小間計を以て定正は道灌をうたひしむふふの川て
定正人とて灌と浴室小刺殺さしむ時小文明十八年丙午七月廿
六日年五十五歳相刃糟屋四目元よのそむて云く余を害するは定正は疾
の北なりとそたし定正威衰し再び振ひぬ灌をより先寛正年中
上洛す 勅してびさし其の勝景を伺しむ和哥と以て答奉る
露路並也方もありろり夕立の空よりひろさびさし其の原
又平生の眺金銭とそむむ
寂庵ハ松原つさ海をく富士の高根と軒端よとそむ
此時處感のあかり 御製とたまふ
むさし一燈の高萱のこと思ひしよかる言葉の花や咲らむ
又ある時 勅して角田河の都鳥とといひたすよよ

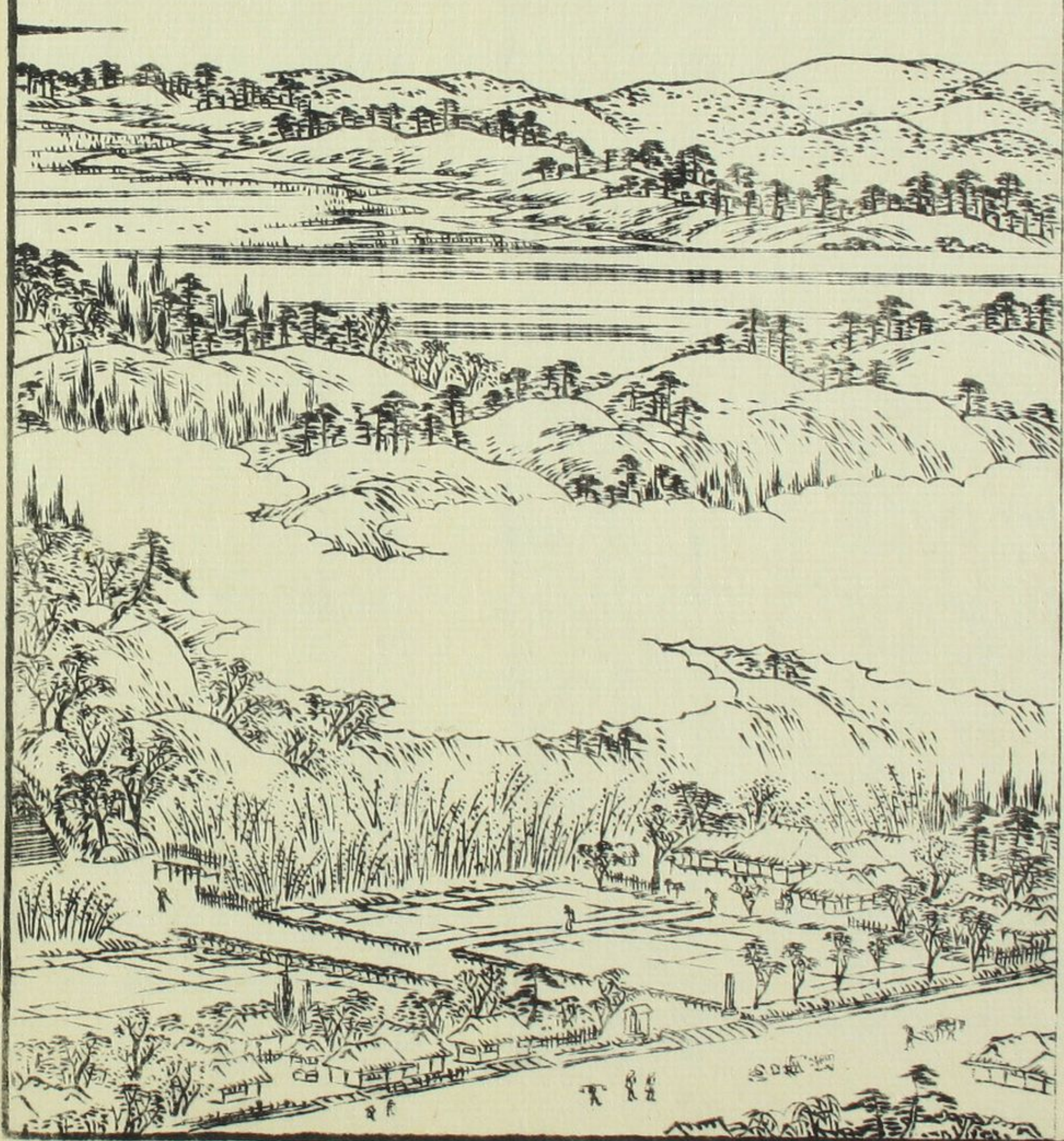
年かれとみかたうとあらぬ都鳥角田河系よ宿ハあれとも
其余の和哥ハ秋の集よやうと以てこよと畧ん
赤羽山八幡宮社 ありを存むらあり社傳云當社鎮座の年歴ハ
久きをよして詳をくゆとそ中右大い荒廢よとよひ一城文明の頃
太田道灌再興ありしより祭禮怠る事を一神宝よ獅子の頭
一個右に面二枚あり
川に渡 往古のころはち 義經記ふ九郎侍曹子真刃より鎌倉よ至りふと
いふ條下よ室の八島とを以て武藏國足立郡こらむらちよ著なりふ
侍曹子の侍勢ハ十五騎よそありふる板橋よをせ附て兵衛佐殿
へと向たりハせとひこを立せのひて候と申武藏の國府の六所町よ
つさて佐殿いと仰けれハせとひ通らせたりひて候相摸の平塚よこ
こそ申々ると云
按渡場よりそ丁程南のちの元は府中道と記せる石標あり是往右の奥の海道あり
是より板橋より府中の六所町より玉川と流りて相摸の平塚ハせとひなり

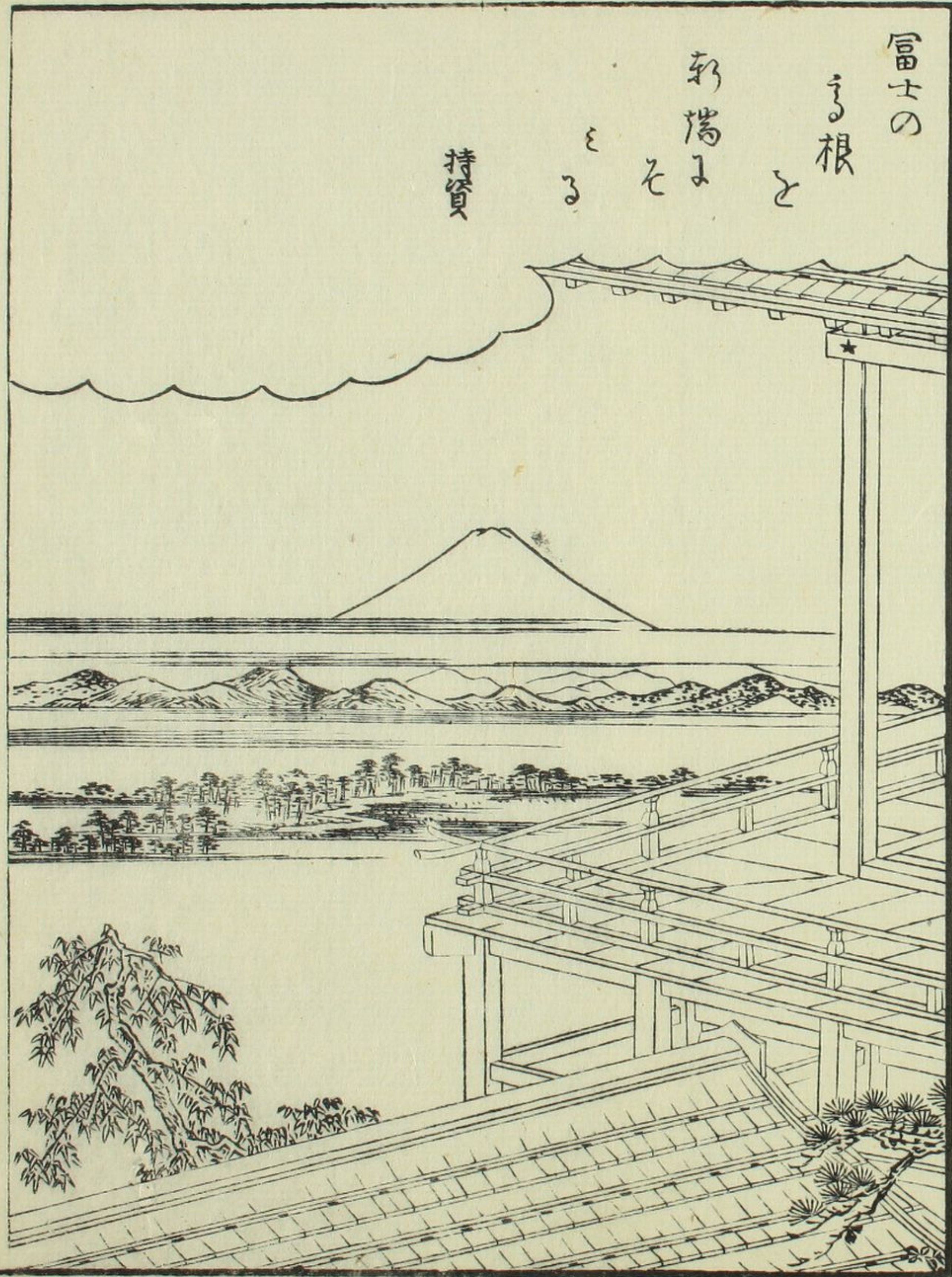
右當寺の八勝
あり杭波石正
倚の詩あり是
と畧ん

懸雲燈
圓通閣
灌公祠
梵鯨樓
古城坳
樓鶴壕
靈龜池
蟠松岡

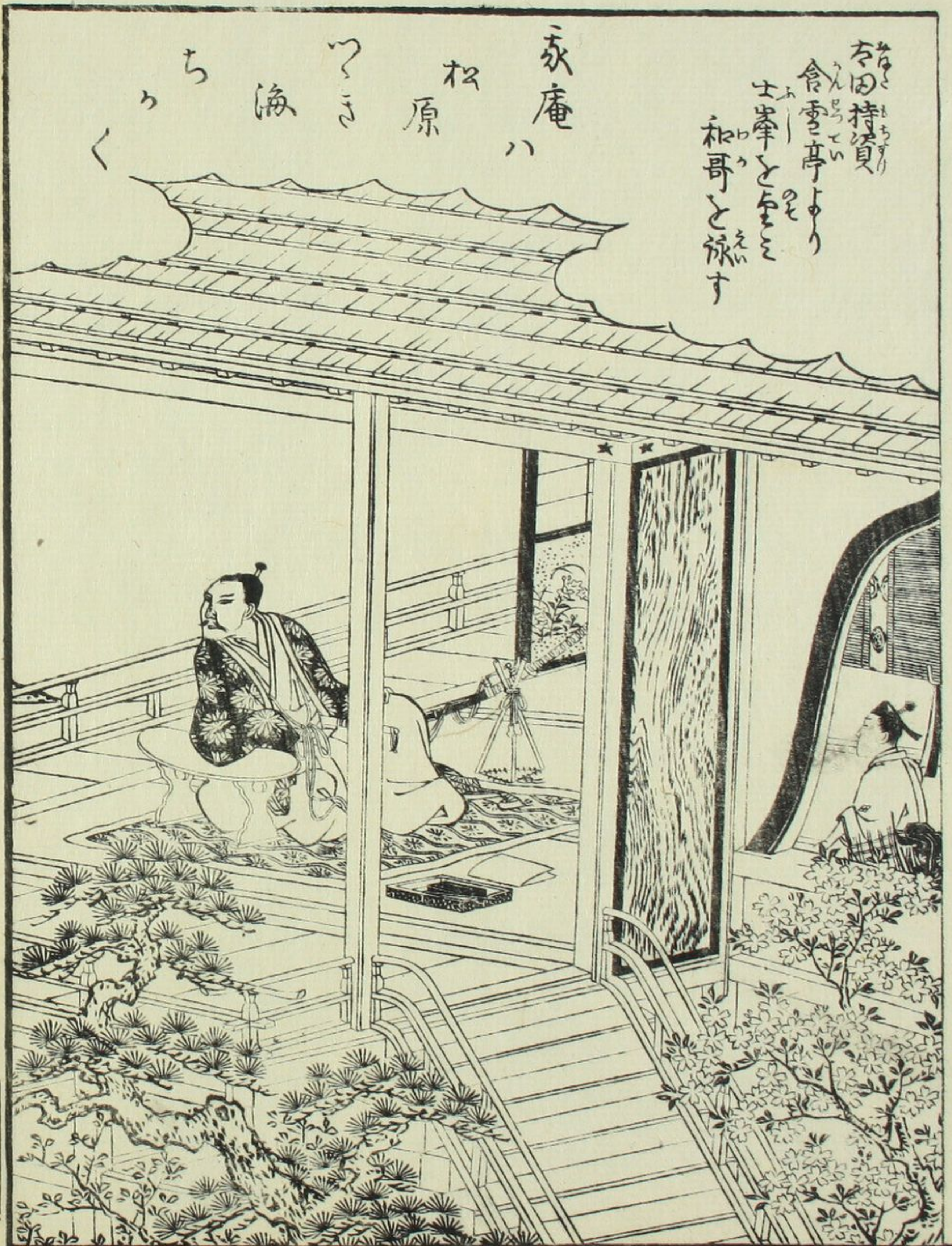


静勝寺
龜池
五葉松



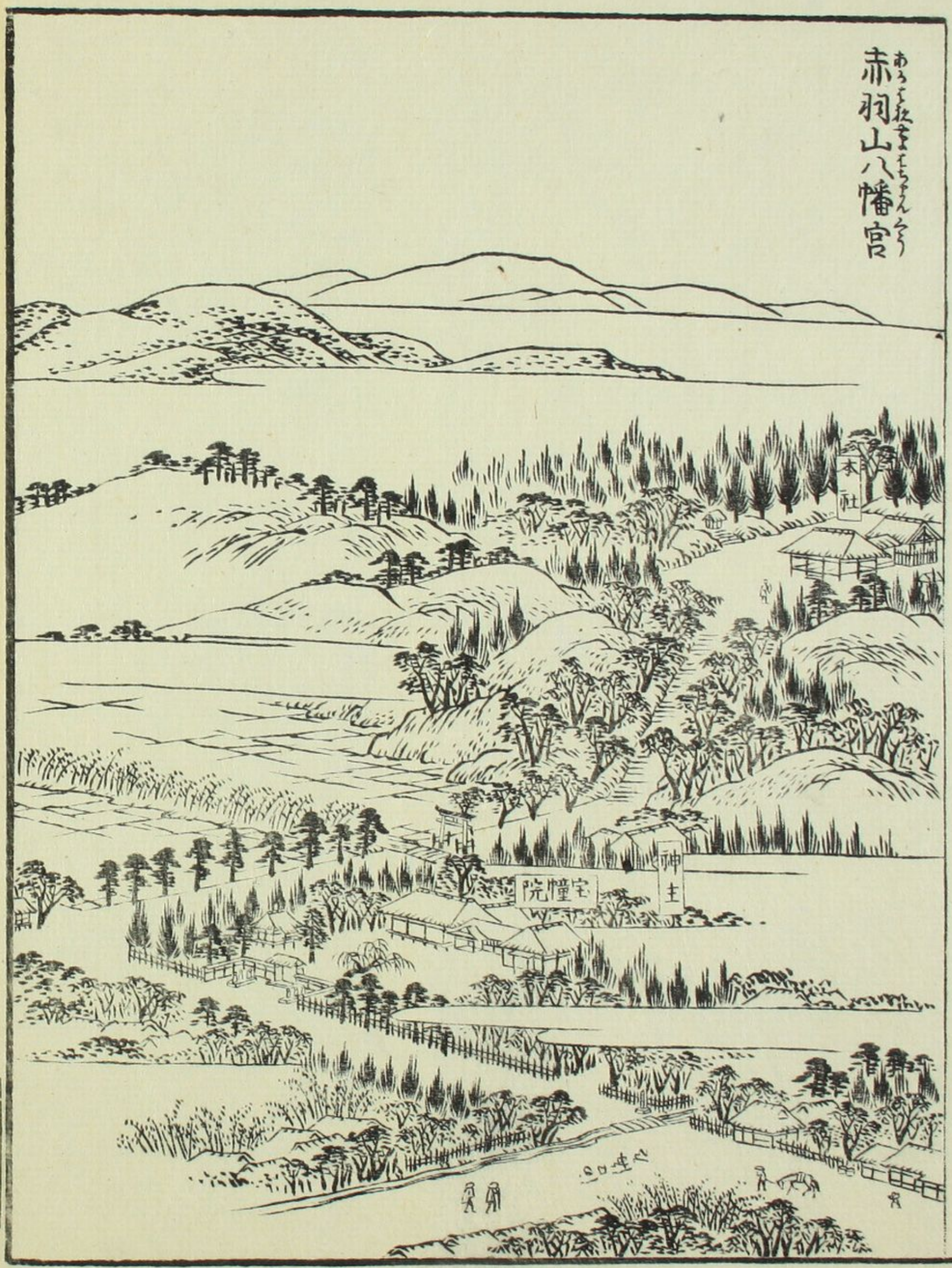


富士の
 根
 と
 新瑞
 と
 持賢



永庵
 松原
 海
 ち
 松哥と旅す
 倉重亭より
 士峯とを
 松哥と旅す

赤羽山八幡宮



川口善光寺

川口村渡場の北よりあり天台宗

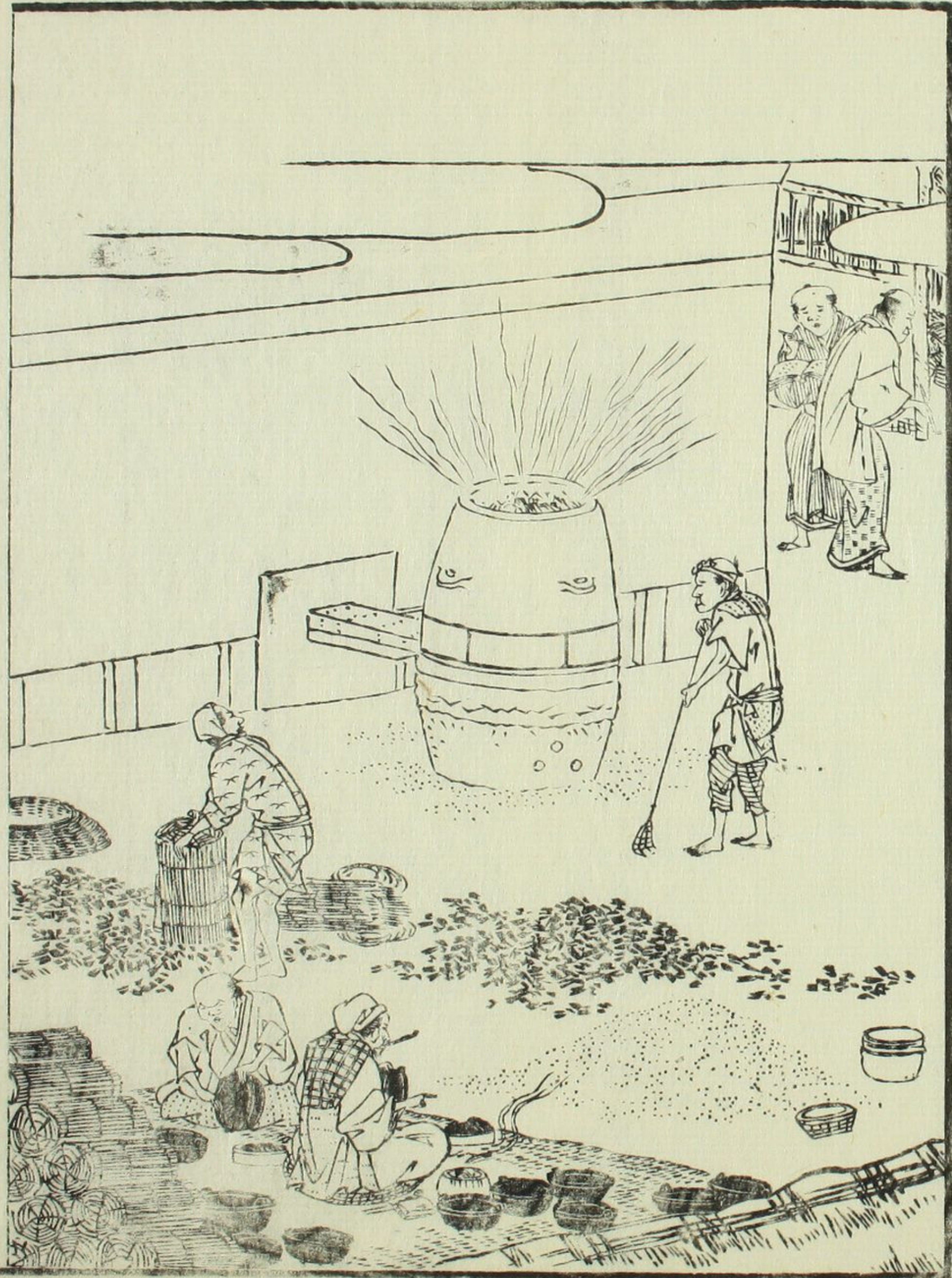
平等山阿弥陀院

と号し奉堂より阿弥陀如来観音執事一光三尊と安す寺傳曰
 往古定尊といふゆ門あり法華經と誦する外池を建之五年
 の夏一時睡眠の中は信の善光寺如来の靈告を得る事あつて速に
 かこよまふて正しく如来の聖容を拜し示現に依て十方を觀る
 財施と集金銅と以て中尊阿弥陀佛と鑄奉る時は建久六年
 己卯五月十五日あり 佛の胸中より三寸五分の水晶の宝塔とこめ
 二脇士観音執事至の二尊と鑄奉る終に堂宇を建之て善光寺と
 號し 清吉に依て四十八日の間四十八度の天眼供養と修行しけり
 二王門の額より平等山とあり黄壁木庵の筆あり

豊島驛 今豊島村と号する地其旧跡ありて往古此郡の府あり
 一と号し續日本記に武藏國衆樞 今其所と云く 豊島の二駅の事と
 峯たり又和名抄に武藏國豊島郡とあり中驛家と記せらるる

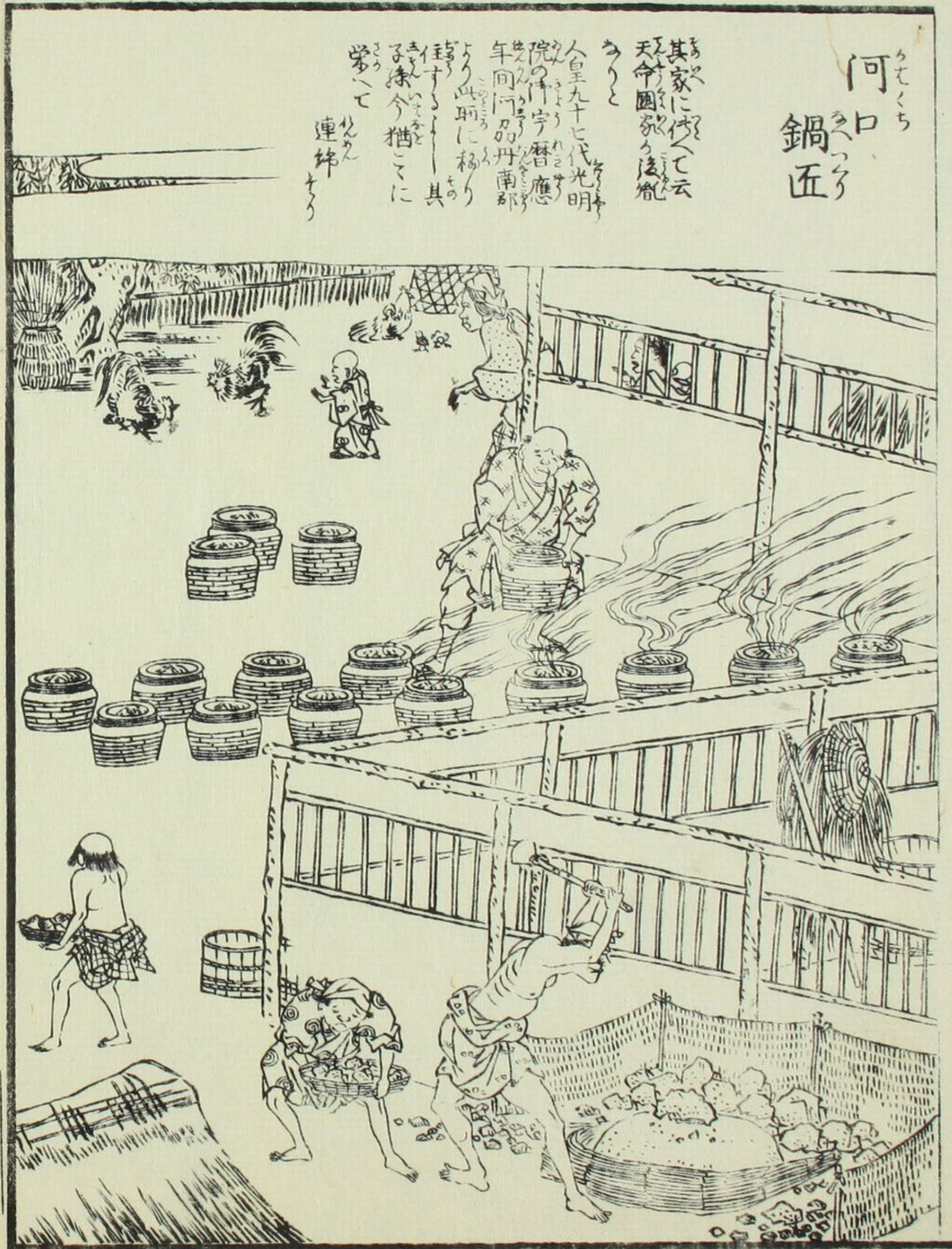


川口
善光寺

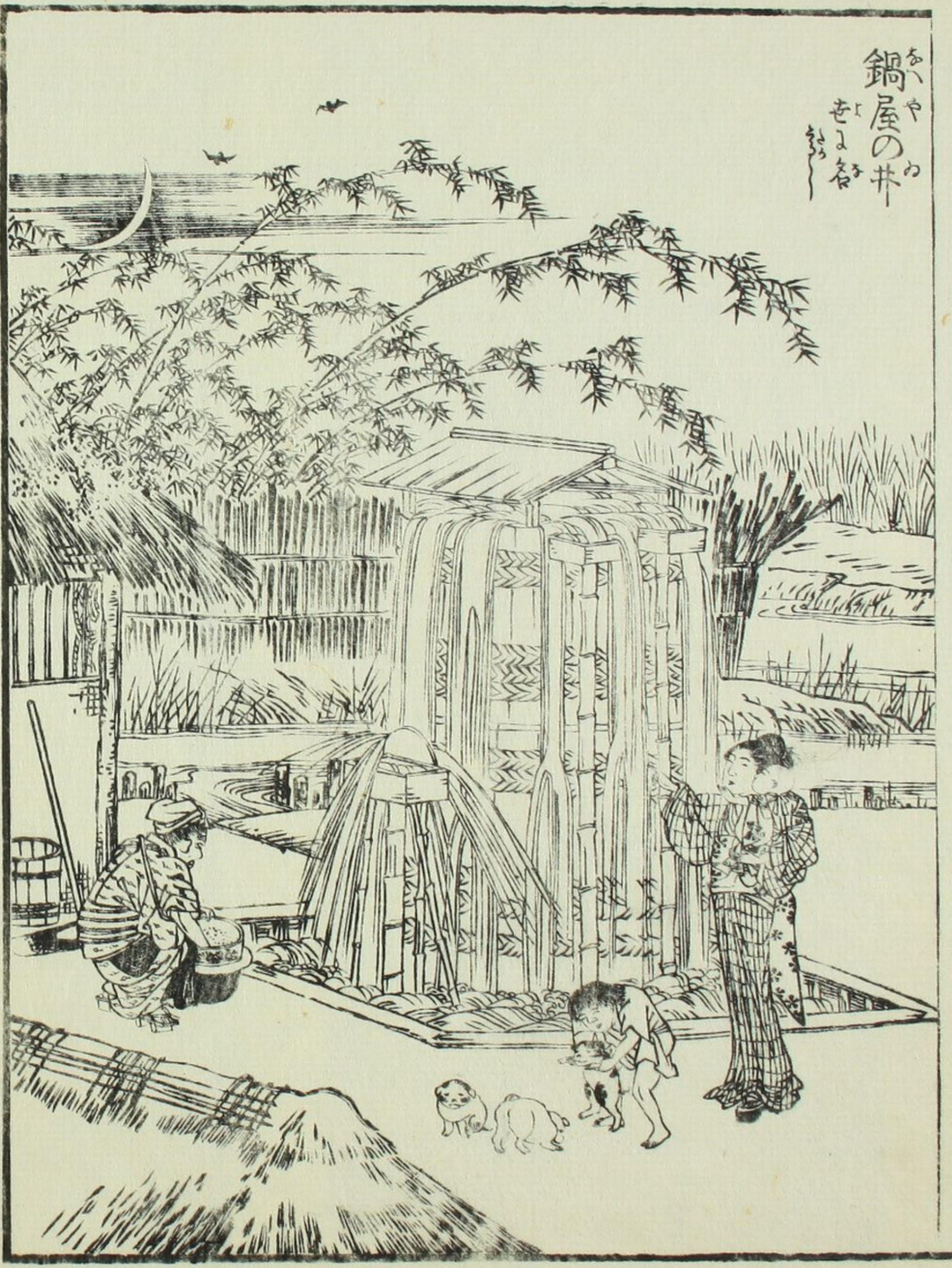


河鍋匠

其家に傳へて云
天命國家の法
天皇
人皇九十七代光明
院の御宇應
年向河丹南郡
より此所に移り
住す其
子孫今猶こまに
學んで
連綿



鍋屋の井



此地をらん欽或人云豊島系僧は後河内院宇を島を昇義道と云一人此れありて
 大宮三屏盛貞豊島又を屏時光と此誠國豊島を食谷と相傳はる大宮の有忠四羊と打
 虎衛門新義經舎前平古衛門泰明平塚の珠ありて道灌といとと戦ひ地は討死し明十年
 正月落珠すとあれ文明の頃ハ豊島村の地あり住せり一あん永保年中北条多限帳よ
 々同新六屏知行の中よはた豊島の地をさかへ按よ永録の頃ハを田新六屏知行
 せりとつたなり

三縁山西福寺 豊島よりあり禪宗よりして行基菩薩の完基あり奉尊

阿弥陀如来も同化あり 豊島権頭清光建立あり七佛の隨あり 當寺ハ六阿弥陀尊壹番目よ

一て是と元木のぬ來と云縁起あれとも未詳ありは四巻目小石川

光圓寺の条下と懸一合せて見ると

梶原塚 梶原堀内豊嶋川の浜曲堤の奉あり

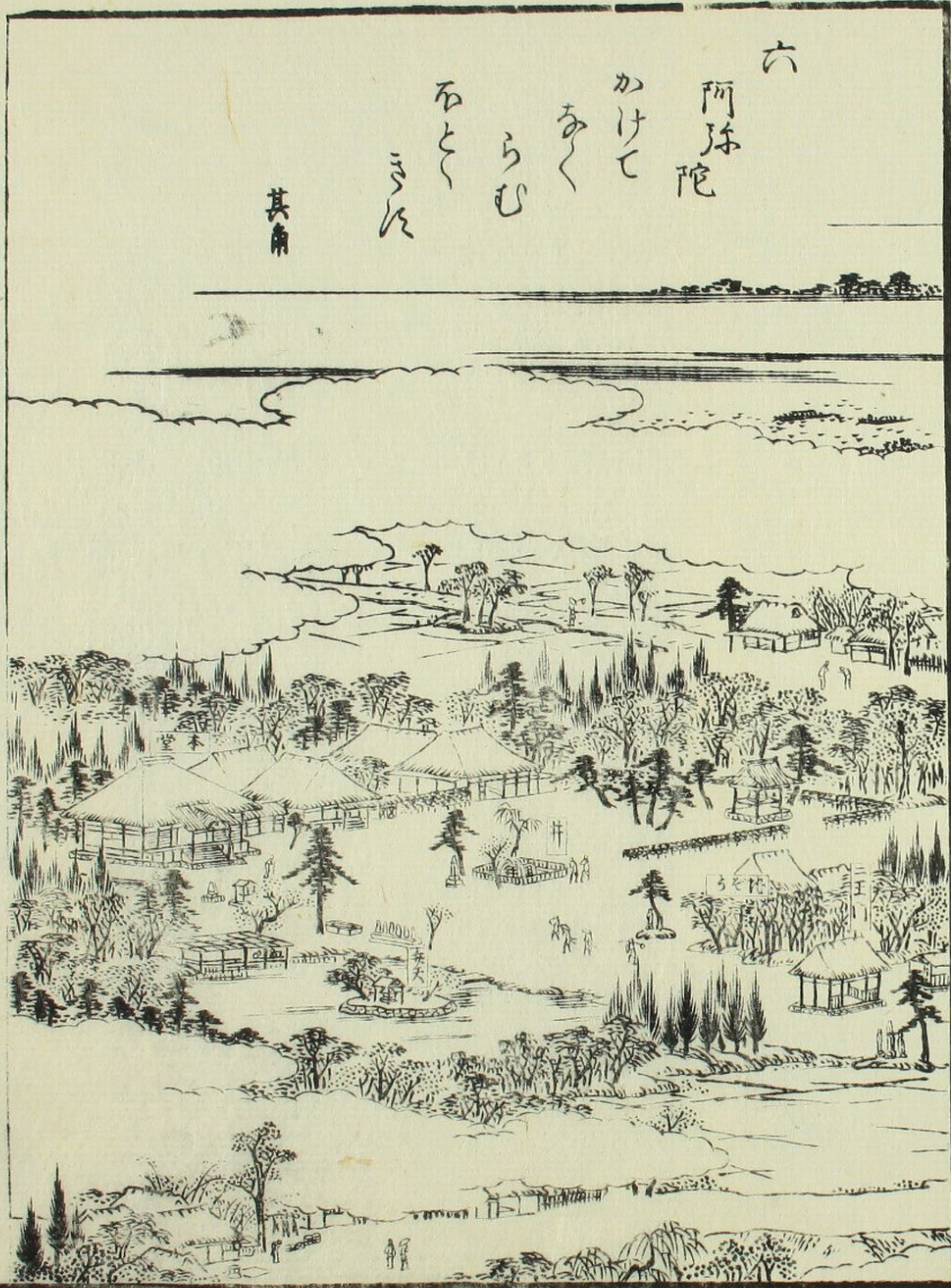
此塚ハ右美濃守入道眞正法名道基又三樂齊と号すの次男梶原源を政景の

墳墓あり 梶原上總介の後家養子とせ 享保の頃返ハ石碑石檀あり一り

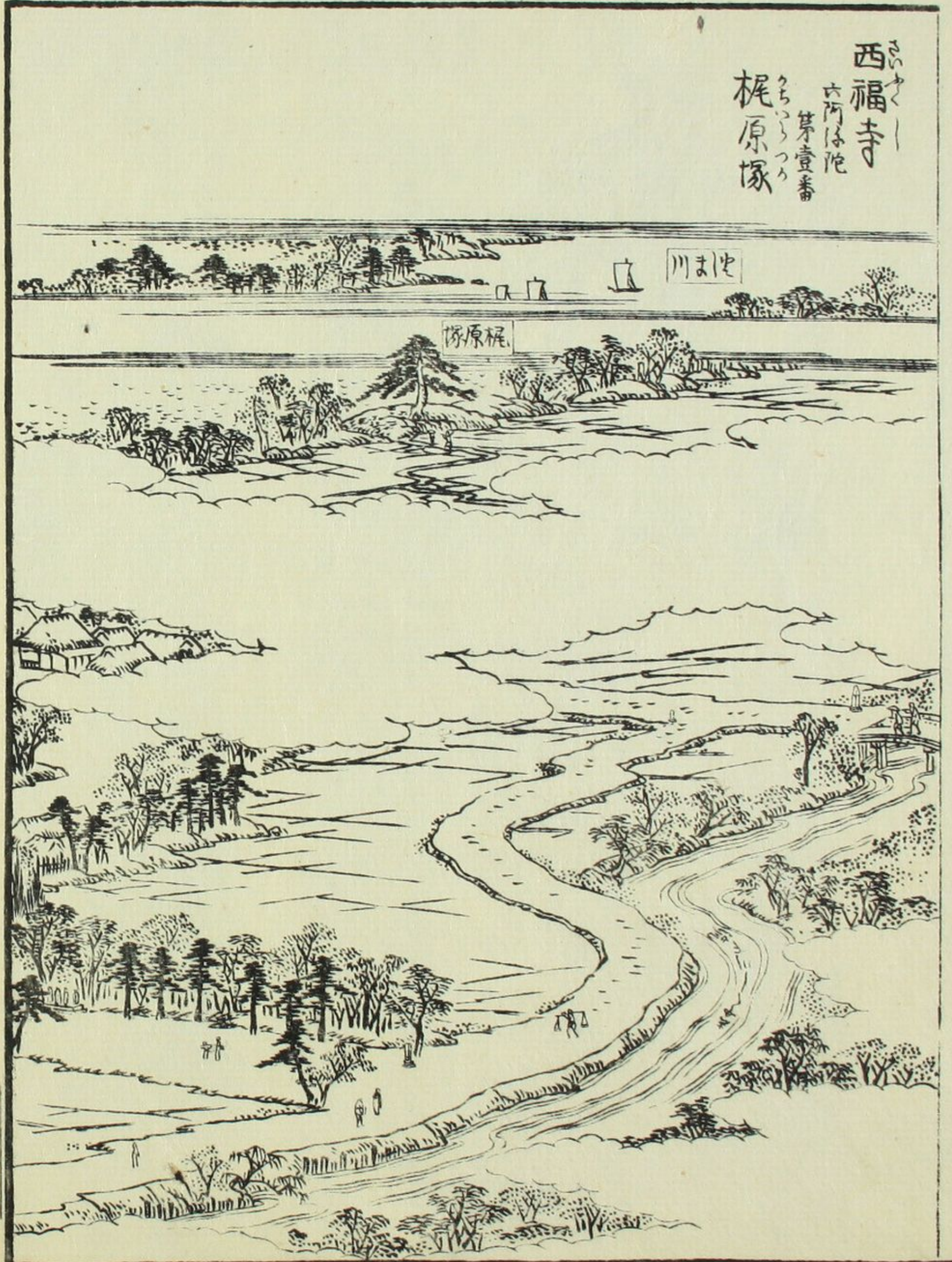
洪水の時豊島川崩れ込けりとして今ハ小巻の中よ一株の杓のこ存

せり 永保二年小巻分限帳よを田新六屏知行の内よ 又平塚明神の北花鳥山

梶原塚内よて洗はれぬの地と云なり



六
 阿孫 陀
 かけて
 あく
 らむ
 石とく
 みる
 其角



西福寺
 六河は陀
 茅壹番
 梶原塚

川まじ

梶原塚

梶原塚



の麓に今梶原屋鋪跡といふ所あり按之は是も政景の身

宅の地ありん

鷲首王山清光寺

豊島村あり

真言宗

豊嶋権頭清光の定

基あり奉尊不動明王ハ清光建之あり

七佛の隨

あり清光ハ頼朝

の家長

當寺ハ則清光舊館の地ありと云

今も當寺構の外ハ殿を

釋迦堂

七佛の中あり

豊島を帝康家同権頭清光墳墓

同所ハ古松一株あり土民是を

稱して豊嶋の大松といふ

康家ハ清光の

紀の明神社

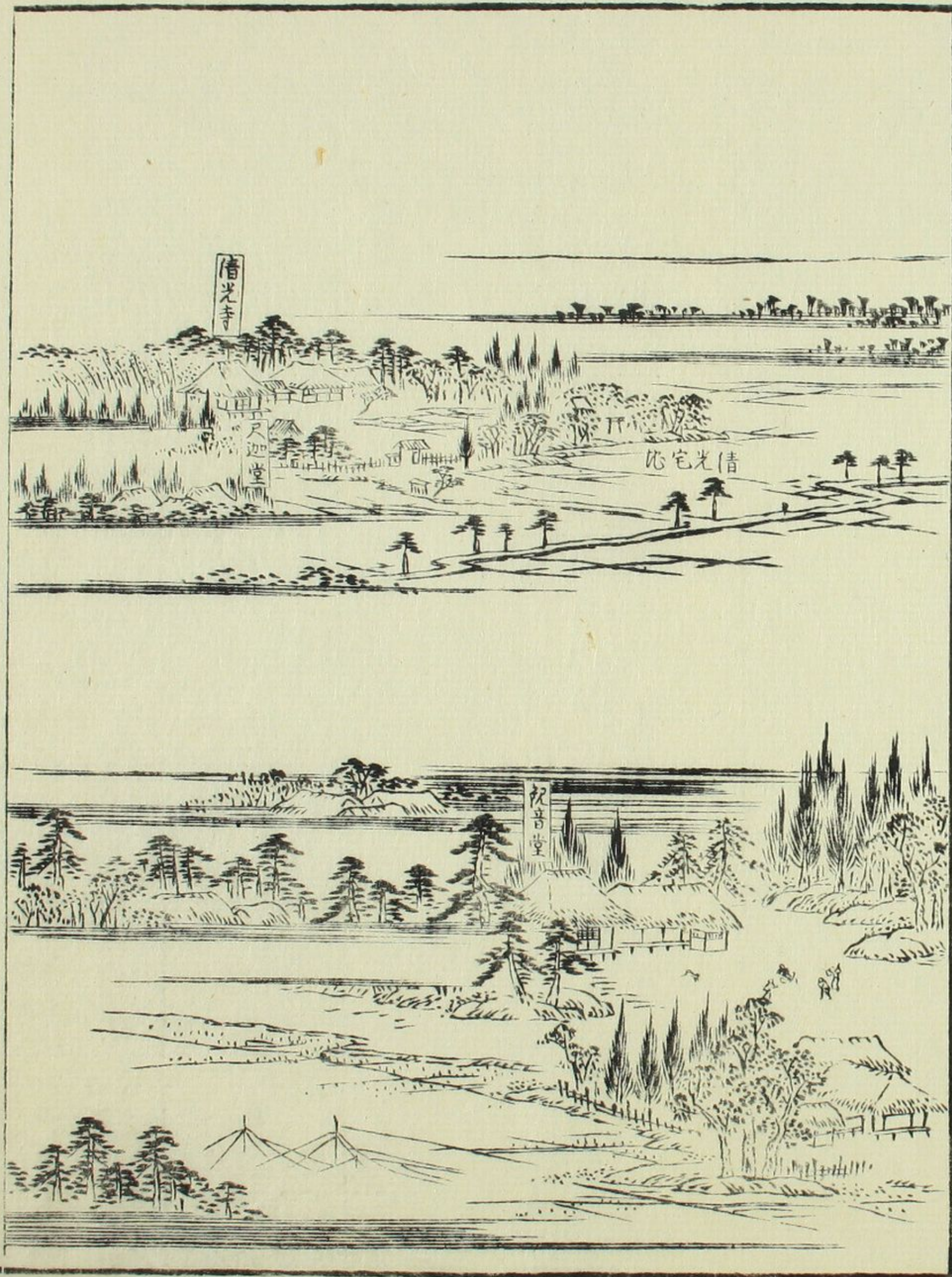
清光寺より三丁を隔てあり祭神ハ五十猛命大

屋津姫命 抓津姫命 三坐あり

日本紀神代卷一書曰、素戔嗚尊之子號曰五十猛

命、妹大屋津姫命次、抓津姫命、凡此三神亦能分布

社傳云、往古豊島氏某王子權現と勸請せし頃、彼地の未社



紀伊明神社
 清光寺
 若宮八幡宮
 豊島川
 地蔵堂



鎮坐ありけりよ破あつて天文年中今の地小宮居と移せしと當社ハ
 昔より豊島村の産土神として祭例ハ毎歲九月十八日執行社司於本社の
 紀功より来る彼地ハ名司の觀音堂因所あり奉尊ハ昆首羯摩ハ天の佛ありといひ此地も
 後裔ありといひり昔ハ清光の境内に清光建去あり七佛の中あり七
 地藏堂 豊嶋川の端あり龜島山専祿院と号し奉尊地藏菩薩ハ
 行基大士彫刻の靈像として豊島左衛門尉清光建去あり七佛
 の一あり宝永二年乙酉祐天大僧正此地の住人白倉四郎左衛門といひ
 りの助よ依て再建し一ハ同年正月廿七日入佛供養あり僧正其願
 群衆の男女十念授與ありし舊跡あり又堂内は祐天僧正自ら
 冥眼ありし六拾九家の壽像と置名号と添らる俗是と稱して地掛の名
 訶羅多山地藏尊是も僧正の奉地佛として自ら冥眼ありしとあり
 若宮八幡宮因所を島川の端あり當社の豊島權頭
 清光の靈と添るところあり

終畢

江戸名所圖會玉衡之卷

至子横山町 成内頼一郎

